



研究者情報 研究シーズ集

2025

ISHIKAWA PREFECTURAL
NURSING UNIVERSITY SEEDS



石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

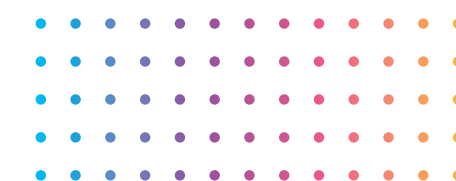
研究者情報・研究シーズ集 2025

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地

TEL 076-281-8300(代) FAX 076-281-8319

E-mail : office@ishikawa-nu.ac.jp

<https://www.ishikawa-nu.ac.jp/>



石川県公立大学法人

石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

研究者情報 研究シーズ集

Ishikawa Prefectural Nursing University SEEDS

Contents

MESSAGE	02
What are SEEDS?	03
研究者情報の目次	04
研究者情報	07
研究シーズ集	65
キーワード検索	76
大学紹介	78



石川県立看護大学の 教員たちのシーズ集への期待とは？

石川県立看護大学 学長 真田 弘美 SANADA Hiromi

能登の震災を経験して強く思うことは、これからの私たちが立ち向かう未来は、自然災害、温暖化による気候変動、そして、それが引き起こす政治・経済的な問題による国家間の紛争など、さまざまな不安定要素を抱えながら、予測ができない状況にあるということです。

我々が目指す看護学のミッションは、この不安定な時代に生きる人々が自らの健康を護り、尊厳をもって自立・自律していける社会をつくることです。そのために研究は不可欠です。これからの医療を支えるため、様々な領域の研究者による協働、次世代をつくる大学院生の育成、さらに、産学連携による新しいプロダクトの開発、それに災害に備え科学的なシステムの構築など、いわゆる「チームサイエンス」をぜひ、実現したいと思います。高校や中学生の生徒から、大学人としてセカンドキャリアを積まれるシニアまで、どなたでも、仲間になってくださる方、ぜひ遠慮なく研究室のドアをノック（メール）してください。当学教員は心よりウエルカムいたします。

今は、日本だけでなく、他国からも我々が持つシーズに興味を持って集まってくれる大学院生、企業の方々が増えてきました。石川県立看護大学は総力をあげて、このシーズを開花させ、現場に届けます。「老いることもわるくないな」と思える社会を一緒に創りませんか。

看護は、**看**て、**知**り、**探**求することで必ず**進**化する、そして多様性の社会を生き抜くためには、**看**るを**越**える、さらに我々は社会を巻き込んで**未**来を**看**る。これが当大学教員全員の志です。

「シーズ」とは
未来を産み出す
「種」のこと。

大学で研究されているアイデアや技術は、新しい事業や産業を産み出す芽となり、未来の社会を形作ります。こうした革新的なアイデアや技術は、花開き・実を結ぶ可能性を秘めた「種」になぞらえて「研究シーズ」と呼ばれています。

石川県立看護大学では、基礎から応用まで、看護学を中心にさまざまな研究が行われていますが、この「研究者情報・シーズ集」では本学の研究者とその研究内容を紹介します。

このシーズ集は
誰のために、
そして何のために？

私たちは、本学の学生・院生となって研究の種と一緒に育ててくれる仲間、本学の研究を利用して研究や事業化をしたい企業や行政、研究者などのパートナーを歓迎します。本学の多様な研究の中には、あなたの興味・関心に近い研究、あなたが思い描く未来を実現できそうな研究、あなたの仕事に役立ちそうな研究、あるいはあなたが考えたこともないような新しい刺激を与えてくれる研究がきっとあります。この冊子があなたと私たちの「研究の種」を結ぶ出会いの場となることを願っています。



科目群		職名	氏名	研究のポイント	ページ
		学長・教授	真田 弘美	年を取るのも悪くないと思える社会の実現に向けて	08
人間科学領域	健康体力科学	教授	垣花 涉	身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果	09
	哲学・生命倫理学	講師	中嶋 優太	日本で最初の哲学者、西田幾多郎の思想を通じて、私たちの思考の背景を探る	10
	心理学	准教授	松田 幸久	目を開いた時に生まれる、この世界が間違いなく存在するという認識	11
	人間工学	教授	小林 宏光	ヒトの生物学的理解を基盤として現代社会の生活・環境について考える	12
	英語	講師	工藤 義信	教訓詩の内容とその翻案の諸相から、中世イングランド社会の人々の価値観と書物文化を考える	13
	情報科学	講師	佐能 唯	感覚や経験など可視化し、工学からのアプローチで医療・看護のサポートを目指す	14
健康科学領域	機能・病態学	教授	平居 貴生	時計遺伝子を制御する機能的分子を見つける	15
		教授	今井 美和	若者のHPV関連疾患を予防するシステムづくり	16
		准教授	市丸 徹	動物の行動をていねいに観察し、その背景にあるメカニズムと意義を探る	17
	保健・治療学	教授	岩佐 和夫	骨格筋にひそむ免疫制御機能を解明していく	18
		教授	今井 秀樹	化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題	19
基礎看護学講座	基礎看護学	教授	石川 倫子	不確実性の時代に即した持続可能な組織開発・人材育成を探る	20
		准教授	寺井 梨恵子	看護師の視覚情報に関する観察力と臨床判断能力の向上を目指す	21
		講師	田村 幸恵	心不全パンデミック！75歳以上になると循環器疾患の死亡数はがんより多い	22
		講師	石井 和美	ケア技術の質向上、患者さんにとってより安全・安楽なケア方法の考案を目指す	23
		助教	瀬戸 清華	希少・難治性疾患と生きている当事者の世界を知り、ピアサポートの支援へとつなぐ	24
		助教	千田 明日香	多様な場で勤務する看護師が看護実践能力を向上させるための取り組みを知る	25
母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	亀田 幸枝	あなたはプレコンセプションケアを知っていますか？～将来の妊娠を見据えた自分たちの心身の健康管理～	26
		教授	米田 昌代	あかちゃんを亡くされた方を地域全体で支えるシステム作りをめざして	27
		講師	曾山 小織	妊婦さんの健康づくりを通して、未来の子どもの健康を目指す	28
		講師	桶作 梢	思春期・若年成人期にがんになった人々が治療後の人生を自分らしく生きる過程をセクシュアリティの観点から支えたい	29
		助教	河合 美佳	産後の女性の体の回復を考える～女性の将来的な健康も見据えた支援を目指して～	30
		助教	野沢 ゆり乃	妊産婦、新生児が安心して過ごせるための助産ケアを考える	31
	小児看護学	教授	戸部 浩美	子育て・夫婦のピンチを、自身への思いやりを深め家族の絆を強めるチャンスに変える！	32
		准教授	千原 裕香	子ども虐待予防をめざして親になる前の若者への支援アプローチを探る	33
		助教	後藤 亜希	子ども虐待防止をめざした育児困難を抱える母親支援を探る	34
		助教	西 真理子	子どもを特別養子縁組に託す実母への支援を確立し、傷ついた女性を支援する	35

科目群		職名	氏名	研究のポイント	ページ
成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	紺家 千津子	どこでも、すべての人たちの皮膚を健康に保つ最良なケアを実現	36
		教授	峰松 健夫	皮膚を見る、皮膚を護る、そして皮膚から診る	37
		教授	臺 美佐子	がんと浮腫と共に 健やかに暮らす 未来を創る	38
		准教授	松本 智里	外見変化に苦しむがん患者さんが見逃されことなくキャッチされることを目指す	39
		講師	南條 裕子	“重篤な病気を乗り越えた先”に、「頑張って良かった」の笑顔を目指す	40
		助教	瀧澤 理穂	がん体験者の悩みの核心や意思決定の背景をとともに探る	41
		助教	額 奈々	高齢者に人生の最期まで自分らしく過ごしてもらうために高齢者施設での看取りケアの向上を追求する	42
		助教	星野真実	シミュレーションで非侵襲的に体内を観察し、看護理工学による新たなケア・機器開発へ	43
	老年看護学	教授	北村 言	高齢者が「今が幸せ」と思える生活を支える新たな看護技術の開発	44
		准教授	中道 淳子	忘れても あなたはあなたのままでいい！ 共生社会の実現を推進するための認知症基本法の推進を！	45
		講師	大橋 史弥	エコーを用いた体内の可視化により、病に苦しむ高齢者への新たな看護システムを探る	46
		助教	近藤 考朗	認知症高齢者がその人らしく暮らすことができるよう手助けするための研究	47
地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	米澤 洋美	立場の弱い人や孤立した人も含め、お一人お一人が居場所と出番を持ち輝ける社会を目指して、地域での退職後高齢者の健康づくりを探る	48
		助教	室野 奈緒子	メンタルヘルス不調者の円滑な職場復帰を叶える多職種連携の科学的検証	49
		助教	嶋 雅奈恵	家庭養育の推進（より家庭に近い環境での養育の推進）のため、障害児施設の発達障害児への支援を探る	50
		助手	中敷 えりか	訪問看護師を中心とした「能登地区看取り推進プログラム」	51
	在宅看護学	教授	桜井 志保美	年齢や疾患にかかわらず、生まれてから人生の最期まで、児者が家族とともに自宅で安心して暮らせる未来の実現に貢献する	52
		助教	山路 朋子	人生の終末期をその人らしく暮らすことができるように、病棟看護師が行う退院支援の在り方や、病棟看護師に対する効果的な教育を考えるために役立てる	53
		助教	牛村 春奈	食えることは生きることであり、喜びでもある。食えることを諦めなくて良い社会に向けて、口のはたらきを探る。	54
	精神看護学	教授	美濃 由紀子	重大な他害行為を行った精神障がい者の治療、社会復帰における看護師の役割の明確化を図る	55
		准教授	大江 真吾	自閉スペクトラム症の方の語りから、彼らが何を考え、何を感じているかを探る	56
		助教	高濱 圭子	断酒継続し依存症から立ち直る方々の生きる力を探索して看護ケアに活かす	57
	共同研究講座 看護理工学	共同研究講座 教授	大貝 和裕	バイオからAIまで看護理工学に基づく、高齢者を守る包括的ケアシステムの構築	58
		共同研究講座 准教授	長谷川 陽子	栄養学と看護理工学をビッグデータで融合し、人々が健康で幸せに生きることを支えるサイエンスを目指す	59
	共同研究講座 ウェルビーイング看護学	共同研究講座 教授	松本 勝	センサ技術・ICTを活用したモニタリングやAIによる新たなロボティックホームケアの確立	60
		共同研究講座 講師	幅 大二郎	看護理工学と理学療法学を融合し、幸福寿命の延伸を目指したロボティックチェアの開発	61
石川県寄附講座 災害実践看護学		教授	木田 亮平	災害時に国民を守る看護提供体制・組織システムを探索する	62
		講師	窪田 直美	災害時の避難生活における生活環境の向上を目指す研究(災害トイレの整備)	63
		講師	登谷 美知子	介護施設における災害時受け入れ事前準備に関する実態調査	64

研究者情報

Researcher information



真田 弘美 学長

Hiromi Sanada

contact: sanadah@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/hiromisanada>



研究キーワード

看護のもののづくり／DX／傷(キズ)

年を取るのも悪くないなと思える 社会の実現に向けて

研究の概要

高齢者は自己実現をはかる成熟のプロセスの最終段階を迎える存在です。しかし、身体の生物学的な老化にともなって、寝る、食べる、排泄する、歩くなどの日常生活に端を発する疾病や障害が、高齢者が自分らしく生きることを妨げています。そこで、寝ることに起因する褥瘡(じよくそう)(いわゆる「床ずれ」)、排泄に関連する失禁関連皮膚炎(いわゆる「おむつかぶれ」)や尿路感染症、食べることに起因する誤嚥性肺炎、歩くことに関連する糖尿病足潰瘍(あしかいよう)などに焦点をあて、それらの発症メカニズムを解明し、予測、予防、ケアの新しい技術や機器などを開発することに取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

看護学研究に限界はない

日ごろから患者に寄り添う看護師だからこそ気づくことのできる臨床の課題やニーズがあります。そうした課題やニーズを抽出し、機序に基づいて新たな技術や機器を開発し、臨床での評価・普及につなげる学問が「看護理工学」です。これまで「無いなら創る」の精神で、看護理工学の手法を用い、また産官学連携によって、褥瘡ケアや創傷ケア、スキンケアにかかわる様々な製品やツールを開発し、実用化してきました。常に看護を今より良くするための研究に、分野や手法にとらわれることなく取り組んでいます。若い皆さんの自由な発想と、バイタリティあふれる行動力に期待しています。



これまで開発した褥瘡ケア・スキンケア製品

メッセージ

本学では人生100歳時代の少子高齢化社会を支える次世代の看護師・看護学研究者を育てていきます。看護を通じた自己実現を目指しませんか。男性も大歓迎です。

Profile

研究分野

褥瘡学／看護理工学／老年看護学／創傷看護学

所属学会

日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会
看護理工学会／日本看護科学学会 など

学歴・経歴

1979年 聖路加看護大学 卒業
1997年 金沢大学医学部研究生 修了(医学博士)
1998年 金沢大学医学部保健学科 教授
2003年 東京大学大学院医学系研究科 教授
2019年 Fellow of American Academy of Nursing(FAAN)
2021年 Sigma Thera Tau International Honor Society of Nursing・Member
2022年 石川県立看護大学 学長

受賞

2020年 ヘルシーソサエティ賞バイオニア部門
2022年 World Union Wound Healing Societies Lifetime Achievement Award
2025年 ICN(国際看護師協会)インターナショナル・アチーブメント・アワード

論文

- Jais S, Sanada H, et al. Evaluating the cost-effectiveness of diabetic foot ulcer management by wound care specialists in Indonesia. Wound Repair Regen. 32(1):80-89. 2024.
- Horinouchi A, Sanada H, et al. Incontinence-Associated Dermatitis-Like Skin Changes Induced by the Application of Absorbent Pads Containing Bacteria and Artificial Urine in Rats. Exp Dermatol. 33(11): e70013. 2024

書籍等出版物

- Bioengineering Nursing: New Horizons of Nursing Research, Nova Science Pub, 2014.
- 看護理工学, 東京大学出版会, 2015.

講演・口頭発表等

- “I will be the avatar : The new care recommendation system for wound care management,” The 9th APETNA Conference.
- 「ライフワークとしての褥瘡対策」第23回日本褥瘡学会学術集会の特別講演
- ナーシングケアイノベーション. Japan Health プレ・セミナー2024のシンポジウム
- “無いなら作る” 看護ケアのイノベーション. 第203回医療情報システム研究会の特別講演
- 近未来のWOC看護に望まれること. 第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会の特別講演

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(A)ロボティックチェア・ヘルスケアアバターによる未来型セルフケア構想
- 科研費挑戦的研究(開拓)滲出液エクソソームマーカー検出人工リボソームの開発:創傷アセスメントの新たな展開



人間科学領域

垣花 渉 教授

Wataru Kakihana

contact: kakihana@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0152818>



研究キーワード

運動／コミュニティ・エンパワメント／アクションリサーチ

身体活動を促進する行動科学および 社会的支援アプローチの効果

研究の概要

「地域を基盤とした参加型研究によるコミュニティ・エンパワメントの構築は、高齢者の健康を維持・増進させる」という仮説検証型の研究を行っている。研究者と高齢者が協働して地域健康づくりを作り上げる介入プロセスを、トライアングレーション法を用いて質的に分析する。併せて、介入に伴う高齢者の体組成および体力の変化を対照群のそれと比較する。量的・質的分析により、コミュニティ・エンパワメントの構築が高齢者の健康を維持・増進させる根拠を明らかにする。

研究の内容(大学院向け)

スポーツや運動の現場での科学的知見を、 壮年・老年期の健康増進へ生かす実践的研究

スポーツや運動の現場の知見を科学的に立証するため、お年寄りの運動習慣が体力や体組成に及ぼす影響を調べています。スポーツや運動は“楽しい”ことが大事なため、身体を動かす楽しさを味わえるイベントを開きます。楽しいことがわかると運動は長続きます。わかったあとは、自分のペースで運動に取り組んでもらいます。私の役割は、運動習慣を形成するおせっかいヒントを的確なタイミングで出し、運動を楽しむ環境をつくることです。地道な研究から、おもしろいことがわかってきました。無理のない運動を自分のペースで行うと、お年寄りの筋肉量は増え、持久力は向上する可能性があります(図参照)。きつい運動を我慢してやらなくても健康になれる、ということです。

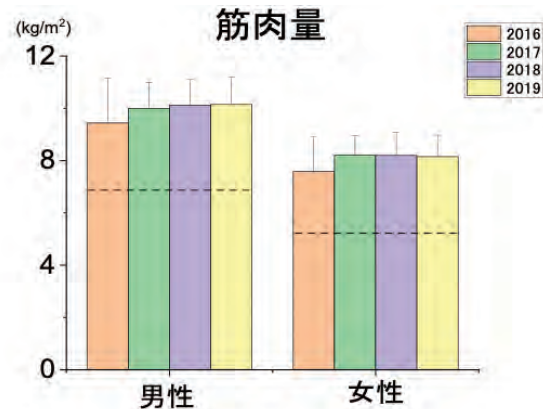


図.無理のない運動を高齢者が行ったときの筋肉量の変化

メッセージ

運動不足は、すべての世代に共通な健康問題です。注目されていますが、一向に改善されません。私はこの問題を解決するために、“こうしたら、運動を続けられるかも”のヒントを的確なタイミングで出し、“それとなく”運動へ導くための戦略とその効果を研究しています。

Profile

研究分野

体力科学／応用健康科学／初年次教育

所属学会

日本体力医学会／日本機械学会
初年次教育学会／地域活性学会
大学教育学会

学歴・経歴

1992年 早稲田大学人間科学部 卒業
1994年 筑波大学大学院体育研究科修士課程 修了
2001年 早稲田大学大学院人間科学研究科博士後期課程 修了
1997年 早稲田大学人間科学部 助手
2000年 国立身体障害者リハビリテーション研究所 流動研究員
2007年 石川県立看護大学看護学部 准教授
2020年 同大学 教授(現在に至る)

受賞

- 第17回 日本運動器リハビリテーション学会 奨励賞
- 日本経済新聞社社会人基礎力育成グランプリ 2013 準大賞
- 石川県立看護大学ベストティーチャー賞
- 農林水産省第3回食育活動表彰 ボランティア部門 消費・安全局長賞

論文

- 令和6年能登半島地震における住民と看護学生の協働による健康支援活動のプロセスとその影響. 地域活性研究, 22, 131-140, (2025)
- 参加型の地域健康づくりが高齢者の行動や健康状態に及ぼす影響. 地域活性研究, 18, 1-10, (2023)
- 看護学生を能動的な学習へ導く探究学習の実践研究. 初年次教育学会誌, 15, 50-57, (2023)

書籍等出版物

箕浦 ととき, 高橋 恵(編著): 5章 社会人基礎力を意識的に育む授業とは, 6章 フィールド実習を通じた社会人基礎力の育成, 7章 学生が自己の健康を管理する力の育成, 看護職としての社会人基礎力の育て方[第2版]. 日本看護協会出版会, 2019.

講演・口頭発表等

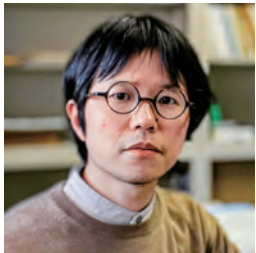
学生と高齢者が協働する「健康長寿のまちづくり」(招待講演), 日本世代間交流学会第13回全国大会, 2022

競争的資金等の研究課題

- 自律した学習者を育てる看護系高大接続教育の推進
- 主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践研究
- 壮年・老年期の健康増進を図るヘルスコミュニケーション

社会貢献活動

- 初年次教育学会 理事
- 地域活性学会 北信越支部 副支部長



人間科学領域

中嶋 優太 講師

Yuta Nakajima

contact: nakajima@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/y-nakajima>

研究キーワード

日本哲学／西田幾多郎／生命倫理学

日本で最初の哲学者、西田幾多郎の思想を通じて、私たちの思考の背景を探る

研究の概要

「自由」「社会」等々、これらの日本語はもともと西洋哲学の言葉の訳語で、明治時代の哲学者たちによって作られたものである。日本人が西洋の哲学をどのように受け止め、それを自分の物にしていっただのかを知ることとは、現代の日本の社会を形作っているものの考え方の背景を知ることにつながる。日本で最初の哲学者ともいわれ、世界で最も注目されている日本人哲学者である西田幾多郎(図1. 石川県かほく市生まれ)の研究を通して、私たちの日常的な思考の背景と、その可能性を探っている。

研究の内容(大学院向け)

未発表の直筆資料を翻刻して、これまで誰も知らなかった西田哲学の原風景に迫り、「自由」とは何かを考え直す

2015年に西田幾多郎の直筆資料が大量に発見された。これらの資料からは特に金沢時代の西田が当時の哲学の最新情報や、心理学などの諸科学の成果を取り入れていたことがわかる。また、「至誠」など東洋思想に由来する鍵語が見られる点も注目値する。資料を保存している石川県西田幾多郎記念哲学館の翻刻プロジェクトに参画して翻刻(図2)を行い、これまで知られてこなかった西田幾多郎の思想形成の背景を明らかにできるよう取り組んでいる。

西田の新資料を手がかりに再検討しているのは「自由」という言葉である。現代の医療現場で重視される生命倫理学の根本には、患者の自由な意志決定を尊重するという考え方がある。けれども、私たちは本当に自由に意志決定ができていいのか。そもそも、自由な意志決定とはどのようなものなのか。西田の思想や、関連する西洋の思想を手がかりに考え直したい。



図1. 西田幾多郎(1870-1945)
(石川県西田幾多郎記念哲学館提供)

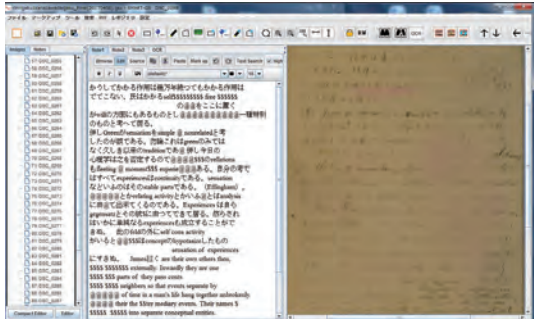


図2. 翻刻支援ソフト SMART-GSの作業画面

メッセージ

哲学の魅力は、私たちが当たり前だと思っていることをあらためて考えてみるところです。どんな日常の中にも、人生の中にも、考えると興味深い哲学的問題がつまっていて、哲学を通してみると人生はもっと豊かに感じられると思います。

Profile

研究分野

日本哲学／西田哲学／生命倫理学

所属学会

西田哲学会／日本倫理学会

学歴・経歴

2009年 京都大学大学院文学研究科日本哲学史専修修士課程 修了

2012年 京都大学大学院文学研究科日本哲学史専修博士課程 単位取得退学

2015年 石川県西田幾多郎記念哲学館 研究員

2018年 石川県西田幾多郎記念哲学館 専門員

2022年 石川県立看護大学 講師

受賞

2023年 比較思想学会研究 奨励賞

論文

- 「西田の新資料『倫理学講義ノート』における人格の問題」『西田哲学会年報 第18号』(pp.50-93)2021年
- 「西田哲学とヴェント心理学の直接経験-その無基底的性格について-」『比較思想研究 第46号』(pp.48-56)2019年

書籍等出版物

西田幾多郎著『西田幾多郎全集別巻 倫理学講義ノート・宗教学講義ノート』岩波書店、2021年(翻刻主担当)

講演・口頭発表等

甲南大学人間科学研究所 第4回九鬼周造記念シンポジウム「書簡と遺稿が伝える哲学者九鬼周造の面影」、シンポジスト、2022年12月17日

競争的資金等の研究課題

- 西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論その形成の背景と発展の可能性:科学研究費助成事業 研究活動スタート支援 2023-2024年
- 西田『善の研究』前後の新資料からみた人格論:日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2024年-2028年



人間科学領域

松田 幸久 准教授

Yukihisa Matsuda

contact: ymatsuda@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/ym0315>

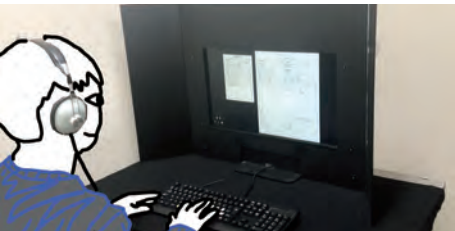
研究キーワード

心理学／認知科学／脳科学／応用臨床心理学

目を開いた時に生まれる、この世界が間違いなく存在するという認識

研究の概要

人間が有している機能の特徴を研究しています。人間が持っている機能はまだまだ解明されていないことが多く、よく「内なる宇宙」と例えられます。私は視覚と記憶を中心として意識的・無意識的な視覚情報処理過程を研究しています。最近、初めた研究としては“どこを見ているか”と“何を感じているか”の関係についての研究を行なっています。一例では「ウィンドウショッピングなどの好き嫌い判断にはリラックス効果があるか?」について、眼球運動、自律神経系、唾液に現れる生理反応を観測して研究しています。経験上ではウィンドウショッピングや美術館で美術品の好き嫌いを考えているだけで、ストレス緩和効果があると思うので、きっと結果もそうなるはず!

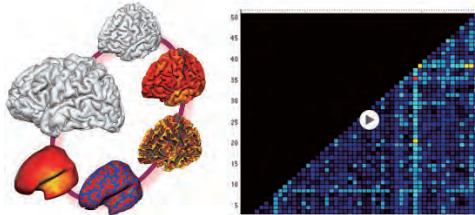


※実験風景(左図)。反射光が視覚刺激のじゃまになるので全体的に黒いですね。およそ0.01秒単位で実験画面をコントロールして人間の反応を記録しています。

研究の内容(大学院向け)

脳が人を創り、人が脳を知る時にうまれるもの

それは「理解」です。…などと抽象的&大袈裟に書いてみましたが、私は脳が持つ構造と機能的な特徴をもとにした研究を行なっています。その一端として、脳構造に着目した精神疾患特異性についての研究があります。脳は下左図のようにしわのある構造をしています。表面の灰白質と呼ばれる部分の厚みや、ある領域における表面積、ある範囲内に収まっている密集具合など、さまざまな特徴があります。また、脳を細かく分け、それぞれでの活動量を分析すると同じように働く部位とそうではない部位(下右図)があります。こういった特徴を数値に変換し、統計学を用いて、人の反応として表現される脳のありようを探究しています。



メッセージ

過去、未来、起こりえなかった並行世界にとらわれすぎることなく、今、この瞬間を生きてください。

Profile

研究分野

心理学／認知科学／脳科学

所属学会

日本心理学会／日本生理学会

日本カウンセリング学会／北陸心理学会

日本認知症予防学会

学歴・経歴

東北大学大学院情報科学研究科で博士号取得後、医学系研究所研究員、薬学部講師などを経て現職

受賞

2016年 認知症サポーターキャラバン活動 優良自治体賞

論文

- 松田幸久・菅本宙晃. (2023). クロニンジャーのパーソナリティ理論における気質を測定する通俗的心理テストの作成. 都市経営 :Urban Management, 15, 139-147.
- Matsuda Y, 他. (2018). Cortical gyrification in schizophrenia: current perspectives. NEUROPSYCHIATRIC DISEASE AND TREATMENT, 14, 1861-1869.

書籍等出版物

Matsuda, Y. (2022). Two Dissociable Functions of Spatial Attention, Facilitation Effect and Inhibition of Return. Current Overview on Science and Technology Research Vol. 4, 135-157.

講演・口頭発表等

Matsuda Y, 他. (2021). Associations between human error in prescription inspection, personality traits, and working memory. The 32nd International Congress of Psychology.

競争的資金等の研究課題

- 選好場面判断における眼球運動がもたらすストレス低減効果の解明, 2020, 福山市立大学
- 薬剤師・薬学部生を中心とした認知症スクリーニング・ゲームの開発と実践, 2018, 第7回杉浦地域医療振興助成金, 公益財団法人杉浦記念財団

社会貢献活動

心理学の諸領域(北陸心理学会)編集幹事補佐



人間科学領域

小林 宏光 教授

Hiromitsu Kobayashi

contact: kobayasi@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0172464>



研究キーワード

人間工学／生理人類学／看護デザイン

ヒトの生物学的理解を基盤として 現代社会の生活・環境について考える

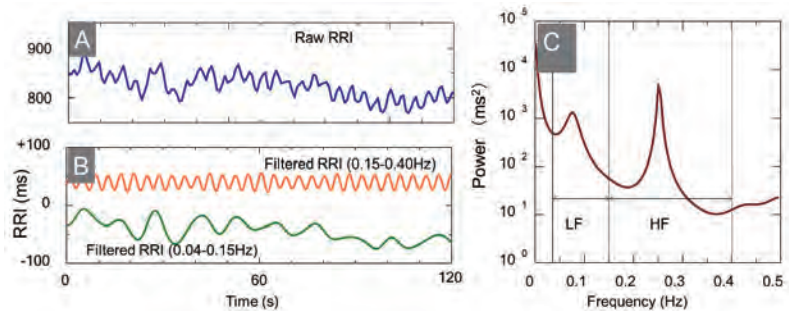
研究の概要

ガリレオ(1564-1591)は、教会のシャンデリアが揺れているのを見て、振り子の等時性を発見したと伝えられていますが、その際に自分の脈をとり時間を計ったといわれています。振り子の等時性の発見に、心拍が一役買ったわけですが、実は心拍はそれほど一定間隔で発生するわけではなく、その間隔には常にゆらぎが存在します。このゆらぎは心拍変動(Heart Rate Variability; HRV)と呼ばれています。心拍変動の揺らぎパターンは、加齢だけでなく、精神的緊張など様々なストレスによる自律神経活動の変化も反映すると考えられており、看護的研究でもよく用いられています。この心拍変動について、基礎的・応用的な研究を続けています。

研究の内容(大学院向け)

人間の生理学的機能の測定を通じて看護のデザインを提案する

人間工学とは、私たちを取り巻くさまざまなモノ、道具、機械、環境に関して人間の特性を基準として考察する分野です。工学という名がついていますが、機械について研究するのではなくあくまで人間を対象とした学問として人間工学を考えています。この点で人間工学と看護学とはもともと関連が深い研究分野であると思われます。心拍変動測定に加え、人間工学、生理人類学における様々な研究手法を看護学領域に応用した研究を行っています。例えば歩行中の体幹加速度、長期間睡眠測定、近赤外線光による脳血流測定、超音波エコーによる静脈直径測定、感圧シートによる清拭圧測定などの技術を用いた療養環境の評価、看護技術の客観的検証・開発などに取り組んできました。



図・心拍変動とそのスペクトル

メッセージ

大学での学びは、これまでの中学・高校での学習よりも自由度が大きい一方で学習への主体性が問われます。高校時代に大学での学びの基盤を培ってください。

Profile

研究分野

人間工学／生理人類学／看護デザイン

所属学会

日本生理人類学会／日本人間工学会
日本看護技術学会

学歴・経歴

1990年 九州芸術工科大学(現・九州大学)大学院
修士課程生活環境専攻 修了
1990年 九州芸術工科大学工業設計学科 助手
1999年 博士(理学) 千葉大学自然科学研究科
2000年 石川県立看護大学 助教授
2010年 石川県立看護大学 教授

受賞

2022年 TOP10%査読者賞 日本人間工学会
2022年 日本生理人類学会 学会賞
2016年 日本生理人類学会 論文大賞

論文

- Mastumoto M, Hashiguchi N, Kobayashi H (2022). Short-and long-term reproducibility of peripheral superficial vein depth and diameter measurements using ultrasound imaging. BMC Medical Imaging, 22 (1), 1-6.
- 石井和美, 中田弘子, 小林宏光. (2022). 圧力測定フィルムを用いた臨床看護師の清拭圧ー 健康皮膚に対する綿タオルとディスボーザブルタオル清拭の比較ー. 看護理工学会誌, 10, 37-42.
- 笠井恭子, 小林宏光, 川島和代. (2017). 特別養護老人ホーム入居者の夜間の排泄ケアと睡眠状態との関連. 老年看護学, 21 (2), 51-58.
- Nagaya S, Hayashi H, Fujimoto E, Maruoka N, Kobayashi H. (2015). Passive ankle movement increases cerebral blood oxygenation in the elderly: an experimental study. BMC nursing, 14 (1), 1-7.

書籍等出版物

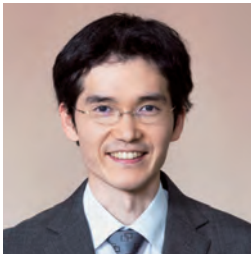
- 生理人類学: 人の理解と日常の課題発見のために. 理工図書, 2020(分担執筆)
- 人間科学の百科事典, 丸善出版, 2015(分担執筆)

講演・口頭発表等

見つめなおす看護実践のカタチ～新しいケア用具の提案～看護実践学会交流集会, 2022

競争的資金等の研究課題

歩行対称性指標の妥当性およびその正常標準値の検討: 科学研究費補助金 基盤研究(C) 2019-2023



人間科学領域

工藤 義信 講師

Yoshinobu Kudo

contact: yshkudo@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/ykudo>



研究キーワード

中世英文学／西洋中世写本研究／中世イングランド書物文化

教訓詩の内容とその翻案の諸相から、 中世イングランド社会の人々の価値観と 書物文化を考える

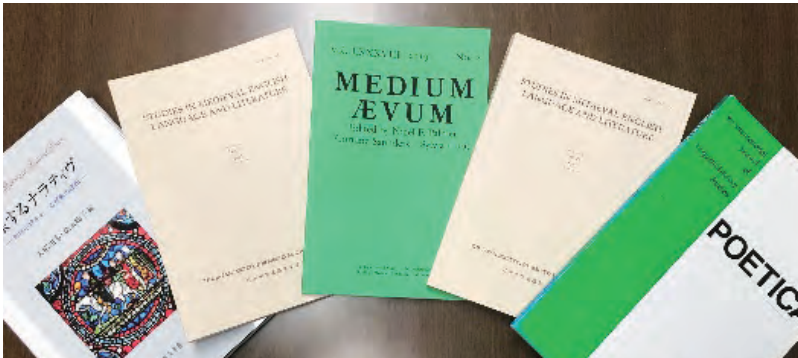
研究の概要

社会が大きく揺れ動いた15世紀イングランドで、父から息子への人生の教訓を綴った一篇の英語詩が生まれました。ピーター・イドリー作『息子への教え』という名で知られるこの詩は、その内容自体において、中世イングランドの人々が何を善しとし、何を善しとしなかったかを窺い知るための題材といえますが、さらにこの教訓詩にはもとなる作品(材源)が存在します。材源との比較を通して、教訓の内容や表現がどのように変わっているかに着目すると、古くからの教訓を著者の生きていた時代に沿ったものとなるよう、翻案している様子が浮かび上がります。こうした教訓の翻案に、世相の変化を読み解くことができます。本教訓詩は、著者からその息子へ宛てて書かれた当初の文脈を超えて、転写を通して多くの読者に読まれました。家族や親しい人々の間で交わされた書簡など、15世紀当時の人々の生きざまが垣間見える史料と照らし合わせることで、人々がいかにイドリーの詩に具現化されているような一連の教訓とともに生きていたかがわかります。

研究の内容(大学院向け)

「マイナー」な作品から、当時の書物文化への理解を刷新する

ピーター・イドリー作『息子への教え』は、これまであまり注目されることのなかった作品であることもあって、現存するバージョン同士の比較といった、基本的な分析に関して現在も研究の余地が残されています。詩が転写を通して多くの人々や地域に流布していったパターンについても、これまで重点的に研究されてきた同時代の他の作品のパターンとは異なる側面を持っており、15世紀イングランドの書物生産に関する新たな問題を提起する可能性を秘めています。



メッセージ

あらゆる物事を学問的に探究する面白さを、大学で感じて欲しいと思います。高校でいま取り組んでいる学習に、無駄なことは何ひとつありません。あとで必ずつながりますので、安心して励んで頂きたいと思います。

Profile

研究分野

中世英文学／西洋中世写本研究

所属学会

The Early Book Society／西洋中世学会
日本英文学会／日本中世英語英文学会

学歴・経歴

2014年 英国ヨーク大学大学院英文学科修士課程 修了
2014年 慶應義塾大学大学院文学研究科英米文学専攻後期博士課程 単位取得退学
2021年 石川県立看護大学 講師

受賞

2021年 第2回西洋中世学会賞
2021年 日本中世英語英文学会松浪奨励賞
2024年 日本中世英語英文学会奨励賞

論文

- 'Reinstalling Clerical Authority, Juridical and Didactic: The Unique Rearrangements of Book II of Peter Idley's Instructions to his Son in London, British Library, Arundel MS 20', Medium Ævum, 88 (2019), 265-300
- 'Self-Identity and Self-Presentation in the Late-Fifteenth-Century Norwich Merchant's Miscellany Manuscripts Known as "The Fisher Miscellany"', Journal of the Early Book Society, 25 (2022), 1-38

書籍等出版物

- 大沼由布, 徳永聡子編『旅するナラティブ-西洋中世をめぐる移動の諸相』(知泉書館, 2022年)(13章を執筆)
- 西洋中世学会編『西洋中世文化事典』(丸善出版, 2024年)('助言の文学'を執筆)

講演・口頭発表等

- 中英語文学ミセラニー写本にみる読者の関心, イデオロギー形成, そして教訓的テキストの機能ー Cambridge, Magdalene College, Pepys MS 2030 および Cambridge University Library MS Ee.2.15の新考察, 西洋中世学会第12回大会自由論題報告, オンライン, 2020.10
- ピーター・イドリー『息子への教え』における女性読者, 西洋中世学会第16回大会 ポスター報告, 富山, 2024.6
- 2通のナイチンゲール書簡, 第12回看護理工学会学術集会 展示解説, かほく, 2024.11

競争的資金等の研究課題

- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)「ピーター・イドリー教訓詩の伝播の実態を探究するテキスト批評・人物研究・古写本学的分析」
- 日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同加速基金(国際共同研究強化)「イドリー写本制作条件をめぐる物質的側面からの追及と中流社会階層の書物文化の考察」
- (分担)日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金(海外連携研究)「中世イギリス文学における古典期聖女伝のテキスト伝播と受容の研究」

社会貢献活動

公益財団法人尚志社北陸地区奨学生選考委員



人間科学領域

佐能 唯 講師

Yui Sano

contact: yuisano@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yuisano>

研究キーワード

歩行解析／転倒リスク評価／医療工学

感覚や経験など可視化し、工学からのアプローチで医療・看護のサポートを目指す

研究の概要

歩行障害を持った人の歩行、高齢者の歩行、疲労時の歩行など、さまざまな歩行を計測し、解析を行っている。

たとえば、歩行障害はさまざまな種類があるが、痛みやしびれが現れる箇所が似ているため、患者の主観的な訴えだけでは歩行障害の原因を判断しづらい問題があった。健常者および歩行障害者の歩行動作を動画で撮影し(図1)、歩行障害毎の歩行を解析した。その結果、歩行障害別に違いがみられることがわかった。したがって、歩行動作を解析することで歩行障害の原因を推察することの可能性を見出すことができた。

高齢者の歩行計測では、転倒リスクに注目し、どのようなケースで転倒しやすくなるのかという点についてセンサーを用いて調べた(図2)。日常生活においては歩行以外の動作も歩行と同時に進行。この動作が高齢者の歩行に影響するかを若年者の歩行と比較した。その結果、高齢者の姿勢制御が、視覚に依存し、音声刺激に基づく経路変更は負荷が大きいことを明らかにした。

疲労時の歩行計測では、歩行時、足先に力を入れて地面を蹴ることで、前に進む推進力を得ることから、若年健常者の疲労前と疲労後の足先の接地面の変化について足裏の接地面を調べる装置を使って調べた(図3)。疲労後では利き足に変化がみられることがわかった。

このように、歩行を様々な方法で調べることで、医療従事者の経験から得られた情報を数値化している。それが今後の医療・看護のサポートになることを目指す。



図1. 歩行画像解析実験の様子

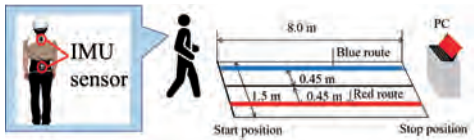


図2. センサーを使った実験システム



図3. 足先接地面横計測装置

メッセージ

医学・看護学分野に工学が混ざることで、多方面から現象をとらえることができます。分野を超えて互いに協力し、新たな価値を見出したいと考えています。また、自分も通ってきた学生時代を思い出し、学生と一緒に作っていく講義を目指したいと思っています。

Profile

研究分野

歩行解析／転倒リスク評価

所属学会

日本機械学会／看護理工会

学歴・経歴

- 2011年 金沢大学大学院自然科学研究科人間・機械科学専攻博士前期課程 首席修了
- 2011年 アイ・オー・データ機器 入社
- 2021年 金沢大学大学院自然科学研究科機械科学専攻博士後期課程 修了
- 2023年 アイ・オー・データ機器 退社
- 2023年 石川県立看護大学

受賞

- 2022年 看護理工会論文奨励賞
 - 2022年 日本機械学会女性未来賞
 - 2021年 看護理工会論文奨励賞
- ※受賞時の名字は「村上」である。

論文

- 「多重課題条件下の歩行中において課題の種類と加齢が腰からみた肩回転運動に与える影響」『看護理工会, 8』(pp. 230-241)2021年
- 「Effects of task type and aging on translational body movements while walking under multiple task conditions」『Journal of Nursing Science and Engineering, 8』(pp.1-10)2020年

※投稿時の名字は「村上」である。

講演・口頭発表等

荒井理那, 佐能唯, 千原裕香, 小林宏光, 輸液ポンプの輸液管理演習におけるMRゴーグルを用いた演習方法の開発, 第12回看護理工会学会学術集会, 2024年11月



健康科学領域

平居 貴生 教授

Takao Hirai

contact: thirai@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0100492>

研究キーワード

分子薬理学／時間生物学／骨代謝学
Molecular Pharmacology, Chronobiology, Bone biology

時計遺伝子を制御する機能的分子を見つける

研究の概要

体内リズムと病気の関連について興味を持って研究を続けています。体内リズムを制御する時計遺伝子の新しい役割を見つけること、それらをコントロールするような機能分子を見出すことで多くの病気の予防や治療に貢献できるのではないかと考えています。

研究の内容(大学院向け)

時間生物学と骨代謝学領域の研究が中心になりますが、これらの研究成果が生活習慣病の予防や治療に応用できると考えています。具体的には時計遺伝子として知られる転写因子E4BP4／NFIL3やROR α に着目し、分子薬理学的手法、細胞生物学的手法などを一体的に運用することによって、それらの新規機能の解明を目指します。また、それら基礎研究が健康増進、予防薬理学の進展、看護学の深化に寄与することになれば良いと考え、研究を続けています。

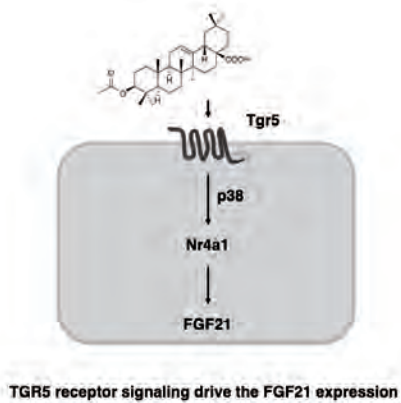


図. 筋細胞のTGR5受容体シグナルはFGF21発現を制御する。

こちらは最近の研究の紹介です。

生薬レンギョウの成分である3-O-acetyloleanolic acid は筋細胞のTGR5受容体を介してfibroblast growth factor 21 (FGF21)の発現を制御することを明らかにしました。FGF21はインスリン感受性の改善、糖代謝の改善、脂質代謝の改善、エネルギー産生能の向上といった作用を有すると考えられています。Transmembrane G protein-coupled receptor 5 signaling stimulates fibroblast growth factor 21 expression concomitant with up-regulation of the transcription factor nuclear receptor Nr4a1. Kiyama et al., Biomed Pharmacother, 142, 112078 (2021)

メッセージ

皆さんが、楽しい!といえる大学生活になるように、お手伝いできればと思います。

Profile

研究分野

分子薬理学／時間生物学／骨代謝学

所属学会

日本薬理学会／日本時間生物学会
日本骨代謝学会／日本薬学会

学歴・経歴

- 2005年 金沢大学大学院博士後期課程修了 博士(薬学)
- 2006年 MGH, Research Fellow
- 2009年 京都府立医科大学 助教
- 2012年 愛知学院大学歯学部 講師
- 2016年 愛知学院大学薬学部 准教授
- 2020年 石川県立看護大学 教授

受賞

第28回 歯科基礎医学会学会奨励賞 受賞

論文

- Takao Hirai et al., Berberine stimulates fibroblast growth factor 21 by modulating the molecular clock component brain and muscle Arnt-like 1 in brown adipose tissue, Biochem Pharmacol, 164, 165-176 (2019)
- Kenjiro Tanaka, Takao Hirai* et al., α ^{1b}-Adrenoceptor signalling regulates bone formation through the up-regulation of CCAAT / enhancer-binding protein δ expression in osteoblasts, Br J Pharmacol, 173(6), 1058-1069 (2016)

講演・口頭発表等

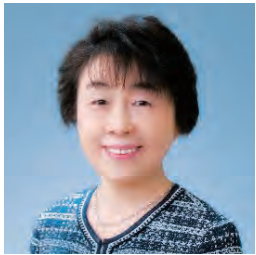
講演・口頭発表多数

競争的資金等の研究課題

生物時計システムの制御を基盤とする新規天然薬物の開発:基盤研究(C) 2019-21年など

社会貢献活動

日本薬理学会 評議員



健康科学領域

今井 美和 教授

Miwa Imai
contact: miwaimai@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0098922>

研究キーワード

HPV(ヒトパピローマウイルス)／ワクチン／HPV 関連疾患
子宮頸がん／プレコンセプションケア

若者のHPV関連疾患を予防するシステムづくり

研究の概要

ヒトパピローマウイルス(HPV)は子宮頸がんの主な原因として知られていますが、性別を問わず中咽頭がん、肛門がん、尖圭コンジローマなどの原因にもなります。HPVは主に性交で感染するため、思春期でのHPVワクチン接種によりこれらのHPV 関連疾患を効果的に予防できます。日本では思春期女子に対してHPVワクチンの定期接種が実施されていますが、年齢別接種率は1割前後と極めて低い水準にとどまっています。そこで、2023年に本学の大学院生とともに、HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象学生とその母親に子宮頸がん予防啓発プログラムを実施しました(図1)。

男性のHPVワクチン接種率の増加は、集団免疫により男女ともにHPV感染リスクを減少させる可能性があります。2020年12月に承認された男性接種は一部自治体での費用助成にとどまり、接種率は低水準で推移しています。このように、日本では思春期の男女ともに接種率は低く、その向上が課題となっています。思春期での接種における主な意思決定者は保護者です。そのため、保護者向けのHPV 関連疾患予防啓発プログラムの開発に取り組み、思春期の若者のHPVワクチン接種率向上に向けた効果的な啓発プログラムの開発を進めています。

研究の内容(大学院向け)

HPV 関連疾患予防啓発プログラムの開発を目指して

日本の高校までの包括的性教育のレベルは国際標準から大きく遅れており、子宮頸がんなどのHPV 関連疾患の予防について学ぶ機会はほとんどありません。このため、高校卒業後の18歳以上の若者に対するプレコンセプションケアが不可欠になっています。同時に、思春期の子どもを持つ保護者もその重要性を理解する必要があります。このような状況を改善するため、本学では同世代のピア(仲間)である大学生や大学院生が協力し、HPV 関連疾患予防啓発プログラムの開発に取り組んでいます。

注) 包括的性教育: 身体や生殖の仕組みだけでなく、性の多様性や人間関係など性を幅広く学ぶ教育
プレコンセプションケア: 妊娠前のヘルスケア

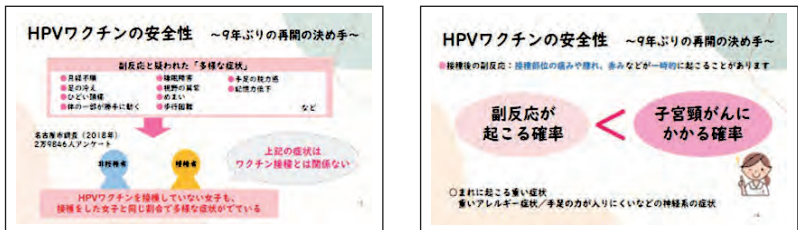


図1.HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象学生とその母親への子宮頸がん予防啓発プログラム資料から一部抜粋

メッセージ

HPV 関連疾患の予防は、若者にとって重要な健康課題です。若者自身や思春期の子どもをもつ保護者が予防に積極的に取り組めるよう、啓発プログラムの開発に熱意をもって取り組みましょう。

Profile

研究分野
病理学／思春期学

所属学会
日本病理学会／日本臨床細胞学会
International Academy of Pathology
日本癌学会／日本思春期学会
日本母性衛生学会

学歴・経歴
1991年 金沢大学医学部医学科 卒業
1995年 金沢大学大学院医学研究科博士課程
病理系専攻修了 博士(医学) 修了
1997年 金沢大学 助手
1999年 金沢大学医学部 講師
2000年 石川県立看護大学 助教授
2007年 石川県立看護大学 教授

論文
● HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象女性の接種行動を促進する因子 今井美和, 他1名, 思春期学, 42(2), 309-321, 2024年
● HPVワクチンキャッチアップ接種意向の関連要因: 若年成人女性を対象としたインターネット調査 今井美和, 他4名, 厚生 の指標, 70(8), 16-24, 2024年

書籍等出版物
ルービン カラー 基本病理学 第5版・第18章 女性生殖器系 西村書店(東京), 全759頁(p.453-483), 翻訳, 2015年

講演・口頭発表等
● 若年成人女性のHPVワクチンキャッチアップ接種行動に関連する因子 今井美和, 他1名, 第42回日本思春期学会総会・学術集会, 2023年
● HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象者の接種行動関連要因 今井美和, 他1名, 第43回日本思春期学会総会・学術集会, 2024年

競争的資金等の研究課題

● 女子高校生の子宮頸がん予防行動推進プロジェクト 今井美和(赤祖父美和), 他3名, 科学研究費補助金基盤研究(C), 2013-2016年度
● 思春期男子のHPV 関連疾患予防のための親への啓発プログラムの開発 今井美和(赤祖父美和), 他3名, 科学研究費補助金基盤研究(C), 2024-2027年度



健康科学領域

市丸 徹 准教授

Toru Ichimaru
contact: ichimart@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0133896>

研究キーワード

生殖中枢／視床下部／電気生理学／MUA／GnRHパルスジェネレーター

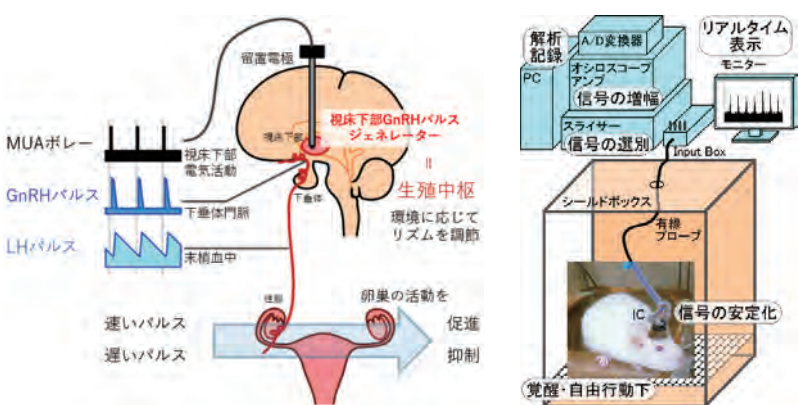
動物の行動をていねいに観察し、その背景にあるメカニズムと意義を探る

研究の概要

ヒトや動物の生殖機能は性ホルモンによって調節されていますが、その分泌は視床下部・下垂体・性腺軸(HPG axis)の支配下にあります。例えば、過度のダイエットやストレスで生理が止まる・遅れるなどの現象は、視床下部が体内・体外の情報を処理して、種の存続より個体の維持を優先すべきと判断し、生殖器系のはたらきを抑制させるために起こると考えられています。このとき、性腺への指令はLHというホルモンのパルス状分泌を介してなされます。すなわち、視床下部にあってパルスのリズムを決めている神経機構こそが生殖中枢であると考えられます。本研究では、視床下部の神経活動を直接モニターする手法を開発し、リズム発生のしくみや生殖機能に影響する因子を探索することを目指しています。

研究の内容(大学院向け)

視床下部の神経活動は多ニューロン発射活動(Multi-unit activity: MUA)記録法で測定します。留置電極により覚醒下の動物からリアルタイムで記録できるため様々なメリットがありますが、同時に手技的な困難さを伴います。まずは、より確実に安定した記録のできる手法の開発を試んでいます。



メッセージ

宇宙兄弟という漫画の主人公、南波六太の「本気の失敗には価値がある」という言葉が好きです。大学では、皆さんも失敗を恐れず、本気で何かに取り組んでみてください。

Profile

研究分野
神経内分泌／動物行動学

所属学会
日本生理学会／日本繁殖生物学会／日本獣医学会

学歴・経歴
1997年 東京大学農学部獣医学科 卒業
2001年 東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程 卒業
2001年 University of Michigan ポスドク研究員
2003年 東京大学 学術研究支援員
2007年 福井大学 助教
2015年 石川県立看護大学 講師
2019年 石川県立看護大学 准教授

論文

● Exposure to ram wool stimulates gonadotropin-releasing hormone pulse generator activity in the female goat, Animal Reproduction Science 106:361-368, 2008
● Central cholecystokinin-octapeptide accelerates the activity of the hypothalamic gonadotropinreleasing hormone pulse generator in goats, The Journal of Neuroendocrinology 15:80-86, 2003
● A possible role of NPY as a mediator of undernutrition to the hypothalamic GnRH pulse generator in goats, Endocrinology 142:2489-2498, 2001

競争的資金等の研究課題

障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発(障害者による飼育がヒツジに与えるストレスの評価), 農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業, 2021-2023年度

社会貢献活動

金城大学 医療健康学部 病理学／生理学実習
非常勤講師



健康科学領域

岩佐 和夫 教授
Kazuo Iwasa
contact: kkiwasa@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/ipnu-DHMS8376>

研究キーワード

神経免疫学／重症筋無力症／骨格筋
Neuroimmunology, Myasthenia Gravis, Skeletal muscle

骨格筋にひそむ免疫制御機能を解明していく

研究の概要

重症筋無力症の基本的な病態は自己抗体による神経筋接合部のシナプス後膜（骨格筋）の障害である。重症筋無力症ではシナプス後膜の障害に加え、骨格筋においても特異的な反応が生じていることが明らかになってきている。この骨格筋における反応の解明は重症筋無力症の新たな病態理解に結びつくだけでなく、治療にも役立つ可能性があると考え研究を行っている。

研究の内容(大学院向け)

重症筋無力症の骨格筋では小胞体ストレス応答の亢進、免疫チェックポイント因子や補体制御因子などの発現亢進が生じていることを明らかにしている(図1)。つまり、重症筋無力症の病態には従来の自己免疫反応のほかに骨格筋に発現または骨格筋から分泌される物質が免疫機能を制御し病態に関与している可能性が考えられる。この骨格筋における免疫制御機能は重症筋無力症の新たな病態理解に結びつくだけでなく、新たな治療にも役立つ可能性がある。

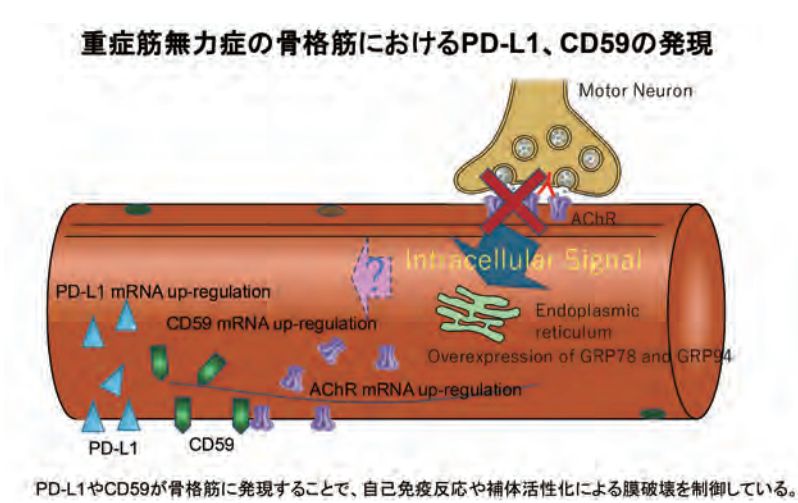


図1. 骨格筋が発現する免疫制御因子の発現メカニズム(仮説)

メッセージ

この研究は、筋肉が免疫機能を調整していることを明らかにすることを目的としております。この研究が発展していくと、筋肉をどのように動かすと長生きできるのかわかるようになるかもしれませんね。

Profile

研究分野

脳神経内科学／神経免疫学

所属学会

日本内科学会／日本神経内科学会
日本神経免疫学会／日本神経治療学会
日本神経感染症学会／日本脳卒中学会
New York Academy of Science

学歴・経歴

1989年 金沢大学 卒業
1997年 金沢大学大学院 修了
2002年 金沢大学 助手
2005年 金沢大学 講師
2007年 金沢大学大学院 准教授
2020年 石川県立看護大学 教授

論文

- 重症筋無力症の新規病態:補体制御因子CD59による治療への可能性 BIO Clinica.40 (2) (pp73-74)2025年
- 重症筋無力症骨格筋におけるPD-L1の発現. J Neuroimmunol. 325 号 (pp. 74-78)2018年
- 重症筋無力症骨格筋におけるCD59の発現. J.Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 10号1巻 e200057 2022年

競争的資金等の研究課題

重症筋無力症の新規病態:基盤研究(C) 2021-23年

社会貢献活動

パーキンソン病いきいきリハビリ教室主催



健康科学領域

今井 秀樹 教授
Hideki Imai
contact: imaihide@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0003765>

研究キーワード

地域の出生力に関する研究／環境汚染物質の脳神経系・内分泌系への影響／必須微量元素の生態学的意義に関する研究
fertility, environmental chemicals, essential trace elements

化学物質の複合曝露による健康影響の新しい評価方法とその課題

研究の概要

人間の健康と生存には、持って生まれた遺伝要因と私たちを取り巻く環境要因の両方が重要な役割を担う。20世紀おわりから遺伝情報と健康の関連についての研究が爆発的に進展した。一方環境要因の健康影響に関する研究がまだ発展途上にあり、Wild はそれをシオマネキの爪に例えた(下図)。つまり大きな爪が遺伝要因に関する研究で、小さな爪が環境要因に関する研究ということになる。近年疫学分野において健康影響をエンドポイントとした化学物質への複合暴露を評価する統計解析手法がいくつか新たに導入されている。これらの手法を応用し、複数の化学物質がヒト集団の健康および出生状況に与える影響を解明していきたい。



研究の内容(大学院向け)

環境因子(おもに化学物質)の脳一神経系あるいは内分泌系への影響の研究。必須微量元素の生態学的意義に関する研究。地域の出生力に関する研究。



Profile

研究分野

人類生態学／環境保健学／衛生学／疫学

所属学会

日本衛生学会／日本健康学会／環境ホルモン学会

学歴・経歴

三重県に生まれる。東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修了。国立環境研究所主任研究員、筑波大学社会医学系助教、宮崎大学医学部准教授、東京医療保健大学東が丘看護学部教授を経て現職。

論文

Imai, H., Nishimura, T. Sadamatsu, M. Liu, Y., Kabuto, M. and Kato, N. Type II glucocorticoid receptors are involved in neuronal death and astrocyte activation induced by trimethyltin in the rat hippocampus. Exp. Neurol. 171, 22- 28, 2001.

書籍等出版物

コンパクト公衆衛生学第7版(朝倉書店), 2023年

講演・口頭発表等

第8回生殖・発生毒性学東京セミナー招待講演“環境ホルモンの次世代への影響-特に脳神経系に注目して-”, 2017年5月

競争的資金等の研究課題

海馬機能障害に対する食品由来栄養素の保護作用に関する研究(日本学術振興会科学研究費補助金萌芽, 2008-2010年)

社会貢献活動

- 羽咋市国民健康保険運営協議会委員(2021年度～)
- 羽咋市情報公開及び個人情報保護審査委員会委員(2020年度～)
- 羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員会委員(2020年度～)
- 環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班班員(2003年度～)



基礎看護学講座

石川 倫子 教授

Noriko Ishikawa
contact: ishi1995@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/norikoishikawa12>

研究キーワード

組織開発／キャリア／在宅療養移行支援
診療看護師 (NP)／看護提供システム

不確実性の時代に即した 持続可能な組織開発・人材育成を探る

研究の概要

予期せぬ変化や新たな課題は時代ごとに存在する。私たちはこの不確実な事象を受け止め、時代に即して組織のあり方を変え、新たな取り組みを取り入れ、これを成長のチャンスに変えていかなければならない。そして未来の予測が困難な現代だからこそ、リーダーは人と人とのつながりを意識すること、円滑なコミュニケーションが取れる場づくりなど、不確実性の時代に適した持続可能な組織やチーム創りが求められる。

この持続可能な組織開発やチーム創りをどのように行っているのか、そして看護職は持続可能なキャリアをどのように形成しているのかを探っている。

研究の内容(大学院向け)

超高齢・人口減少時代に、住み慣れた家で生ききるための 移行支援・システムを創る

在宅移行期において、患者・家族は医療者のもとでの治療中心の療養から、患者・家族の責任のもとでの療養、暮らしの営みの中での療養、そして新たな治療・療養環境を創り出していくことが求められる。新たな療養生活を築き、療養継続するには当事者である患者・家族自らが症状マネジメント力を高める必要がある。そのため、診療看護師 (NP) が患者・家族の療養生活で得た自助力を活かし、患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発 (図1・2)を試みている。また、超高齢・人口減少地域における在宅療養移行をスムーズにするための病院 - 在宅支援が継続できる看護提供システムを模索している。

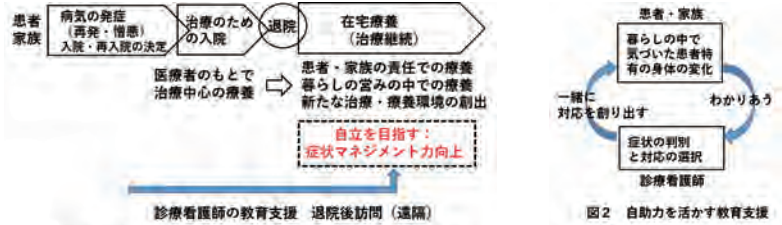


図1. 患者・家族の在宅移行による療養変化と支援の位置づけ

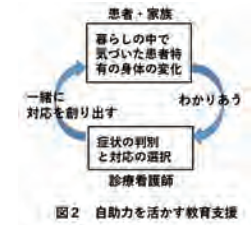


図2. 自助力を活かす教育支援

大震災時に被災者の療養をつなぐ地域看護連携システムを創る

令和6年能登半島地震において、被災者(被災病院における入院患者も含む)の療養をつなぐために、病院看護部は素早い決断とともにあらゆる行動をとっていた。この決断と行動を明らかにし、今後の看護連携システムを構築していきたいと考えている。

メッセージ

私たちが日々行っている看護の意味を裏付けるための研究、そして「組織は人なり」といわれているように、人が育つ組織の在り方を学生の皆さんとともに追究していきたい。

Profile

研究分野

看護管理学／看護教育学／教育学

所属学会

日本看護管理学会／教育目標評価学会
日本NP学会／日本看護科学学会
日本看護学教育学会

学歴・経歴

2018年 東京医療保健大学大学院看護学研究科
博士課程修了 博士(看護学)

2004年 国立病院機構金沢医療センター 副看護
部長

2006年 厚生省医政局看護課看護研修研究セン
ター

2010年 東京医療保健大学東が丘看護学部 准
教授

2014年 石川県立看護大学 准教授

受賞

2018年 日本私立看護系大学協会 会長賞

論文

- 「診療看護師が抱いていた職務上の困難とその対応」『日本NP学会誌第3巻1号』(pp. 1-9) 2019年
- 「学生の経験を教材化し省察を促す能力の育成に焦点化した臨地実習指導者講習会(特定分野)プログラム受講生の達成度」『日本看護学教育学会誌第31巻第2号』(pp. 145-154) 2021年
- 「「退院後の療養場所に関する患者と家族との意向のずれ」に対する退院支援看護師の支援」『看護実践学会 第34巻第2号』(pp. 12-21) 2022年

書籍等出版物

石川倫子著『ナースが症状をマネジメントする! 症状別アセスメント, 第1章 4. 症状アセスメントにおける患者へのアプローチ』メジカルフレンド社, 2016年

講演・口頭発表等

「The role of nurse practitioners in providing assistance to patients and families to transition to home nursing」
『The 7th Annual Meeting of Japan Society of Nurse Practitioner』(pp. 111) 2021

競争的資金等の研究課題

2023-2025年. 科学研究費事業基盤 (C) 研究代表者「診療看護師 (NP) が患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発」

社会貢献活動

- 日本看護管理学会 評議員 専任査読委員
- 日本看護学教育学会 評議員 専任査読者
- 看護実践学会 理事 査読委員



基礎看護学講座

寺井 梨恵子 准教授

Rieko Terai
contact: riekote@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0153361>

研究キーワード

臨床判断／転倒／パフォーマンス評価／ルーブリック
SDGs／災害ボランティア

看護師の視覚情報に関する観察力と 臨床判断能力の向上を目指す

研究の概要

その道のプロは「観察眼」が違うと言われている。それは、看護の分野においても当てはまる。看護師は患者の情報について五感を用いて把握している。五感を用いた情報収集の中でも87%は視覚情報といわれており、視覚情報は看護実践の質を左右するものであるといっても過言ではない。看護師は、瞬間的に、この視覚情報もとに患者の状態を専門的知識に基づいて判断し、ケアの実践を行っていると考えられている。そのため、看護師がどのように視覚情報を得ているのかを明らかにすることは、より良い患者ケアを提供するために重要であるといえる。では、観察眼のある人との違いは何にあるか。『見ているもの』に違いがあるのか、『見ている時間』が違うのか。それとも、見ても知識と結びつかないのか。それらの疑問に対して、看護師や看護学生を対象に調査している。

研究の内容(大学院向け)

臨床判断能力を測定するルーブリックを開発し、 看護職の内省やメタ認知力を高めたい

医療事故のうち転倒・転落は療養上の世話の中で最も多く、看護学生が実習中に体験したヒヤリ・ハットにおいても最も多い。一般的に、転倒リスクアセスメントツールが用いられているが、患者の入院時や状態が変化した時に使用されているため、実際には五感を使った判断や行動が先行している現状が明らかになっている。五感のうち、視覚は87%を占めており、看護師は視覚情報を用いて臨床判断を繰り返している。看護師の臨床判断と眼球運動の関連を明らかにした研究では、臨床経験年数や場面によって特徴に矛盾があった。そのため、臨床判断能力の違いを属性ではなくパフォーマンス評価(ルーブリック)を用いて評価したいと考えた。現在は、転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力について明らかにし、臨床判断能力や場面の違いによる眼球運動との関連を明らかにすることを目的として研究に取り組んでいる。



図. 観察時における看護師の視線の軌跡

メッセージ

看護職一人ひとりが、人々に質の高い適切な医療・看護を提供し、専門職として活躍し続けるためには、生涯にわたり学び続け、自らの資質向上を図ることが求められます。大学では皆さんを「能動的な学び手」と捉え、他者との協働を通じた学びや、人間としての強みを活かした専門職になるための学びを重視していきます。

Profile

研究分野

転倒予防／看護教育／SDGs

所属学会

日本看護科学学会／日本看護研究学会
日本看護学教育学会／医療の質・安全学会
転倒予防学会／日本災害看護学会
看護実践学会

学歴・経歴

2019年 石川県立看護大学看護学研究科博士後
期課程修了 博士(看護学)

2007年 石川県立看護大学成人看護学講座 助手

2014年 石川県立看護大学成人看護学講座 助教

2019年 石川県立看護大学基礎看護学講座
講師

2022年 石川県立看護大学基礎看護学講座
准教授

受賞

2017年 医療の質・安全学会 上原鳴夫記念若手
研究奨励賞

論文

- 視覚情報に基づく転倒予防ケア決定までの臨床判断ルーブリックの作成-信頼性・妥当性の検討-(2024)医療の質・安全学会誌, 19(1), 14-25.
- 転倒リスク場面における看護師の視覚情報に基づくアセスメント(2015)医療の質・安全学会誌, 10(1), 3-10.
- 転倒リスク場面観察時における新人看護師と熟練看護師の眼球運動の特徴(2017)看護人間工学研究誌, 17, 55-61.
- 看護場面における視線解析を用いた研究の動向と今後の課題(2017)石川看護雑誌, 14, 13-22.
- 看護師の転倒リスクマネジメント力の構成概念とその構造(2009)石川看護雑誌, 6, 99-106.

競争的資金等の研究課題

- 看護師の転倒リスク場面における視覚情報の取り込みと臨床判断(2007-2008年度) 科学研究費助成金 若手研究B 研究代表者
- 新人看護師の視覚情報に関する転倒リスクアセスメント教育プログラム(2015-2018年度) 科研費事業 若手研究B 研究代表者
- パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果(2019-2022年度) 科研費事業 研究活動スタート支援 研究代表者

社会貢献活動

- 北陸大学薬学部非常勤講師(2023年-)
- 金城大学看護学部, 専攻科特別講義(2020年-)
- 石川県災害ボランティアコーディネーターとしての災害ボランティア など



基礎看護学講座

田村 幸恵 講師

Yukie Tamura

contact: tamura@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0074569>

研究キーワード

循環器看護／基礎看護技術

心不全パンデミック！75歳以上になると循環器疾患の死亡数はがんが多い

研究の概要

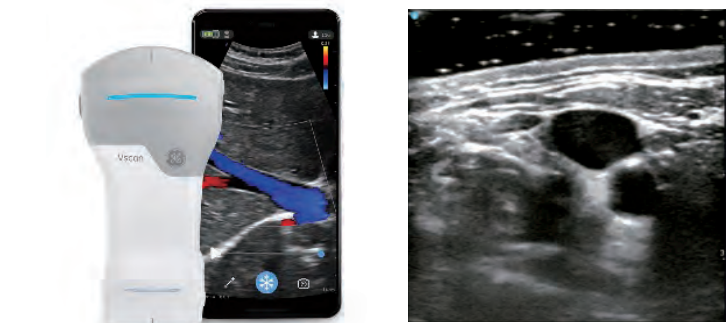
近年、心不全を含む循環器疾患での死亡数は増加し続けており、75歳以上においてはがんよりも多い。これは慢性心不全の罹患率が年齢と共に上がるためである。高齢化が進む我が国において2025年には高齢の心不全患者数が大幅に増加し「心不全パンデミック」に陥ると推測されている。慢性心不全は、一度発症すると根治は期待できず、病状の増悪を繰り返すことで生活の質と生命予後が悪化するため、まず心不全にならないこと、罹患しても急性増悪を繰り返さないことが重要となる。

心不全予防には、運動・食事など生活習慣の改善、症状マネジメント、看護師による観察などが重要であるが、高齢化する心不全患者の発症・増悪予防においては課題が多い。その課題と方策について探っている。

研究の内容(大学院向け)

心不全増悪を看護師がより早期に発見するための手立てを探る

心不全管理における看護師の役割は、問診と身体所見観察による心不全増悪の予防・早期発見と生活の自己管理指導であるが、特に高齢者は、自己管理を継続することや明確な自覚症状を聞き取ることが難しいことも多く、さらなる対策が必要である。その対策の1つとして、看護師が行う身体所見観察にポケットエコーを使用することに着眼している。今までも血圧計やパルスオキシメーターで身体内部の情報を得てきたように、ポケットエコーで身体内の水分量を直接そして簡単に観察することができないか。慢性心不全患者の生活の質を低下させないために、可能な限り早期に治療につなげられる手立てを探っている。



<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000039.000051346.html>

メッセージ

看護学を学ぶ上で学問や研究はとても大切です。それと同等に皆さん自身が患者さんと関わり、見て、聞いて、感じて学ぶことも大変大きな学びになります。人との関わりを通して「人って様々で興味深い！人と関わるっておもしろい！看護って奥深い！」こんな看護の面白みを共に学びたいと思います。

Profile

研究分野

循環器看護／基礎看護技術

所属学会

日本循環器看護学会／日本看護技術学会
日本看護教育学会 など

学歴・経歴

2015年 石川県立看護大学看護学研究科
博士前期課程修了 修士(看護学)

2001年 石川県立看護大学 助手

2010年 石川県立看護大学 助教

2021年 石川県立看護大学 講師

受賞

第16回日本循環器看護学会学術集会 優秀演題賞

論文

- 看護師のための携帯型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価(2022)日本循環器看護学会誌17(2), 47-54
- Feasibility of Using Pocket-Sized Ultrasound Device to Measure the Inferior Vena Cava Diameter of Patients With Heart Failure in the Community Setting: A Pilot Study. (2020) J Prim Care Community Health.

講演・口頭発表等

- 看護師による携帯型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価, 第16回日本循環器看護学会学術集会(2019)
- 看護学生によるポケット型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価, 第15回日本循環器看護学会学術集会(2018)

競争的資金等の研究課題

- 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義(2020-2024) 科学研究費助成金 基盤(C)
- 慢性心不全の増悪時に看護師が携帯エコーで内頸静脈を測定することの有用性(2024-2027) 科学研究費助成金 基盤(C)

社会貢献活動

- 北陸大学薬学部 非常勤講師(2023年-)
- 第39回日本看護科学学会 実行委員



基礎看護学講座

石井 和美 講師

Kazumi Ishii

contact: kazuisii@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/map30>

研究キーワード

看護技術／看護教育／清潔ケア

ケア技術の質向上、患者さんにとってより安全・安楽なケア方法の考案を目指す

研究の概要

清潔は人間の基本的欲求であり、日々の生活の中で当たり前に行っている生行動の1つである。しかし、病気や手術など何らかの理由によって、自分で清潔を保持できなくなった場合は他者に清潔行動を委ねることになる。ケア実施者はその人に代わって、より安全で安楽で効果的な(質の高い)ケアを提供し、その人の清潔のニーズ(欲求)を満たす必要がある。近年では様々なケア用品が開発され、ケアを実施する場や人も多様になっており、このような現状においてもより質の高いケア技術を患者に提供するためには常にケア技術のエビデンスを検証し続ける必要がある。清潔ケアでは「洗う」、「拭く」といった基本的な技術がある。このような基本技術に着目し、誰がいつどのような場で何を用いても同じケアが提供できるよう、ケア技術の検討を行っている。

研究の内容(大学院向け)

新たな清拭素材を用いた清拭効果の検討

-得られたエビデンスを臨床での看護実践や教育に還元-

清拭は入浴やシャワー浴ができない対象にタオルを使って皮膚を清潔にする看護ケアである。その効果は皮膚の汚れを落とすだけでなく、温かさや爽快感などの気持ちよさやマッサージ効果、循環促進効果などの多くの効果があり、患者にとっては快の刺激を得られる数少ない看護ケアとなる。しかし、臨床現場では清拭の実施者が看護師から看護補助者に移行する傾向にあり、看護師が清拭を行う機会が減少することによってケア技術の低下が懸念されている。その一方で看護師が行う清拭が、術後や重症度の高い患者へのケアとなり、より高度な技術を求められる。さらに近年では、清拭に使用されるタオル素材の変化により従来の清拭のエビデンスに加え、新たなケア方法の検討が課題となっている。そこで、従来の清拭素材と新たな清拭素材による拭き取り効果の異なる違いを用いた臨床看護師の清拭圧を明らかにし、清拭圧と拭き取り効果の関係についての検討を行った。現在は清拭素材の違いによる皮膚のダメージについての検討を進めており、より安全・安楽で質の高いケア技術の考案を目指すとともに得られたエビデンスを臨床での看護実践や教育に還元していきたい。



メッセージ

清潔ケアは患者さんにとって快の刺激を与えることができる看護技術です。ケアによって、その人のもてる力を引き出すことのできるケア方法を考案し、臨床および教育に還元していきたいと思います。

Profile

研究分野

基礎看護学

所属学会

日本看護技術学会／日本看護教育学会
日本看護科学学会／看護理工学会
日本看護シミュレーションラーニング学会

学歴・経歴

2017年 石川県立看護大学大学院看護学研究科
博士前期課程看護デザイン分野 修了

2017年 金沢医科大学看護学部 助教

2021年 金沢医科大学看護学部 講師

2023年 石川県立看護大学大学院看護学研究科
博士後期課程コミュニティケア・看護デザイン科学分野 修了

2023年 石川県立看護大学 講師

論文

- 圧力測定フィルムを用いた臨床看護師の清拭圧 健常皮膚に対する綿タオルとディスポーザブルタオル清拭の比較, 看護理工学会誌 10 37-43, 2022.
- ディスポーザブルタオルを用いた部分清拭が高齢者の皮膚に与える影響, 日本看護技術学会誌 18 17-25 2019.

講演・口頭発表等

ロールプレイと動画視聴を取り入れた口腔内吸引演習の効果 -情意面の強化を目指した工夫-, 第5回 日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会, 2024.

競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業 基盤研究(C) 清拭による皮膚ダメージの可視化と皮膚を傷つけないケア技術の考案



基礎看護学講座

瀬戸 清華 助教
Kiyoko Seto
contact: setokiyo@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/setokiyo>

研究キーワード

希少・難治性疾患／ALS／ピアサポート／当事者／自助・互助

希少・難治性疾患と生きている当事者の世界を知り、ピアサポートの支援へとつながる

研究の概要

近年、希少・難治性疾患の当事者間において、患者交流会やSNS等を通じて、病を生きるありのままの姿を示すことや、体験に基づく物語を語りなおすことを中心とした「支えあいの相互行動」が行われている。当事者たちは希少・難治性疾患と生きる過程での道しるべをピアサポートによって獲得し、そしてまた自身も新しい当事者に向けて光を灯す存在となっていく。

そこで、ALS療養者のピアサポートに着目し、患者交流会において当事者間でのどのようなピアサポートが成されているのかを明らかにし、当事者視点でのピアサポートの支援へつなげることを目標に取り組んでいる。

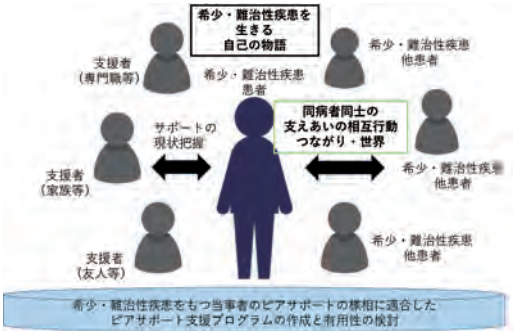
学生とともに、希少・難治性疾患と生きる当事者の理解を深めたり、住み慣れた地域でより良く療養するための方法を考えたりできるように、研究と学生サークル活動をリンクさせた取組もはじめています。

研究の内容(大学院向け)

当事者の声や意思と向き合い、つながりを解明し、強化する

ALS療養者の患者交流会に継続して身を置くことで、少しずつ空間の雰囲気や、療養者の言わんとする声、揺れ動いたりぶれない意思に触れることができました。現在のALS患者交流会を当事者視点でさらによくするために、まず患者交流会の場にあるピアサポートのあり様を観察し、記述することを通して、実践を下支えする現状を把握することができると考えます。ALSで言えば、人と人、人と道具、人と支援者といったALSのピアサポートのために欠かせない連関、つながりの中にあるものを解明することで、ALS当事者に広がる世界に近づくことが必要です。

ALS当事者の世界に入り込んでこそ見えるものを基に、ピアサポートの支援プログラムの構築を目指します。



メッセージ

希少・難治性疾患と生きている当事者を支えたいと思っている者同士もつながり合いましょう。そして、希少・難治性疾患だからこそ体験の奥深さを一緒に語りましょう。

Profile

研究分野

基礎看護学／難病看護学

所属学会

日本看護科学学会／日本難病看護学会
看護実践学会／日本看護管理学会

学歴・経歴

2019年 石川県立看護大学看護学研究科
博士前期課程修了 修士(看護学)

2015年 石川県立看護大学 助手

2017年 石川県立看護大学 助教

論文

教育施設内における高頻度接触面の汚染度実態と次亜塩素酸水の拭き取りの影響. 石川看護雑誌, 第19巻, 41-49, 2021.

講演・口頭発表等

- Support for the continuation of education in a school affected by the 2024 Noto Peninsula Earthquake. The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing
- 石川県南加賀保健センター管内 令和6年度小児慢性特定疾病児童等保護者交流会「つながる -発信しよう、誰かのために。受け取ろう、自分のために-」講演(2024.11)
- 石川中央保健福祉センター管内 令和6年度小児慢性特定疾病児童等の保護者交流会「慢性疾患をもつ子どもの子育ての工夫」講演(2025.2)

競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業(若手研究)(2020-2024年度延長) ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成

社会貢献活動

- かほく市介護認定審査会委員
- 宝達志水町介護認定審査会委員



基礎看護学講座

千田 明日香 助教
Asuka Senda
contact: sendaa06@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/sendaa06>

研究キーワード

中堅看護師／看護実践能力／看護管理者

多様な場で勤務する看護師が看護実践能力を向上させるための取り組みを知る

研究の概要

看護師は実践経験を重ね、また自己学習を継続することで看護実践能力を向上させています。近年、看護師の勤務場所の多様化が進み、看護師が看護実践能力を向上させるためには個人の力だけでなく、看護管理職による看護師の支援も必要になっています。

現在、私は病院の様々な部署で勤務する中堅看護師が看護実践能力向上のためにとる行動や看護管理職による支援について研究しています。

研究を通して多様な場で勤務する中堅看護師の看護実践能力の向上に必要な教育、支援について明らかにしていきたいと考えております。

研究の内容(大学院向け)

特定の病棟で看護師が看護実践能力向上のためにとる行動、看護管理職の支援を探究する

修士課程では特別個室病棟に勤務する看護師特有の困難と対処について調査し、病棟の物理的、人的、文化的視点から分析しました。現在は、看護管理者がCOVID-19患者専用病棟を開設した時に配置転換する看護師をどのような基準で選出しようとしたか、また、配置後の評価内容について研究をしています。結果、COVID-19による入院患者が増加した緊急時においても、看護管理職は看護師のもつ看護実践能力を信じて看護師を選出していました。また、COVID-19患者専用病棟に配置することによる看護師のメンタルケアを重視し、配置後の看護師が習得した知識や技術、キャリアへの意識などを配置転換後の成果として評価していました。

今後は、看護補助者との連携が求められる部署に勤務する看護師の看護実践能力向上に関わる取り組みについて研究をすすめ、多様な場で勤務する看護師が働きやすい環境になるとともに、患者満足度も向上する環境を作れるよう支援していきたいと考えています。

メッセージ

看護師が看護実践能力を向上させ持続可能な働き方ができるようにするために、どのような支援をしていけばよいか、皆さんと考えていきたいです。お待ちしております。

Profile

研究分野

看護管理学

所属学会

日本看護研究学会／日本看護管理学会
日本医療・病院管理学会／日本看護学教育学会
日本看護科学学会／看護実践学会

学歴・経歴

2005年 石川県立看護大学看護学部 卒業

2018年 金沢医科大学大学院看護学研究科修了
修士(看護学)取得

2005年 金沢医科大学病院 看護師

2021年 金沢医科大学看護学部 助教

2022年 石川県立看護大学 助教

論文

全室個室で複数診療科病棟勤務の看護師特有の困難と対処:病棟の物理的・人的・文化的環境の視点からの分析. 日本医療・病院管理学会誌. 58(3). 2021

講演・口頭発表等

- 全室が有料個室の複数診療科病棟に勤務する看護師が病棟の環境により抱く困難と対処. 第23回日本看護管理学会学術集会(示説)
- COVID-19患者専用病棟に配置する看護師の選出において重視された基準および影響要因. 第43回日本看護科学学会学術集会(示説)

競争的資金等の研究課題

令和3(2021)年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)研究活動スタート支援. 課題番号:21K21150「看護管理職がCOVID-19患者専用病棟に配置する看護師の選択基準と評価の実態」



母性・小児看護学講座

亀田 幸枝 教授

Yukie Kameda

contact: ykameda@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0192830>



研究キーワード

妊娠前／健康教育／プレコンセプションケア／プログラム開発

あなたはプレコンセプションケアを知っていますか？ -将来の妊娠を見据えた自分たちの心身の健康管理-

研究の概要

プレコンセプションケアは、妊娠前の女性やカップルに適切な知識・情報を提供し、将来の妊娠に向けたヘルスクエアを行う取り組みである。このケアにより、ヘルスリテラシーが向上し、妊娠前の健康状態が改善される。その結果、より安全で安心な妊娠・出産が可能となり、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを描くことができるようになる。プレコンセプションケアの対象領域は、栄養状態、不妊、ワクチンで予防できる疾患、性感染症、若年妊娠や望まない妊娠、喫煙など多岐にわたる。しかし、これらの情報を得る機会は限られている。2023年度からは、HPV（ヒトパピローマウイルス）関連疾患（子宮頸がんや中咽頭がんなど）の予防に焦点を当て、若者のHPV感染予防行動を促進するための教育コンテンツの作成と啓発プログラムの開発に着手している。

研究の内容(大学院向け)

ピア(仲間)の力を活かした啓発活動と研究を

本学の助産師養成課程(助産看護学分野)では、妊娠中の女性やカップルに健康教育を行っている。プレコンセプションケアの考え方を取り入れ、妊婦やパートナーにとどまらず、妊娠前の女性やカップルなど若い世代の男女への健康教育や情報を発信し、研究を行う。若い世代に近い存在であるピア(仲間)の力を活用し、学部生や大学院生と教員で構成されるチームが共同で取り組んでいる。このアプローチにより、若者の健康意識の向上や効果的なプレコンセプションケア教育モデルの構築を目指している。

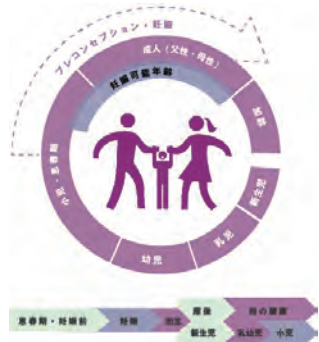


図1.生涯のうちのプレコンセプションケアの位置づけ
(<https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/preconception/> より引用)



図2.HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象学生とその母親への子宮頸がん予防啓発プログラム資料から一部抜粋

メッセージ

現代は結婚、妊娠、出産、子育てに対する価値観はさまざまであり、ライフプランの選択肢も人それぞれです。助産師の立場から妊娠を見据えてと書いてはいますが、妊娠を選択しないことをネガティブにとらえているわけではありません。ただ、知らないことで選択肢が狭まらないようにと願っています。みなさんも自分ごととして考え、一緒に啓発活動や研究に取り組んでいきます。

Profile

研究分野

助産学／母性看護学／思春期学

所属学会

日本助産学会／日本看護科学学会
日本母性衛生学会／日本思春期学会

学歴・経歴

1999年 金沢大学医学部保健学科 助手
2007年 金沢大学医学系研究科 助教
2008年 金沢大学大学院修了 博士(保健学)
2011年 金沢大学医薬保健研究域保健学系 准教授
2017年 石川県立看護大学 教授

受賞

2007年 日本助産学会 学術賞

論文

- 出産クラス前後の妊婦の自己効力感と指導者の Professional Learning Climate との関連性, 金沢大学つるま保健学会誌, 34(2), 115-122, 2010年
- Development of an empowerment scale for pregnant women, Journal of the Tsuruma Health Society, Yukie KAMEDA et al., 32(1), 39-48, 2008年
- 周産期のシミュレーション教育で使用するルーブリックの作成と教育実践報告, 石川看護雑誌, Vol.22, 15-22, 2025.

書籍等出版物

- 今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第4版, 第2章 妊娠期の助産診断 妊娠時合併症を有する診断, 南江堂(東京), 全1216頁(p. 244-279), 2019年
- 助産師教育に活かすパフォーマンス評価ワークブック 導入のための初めの一步, 第II部 事例編 2-2 分娩助産習のルーブリックの事例, 全200頁(p53-61), 2024年

講演・口頭発表等

- 男性不妊症と予防行動に対する男女大学生の知識と関心, 第39回 日本思春期学会総会・学術集会, 2020年
- 性成熟期の男女別にみた妊孕性知識と関連する因子: 亀田幸枝, 他2名, 第42回日本思春期学会総会・学術集会(東京), 2023年
- HPVワクチン未接種女性におけるキャッチアップ接種意向の関連要因: 亀田幸枝, 他1名, 第43回日本思春期学会総会・学術集会, 2024年

競争的資金等の研究課題

- 周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性, 亀田幸枝, 他3名, 科学研究費補助金基盤研究(C), 2019-2024年度
- HPVワクチン接種のジェンダーイコール実現に向けた親への教育コンテンツの開発, 亀田幸枝, 他3名, 科学研究費補助金基盤研究(C), 2024-2027年度



母性・小児看護学講座

米田 昌代 教授

Masayo Yoneda

contact: masayo@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0063361>



研究キーワード

グリーフケア／流産・死産・新生児死亡／セルフヘルプグループ支援

あかちゃんを亡くされた方を 地域全体で支えるシステム作りをめざして

研究の概要

グリーフケアとは様々な喪失体験にうちひしがれる人々に寄り添い続けることによって、哀しみを抱えながらも、その人らしく生きられるように支援することである。特に周産期喪失は、通常は喜びにあふれた妊娠・出産の中で起こる突然の出来事であり、母親にとって深い傷を負う体験となる。このような体験は、悲嘆が複雑化しやすく、様々な健康障害を生じたり、残されたきょうだいに対する不適当な養育につながる事が明らかになっている。このようなことから、周産期喪失時にグリーフケアは重要である。本研究では多職種、セルフヘルプグループが連携してその対象にあったグリーフケアを提供できるように、また、対象自らが選択できるような施設から地域へのシステム作りをめざしている。

研究の内容(大学院向け)

これまで、医療施設での周産期のグリーフケアの実態、医療施設、行政、セルフヘルプグループでの周産期の死を経験した母親・家族に対する退院後のグリーフケアと地域連携の現状・課題を調査し、そこから「退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案」(右図)を提案した。その後、モデル試案の妥当性を支援関係者に対してデルファイ法を用いて検討した結果、高い同意率を得ている。モデル実現に向けて、医療施設・行政・自助グループと連携し、活動しつつ(右記ちらし参照)、現在、セルフヘルプグループの運営方法、オンラインサポートグループミーティングの実態を調査し、効果的活用方法を考察し、遺族にとって悲嘆プロセスを再生への道と促進できるものとなるよう、運営方法(システム化)の検討を行っている。加えて、グリーフケアに関わる支援者のメンタルヘルスクエアにも取り組み始めたところである。



退院後の周産期のグリーフケアと地域連携システムモデル試案



自助グループ支援・当事者支援

ベリネイタル・グリーフケア検討会
(年2回 7月・2月開催)

メッセージ

健康に生まれてくるということはあたりまえのことではありません。奇跡の連続といってもよいかもしれません。生命の神秘について、生命の誕生のすばらしさについて学び、生と死について一緒に深く考えてみませんか？

Profile

研究分野

ライフサイエンス／臨床看護学
母性・助産・女性看護学

所属学会

日本助産学会／日本母性衛生学会／日本母性看護学会／小児保健学会／日本子ども虐待防止学会／日本女性医学学会／日本ヒューマン・ケア心理学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本看護学教育学会／看護理工学会／看護実践学会

学歴・経歴

2000年 石川県立看護大学基礎看護学講座 助手
2002年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 助手
2005年 金沢大学大学院医学系研究科博士前期課程 保健学専攻看護学領域母子看護学分野 修了
2007年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 助教
2008年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 講師
2015年 金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程 保健学専攻看護学領域母子看護学分野 修了
2017年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 准教授
2020年 石川県立看護大学母性・小児看護学講座 教授

受賞

2023年 日本助産師会会長表彰

論文

- Yoneda M, S, Shimada Y: Validity on tentative design of a regional cooperation system for postdischarge perinatal grief care by the Delphi method. Journal of the Tsuruma Health Science Society Kanazawa University 40(1): 21-33, 2016
- Yoneda M, Yoshida K, Soyama S, Shimada Y: Post-discharge perinatal grief care and tentative design of a regional cooperation system. Journal of the Tsuruma Health Science Society Kanazawa University 39(2): 103-112, 2016
- 米田昌代, 吉田和枝, 曾山小織, 島田啓子: 周産期のグリーフケアに取り組む看護者の原動力. 石川看護雑誌, 12, 35-44, 2015.3

書籍等出版物

エンドオブライフケア看護学-基礎と実践-, 小笠原知枝(編著), ヌーヴェルヒロカワ 第12章 エンドオブライフケアの事例, 223-226, 2018米田昌代, 桶作梢(分担執筆)

講演・口頭発表等

- SNS・オンラインを活用した周産期喪失を経験した家族のセルフヘルプグループ・サポートグループの活動の実態と課題, 第38回日本助産学会学術集会, 2024.
- 講演: 石川県内保健福祉センター, 日本助産師会等: 「周産期のグリーフケア」

競争的資金等の研究課題

科研費基盤(C) ベリネイタル・ロスに関わる支援者へのメンタルヘルスサポートシステムの開発(令和7-10年)

社会貢献活動

- 天使のゆりかご(自助グループ支援)
- ベリネイタル・グリーフケア検討会(左記参照)



母性・小児看護学講座

曾山 小織 講師

Saori Soyama

contact: takanosa@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0152810>

研究キーワード

プレコンセプションケア／ヘルスリテラシー／身体活動
 医療コミュニケーション／保健行動

妊婦さんの健康づくりを通して、 未来の子どもの健康を目指す

研究の概要

妊婦さんが健康に過ごすことは、妊娠期間中や出産時の異常を予防することにつながります。妊娠中に子宮内環境を良好に保つことは、胎児の発育・発達をよくするだけでなく、子どもの将来の成人病予防にもつながります。医療専門職が定期的に妊婦さんを診察して、健康について話し合う機会は妊婦健康診査において他にはありません。妊婦さんが健康行動をとるために、医療専門職はどのように情報を伝えるとよいか、医療コミュニケーションの研究をしています。例えば、妊婦さんに身体活動(運動)を勧める場合、妊婦さんと日頃の生活について話し合い、どのような運動をどのくらい実施するか、妊婦さん自身が決めて実践できるように話を展開しています。研究では、妊婦さんと医療専門職が話し合っているところを観察して、会話を分析しています。分析から得られた結果は、看護師及び助産師の教育や医療現場に役立てようと考えて取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

妊娠前からのカップルの健康づくりは、生涯の健康の基礎となる

妊娠前の時期は、健康教育の空白の時期です。子どもをもつこと、もたないことを考えて決めるまでの時期は、女性だけではなく男性にとっても健康づくりの基礎となる時期です。妊娠前の男女のヘルスリテラシーが向上するように、行動変容モデルを使って実態を調査して、アプローチ方法を考えるための研究を行っています。



WHO Preconception Care Regional expert group consultation, 11, 2013. 一部改変

メッセージ

妊娠や出産は人類が誕生したときから繰り返されていますが、まだ解明されていないことが沢山あります。また、妊婦さんや産婦さんへのケアは、日進月歩していますが、安全や安楽を追求すれば改善するところが見つません。いろいろな考えを話し合うことで新しい発見があり、解決するためのアイデアが浮かびます。疑問を解決するためのプロセスを体験してみませんか。

Profile

研究分野

母性看護学／助産学／女性看護学

所属学会

日本助産学会／日本母性衛生学会
日本母性看護学会看護研究学会
日本小児保健協会／日本子ども虐待防止学会
看護理工学会 など

学歴・経歴

2005年 佛教大学社会学部(社会学士)
2005年 石川県立看護大学 助手
2011年 石川県立看護大学 助教
2013年 University of Melbourne,
Master of Women's Health
2018年 石川県立看護大学 講師
2023年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
博士(保健学)

論文

- 石川県における助産師の専門的ケア実践の現状
- 祖母の子育て経験と孫育てに対する意識との関連
- 妊婦の身体活動に対する保健指導の縦断的観察
- Factors related to taking folic acid supplements before next pregnancy in parous women
- 葉酸の補足と妊娠間隔に関する産科医療者からの産後の保健指導の実態と女性の意識
- 受孕以前の葉酸サプリメント摂取促進

講演・口頭発表等

- 完全母乳栄養児の生後4日目までの生理的体重変化に影響する要因
- Interaction between medical workers and pregnant women in prenatal checkup
- Midwifely care promoting health-related behaviors among pregnant women
- 特別養子縁組をした養親が子育てしやすい環境を整える過程-複線経路等至性モデリングによる一事例の分析-
- 特別養子縁組をした養親が夫婦で協同して子への真実告知を行う過程-複線経路等至性モデリングによる一事例の分析-

競争的資金等の研究課題

- 挑戦的萌芽研究:妊婦のセルフケア行動を促進する要因の検討とガイドラインの作成
- 基盤研究(C):神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識



母性・小児看護学講座

桶作 梢 講師

Kozue Okesaku

contact: okesaku@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/kozueokesaku>

研究キーワード

AYA (Adolescent and Young Adult) 世代
 セクシュアリティ／がん／育児支援

思春期・若年成人期にがんになった人々が 治療後の人生を自分らしく生きる過程を セクシュアリティの観点から支えたい

研究の概要

AYA 世代(Adolescent and Young Adult: 思春期・若年成人)とは15歳から39歳までの若い世代を指す言葉である。この時期に多くの人は進学や就職、パートナーとの交際や結婚、妊娠・出産などのライフイベントを経験する。AYA 世代でがんに罹患すると、がん治療および治療による後遺症により外見や性機能・生殖機能に影響を与える場合がある。このことは医療の発展によりがん患者の5年生存率が向上しており、AYA 世代がん患者は治療後の長い人生をいかに自分らしく生きてゆくかを模索する状況において重要な課題である。この課題について、様々な治療段階にあるAYA 世代がん患者や周産期にあるAYA 世代がん患者のセクシュアリティ支援の方法や支援体制構築に関する研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

AYA 世代がん経験者のセクシュアリティ(子をもつこと・もたないこと、 交際や婚姻、性行為、外見など)に関する支援体制構築を目指して

AYA 世代がん経験者がセクシュアリティに関してどのような経験をしているのかを明らかにするために、AYA 世代でがんに罹患した男女にインタビューを行い、得られた結果を質的記述的に分析した。その結果、AYA 世代がん経験者は悩みや困難を抱えているが相談しづらい、支援が得られにくいという経験をしていた。さらに、治療時期により悩みの内容は異なること、男女に共通する内容があること、がんと診断された時点で妊娠している女性に対しては個別の支援が必要であることが明らかになった。この結果を踏まえ、現在はAYA 世代がん経験者の悩みや困難を医療従事者と共有するためのツール開発に取り組んでいる。将来的には、このツールを医療機関等で活用し、専門家や支援施設と連携して必要な支援を提供するシステムの構築を目指している。

AYA 世代でがんに罹患した方々の経験や支援の大切さを医療従事者に知ってもらうための研修会やイベントをがんサロンや学会で開催している。

◀AYA 世代がん経験者と大学生のオンライン対話カフェ2021の様子(石川県がん安全生活サポートハウスついで場はなうめ)
 AYA 世代がん経験者の ▶ セクシュアリティに関する支援体制(案)

メッセージ

将来子をもつ・もたないことについて考えること、パートナーとの関係について考えること、自分のからだと心の性について考えること…「セクシュリティ」について考えることは「どう生きるか」を考えることです。そんなことを皆さんとともに学び、考えたいと思います。

Profile

研究分野

母性看護学／女性看護学／生涯発達看護学

所属学会

日本看護科学学会／日本母性衛生学会
日本がん看護学会／日本助産学会

学歴・経歴

2000年 富山医科薬科大学医学部看護学科 卒業
2018年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
修士(保健学)

論文

- 桶作梢, 田淵紀子(2019):乳がんサバイバーが子どもに母乳を与える体験・母性衛生, 60巻2号, 320-328.
- 桶作梢, 米田昌代, 濱耕子(2023):がん治療のために妊娠中絶を余儀なくされたAYA 世代女性がんサバイバーの次子妊娠への思いと契機・母性衛生, 63巻4号, 968-976.
- 桶作梢, 濱耕子, 米田昌代(2023):AYA 世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験・看護科学会誌, 43巻・

書籍等出版物

- エンドオブライフケア看護学-基礎と実践-小笠原知枝(編著) ヌーヴェルヒロカワ
- 第12章エンドオブライフケアの事例, 223-226 米田昌代, 桶作梢(分担執筆)

講演・口頭発表等

- 妊孕性温存を望む小児・AYA 世代への看護 一緒に考えよう、私たちにできること(第37回がん看護学会 交流集会, 2023)
- がん治療のために妊娠中絶を余儀なくされたAYA 世代女性がんサバイバーの次子妊娠への思いと契機(第36回日本助産学会, 2022)

競争的資金等の研究課題

科学研究費助成事業 若手研究「治療後に出産するAYA 世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究」2019-2023年

社会貢献活動

- ペリネイタル・グリーフケア検討会
- 日本がん看護学会特別関心活動グループ(小児・AYA 世代がん看護)



母性・小児看護学講座

河合 美佳 助教

Mika Kawai

contact: mikawai@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

尿失禁／女性／産後

産後の女性の体の回復を考える -女性の将来的な健康も見据えた支援を目指して-

研究の概要

女性の尿失禁は妊娠や出産が契機となり発症することが多く、加齢とともに増加し、尿失禁がQOLに影響するという点では妊娠や出産時に関わる看護者は女性の生涯を通して考えなくてはならない問題です。産後に尿失禁が起こる原因としては、骨盤底筋群の弛緩により膀胱が下降することや、妊娠中に子宮と癒着した膀胱が産後の子宮復古とともに下降するためと考えられていることから、膀胱底の位置と骨盤底筋群の筋力の変化をエコーを用いて測定し尿失禁との関連を検証することを検討しています。

研究の内容(大学院向け)

産後の女性の体の回復を考える

-女性の将来的な健康も見据えた支援を目指して-

女性は解剖学的に男性より尿道が短いことにより尿失禁を起こしやすいと言われており、尿失禁を有する女性の約半数が、知られたいくないなどの社会的ストレスを感じているとの報告もあることから、尿失禁がQOLに影響するという点では女性の生涯を通して考えなくてはならない問題です。女性の尿失禁の関連要因として出産経験があり、実際に妊娠中から産後にかけて1度でも尿失禁症状のある者は5～6割であるといわれており、また、妊娠・産褥期に尿失禁のあった者はなかった者に比べて後に高率に尿失禁を発症していたという報告もあります。そのため、妊産褥婦に関わる看護職は尿失禁予防・緩和に対する認識を高め、女性の将来的な尿失禁の問題も見据えて介入を行っていくことが重要であり、そのための支援・介入方法について研究を行っています。



メッセージ

母性看護学は妊娠、出産、育児を中心に、女性の一生を通じた支援を学びます。女性にとってどのような支援が必要なのか、一緒に考えてみませんか。みなさんと一緒に学べることを楽しみにしています。

Profile

研究分野

女性看護学／母性看護学

所属学会

日本母性衛生学会

学歴・経歴

2005年 独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 助産師

2011年 独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 助産師

2018年 石川県立看護大学 助手

2021年 石川県立看護大学大学院看護学研究科 修士(看護学)

2021年 石川県立看護大学 助教

論文

河合美佳, 西村真実子, 井上ひとみ, 田屋明子. 子どもを虐待する母親に抱く感情と態度-地域住民への効果的な啓発のあり方を考える-. 小児保健いしかわ. 2005, 17, 10-15.

講演・口頭発表等

河合美佳, 濱耕子. 尿失禁予防・緩和に関する看護職の認識と妊産褥婦への保健指導の実態. 第62回日本母性衛生学会総会・学術集会, 2021, 10.

社会貢献活動

- ベリネイタル・グリーフケア検討会
- 新人助産師のスキルアップ支援



母性・小児看護学講座

野沢 ゆり乃 助教

Yurino Nozawa

contact: yu0223@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yurino>



研究キーワード

妊産婦／妊婦歯科健診／育児不安

妊産婦、新生児が安心して過ごせるための 助産ケアを考える

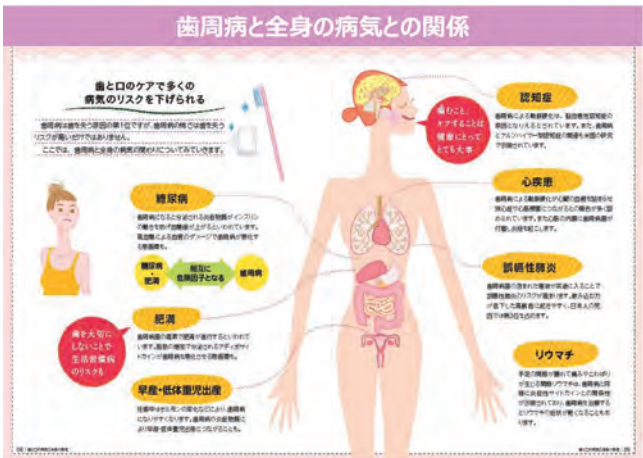
研究の概要

妊娠・出産・子育ては女性だけではなく家族にとって大きな変化である。少子化が進む中で子どもは大切な存在であり、その子を育てていく周囲の環境の重要さもコロナ禍を経てさらに大きくなってきた。母親には人生においてかけがえないイベントである妊娠、分娩、産褥期を楽しく、安心できる環境で過ごしてほしいと考えている。妊産婦、新生児が安心して過ごしていくための必要な支援は何か、支援をしていくために何が必要かを明らかにし、実践できるケアを検討したい。

研究の内容(大学院向け)

妊婦歯科健診の受診率向上を目指した取り組み

近年、口腔の健康が全身の健康に密接に関係していることが明らかとなっており、周産期においても口腔内からの感染・慢性炎症巣としての歯周病が早産や低出生体重児出産などを引き起こす可能性があるという報告がある。妊婦は歯周病に罹患しやすく、歯周病は周産期有害事象と関連があると言われているにも関わらず、妊婦歯科健診の無償化が開始して以降、現在まで妊婦歯科健診の受診率が低い現状にあることに問題を感じている。普段健診に行くことが出来ない人も妊娠を機会に継続的な受診行動の一步になるのではと考え、そのために妊婦歯科健診受診率向上を目指した支援方法を見出すための研究に取り組んでいる。



厚生労働省公益社団法人日本医師会「妊産婦における口腔健康管理の重要性」
(<https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000488879.pdf>) (アクセス2023年2月16日)

メッセージ

少子化が進む中で産科医療は大きく変化し、助産師が担う役割への期待も大きくなっています。母親が安心して妊娠・出産・子育てしていくために私たちに出来ることを学生の皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

Profile

研究分野

母性看護学

所属学会

日本母性衛生学会／日本助産学会

学歴・経歴

2017年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 看護科学領域博士前期課程健康発達看護学分野助産学専攻 修了

2017年 都立広尾病院 助産師

2021年 石川県立看護大学 助教

論文

- 妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際に関する文献検討 2016年
- 産後1ヵ月健診時に抱く母親の育児不安の実態 2023年

講演・口頭発表等

- 妊婦と医療者の口腔衛生に対する意識と保健指導の実際に関する文献検討 第32回石川県母性衛生学会学術総会 第30回北陸母性衛生学会学術総会
- 産後1ヵ月健診までに抱く母親の育児不安の実態 第62回日本母性衛生学会総会

社会貢献活動

- ベリネイタル・グリーフケア検討会
- 新人助産師のスキルアップ支援



母性・小児看護学講座

戸部 浩美 教授
Hiromi Tobe
contact: tobejc@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/hiromi_tobe



研究キーワード

家族のレジリエンス／養育態度／感情調整／愛着形成・修復
マインドフルネス／家族学

子育て・夫婦のピンチを、自身への思いやりを深め 家族の絆を強めるチャンスに変える！

研究の概要

育児は誰にとっても大きなチャレンジであり、育児ストレスにより怒りを言葉で子どもにぶつける等のマルトリートメントは広く一般的に見られ、子どもに長期的で深刻な悪影響を及ぼすだけでなく、夫婦の危機や自尊心・自己効力感の低下にもつながる。そこで、適切な育児法だけでなく、親が自身の感情と向き合い、レジリエンス(精神的回復力)を高められるように学び、訓練するプログラムを開発し、ランダム化比較試験で検証し、レジリエンス、怒りのコントロール、自尊心、問題焦点対処、夫婦コミュニケーション関係が改善した。

養育態度と子どもの特性の関連やマインドフルネスを取り入れた育児についても検討し、これまでのポピュレーションアプローチに加えて、被虐待経験、発達障害、不登校、養子縁組・里親など、育児により困難を抱える対象のニーズや支援についても調べ、より効果的な支援を導き出せるよう研究を重ねている。

研究の内容(大学院向け)

人のウェルビーングの基礎となる愛着形成や修復について、 すべての人が学び、訓練し、支援し合える社会実現に向け、 看護の視点を取り入れた「家族学」を構築

子どものウェルビーングには、親あるいは重要他者との情緒的な絆である愛着が不可欠だが、親自身がその親との愛着を築けていない場合も多い。親に寄り添い、親子関係や夫婦関係を改善できるよう支援する中で、そのプロセスが、自身の愛着の修復や傷の癒しのプロセスにもなり得る。レジリエンスは、Ordinary Magic(当たり前の魔法)とも呼ばれ、ごく簡単な方法で、親が変わり、子どもが変わり、家族が変わる奇跡を多く見てきた。痛感するのは予防の大切さである。家族を築くのに必要な知識やスキルを子どもから大人まで学び、訓練し、実践するための「家族学」を日本のコンテキストに合わせた形で構築し広めることで、多くの問題を未然に防ぎたい。

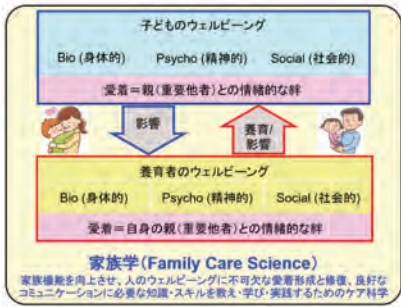


図. 看護学・心理学・社会学・教育学など異分野融合による
新学問領域「家族学」の構築

メッセージ

「無理・無駄・無謀と言われても、四の五の言わずにやってみる」私自身、新しい扉を叩いて看護学を学び始め、こうつぶやきながら研究を続けてきました。今、何をしたらよいかわからなくても、自分に何ができるか見えなくても大丈夫。扉を叩けば道は開かれ、一歩踏み出せば驚くような景色が広がります。

Profile

研究分野

生涯発達看護学／小児看護

所属学会

日本小児看護学会／日本家族看護学会／日本子ども虐待防止学会／日本家族療法学会／日本周産期メンタルヘルス学会／日本看護科学学会／看護理工学会／日本母性衛生学会／日本マインドフルネス学会

学歴・経歴

- 2015年 筑波大学大学院修士課程 修士(看護科学)
- 2018年 東京大学大学院医学系研究科博士課程 修士(保健学)
- 2018年 東京大学大学院医学研究科附属グローバルナースングリサーチセンター 特任助教
- 2022年 同上 特任講師
- 2023年 石川県立看護大学小児看護学 教授

論文

- Tobe H, Sakka M, Kita S, Ikeda M, Kamibeppu K. The efficacy of a resilience-enhancement program for mothers in Japan based on emotion regulation: a randomized controlled trial. Int. J. Environ. Res. Public Health. 2022. 19,14953.
- Tobe H, Soejima T, Kita S, Sato I, Morisaki-Nakamura M, Kamibeppu K, Ikeda M, Hart C, Emori Y. How participating in a group-based anger management program changed Japanese mothers' cognition, attitude, and behavior: A Pre-Post Study. Ment. Health Prev. 2021; 25, 200228

書籍等出版物

戸部浩美 訳. マインドフルペアレンティング 忙しいママとパパのためのマインドフルネス. 北大路書房, 2020.

講演・口頭発表等

- Tobe H. Building up your life with resilience: How to be happy and help others to be happy. Taipei Medical University. July 26, 2021
- Tobe H, Sakka M, Kamibeppu K. Resilience enhancement program for mothers focused on emotion regulation of anger: A randomized controlled trial in Japan. International Family Nursing Conference (IFNA), 13-16 August 2019, Washington DC, USA.

競争的資金等の研究課題

- 若手研究「養育態度尺度日本語版開発と親の適切な養育を支援するコミュニティベース参加型研究」(代表／科研費事業:2020-2022年度)
- 若手研究「ADHDを持つ子どもとその親向けのマインドフルネスプログラムの日本語版開発と効果検証」(代表／科研費事業:2023-2025年度)

社会貢献活動

親のレジリエンスを高めるプログラムの研究結果を元にワークショップを親・専門職者を対象に全国各地で開催



母性・小児看護学講座

千原 裕香 准教授
Yuka Chihara
contact: chihayu@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yukachihara>



研究キーワード

子ども虐待予防／親になること／子育て／次世代育成教育
DX(Digital Transformation)

子ども虐待予防をめざして 親になる前の若者への支援アプローチを探る

研究の概要

子ども虐待は子どもの発達に広範囲で深刻な衝撃を及ぼすことが明らかとなっており、発生の未然防止が極めて重要である。様々な社会の変化により子どもと関わる機会が少なくなり、「親になること」について考えたり、子育てについて学んだりする機会がないまま親になり、育児不安や不適切な養育につながってしまうことが指摘されている。そこで、親になる前の若者にアプローチする子ども虐待予防支援プログラムの開発をめざし検討を重ねている。

研究の内容(大学院向け)

親になる前から始める 子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発

子ども虐待予防支援プログラムとして、高校生が乳幼児とその親たちと交流する「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」を開発してきた(図1)。これは、学校教育カリキュラムの中で実施できるように、いしかわ結婚・子育て支援財団・高校・NPO 法人などの子育て支援団体と共同開発している。これまでの研究で、高校生の親世代になることに対する意識向上や自己肯定感向上の効果を確認し有効性が示された。子育て初心者である親になる前の若者たちにとって、本プログラムのように「親になることを考える」機会を持つことに加えて、基本的な子育てスキルを知ることが必要と考えている。子育ては経験者からの伝聞に基づいてなされることが多く、様々な子育てスキルは経験や感性に大きく影響される。今後は、親になる前からトレーニングするべき科学的根拠に基づいた子育てスキル(Evidence-based Parenting Skill)を解明する研究も進めていきたい。



図1. 親子交流を通して親になることを考えるプログラムの概要

メッセージ

子どもの成長発達を理解すると、大人とは違う子どもの世界が見えてきます。子どもは純粋でまっすぐ、だからこそ大人たちの関わり方でいろいろなカラーになる。子どもたちが健やかに成長できる社会の実現を目指して一緒に取り組みましょう。

Profile

研究分野

生涯発達看護学／小児看護

所属学会

日本小児保健協会／日本小児看護学会／日本子ども虐待防止学会／日本乳幼児精神保健学会／母性衛生学会／日本看護科学学会／日本看護研究学会／日本公衆衛生学会／看護理工学会

学歴・経歴

- 2021年 石川県立看護大学大学院看護学研究科 博士後期課程修了 博士(看護学)
- 2002年 金沢大学付属病院
- 2014年 石川県立看護大学小児看護学 助手
- 2017年 石川県立看護大学小児看護学 助教
- 2023年 石川県立看護大学小児看護学 講師
- 2025年 石川県立看護大学小児看護学 准教授

論文

- 青年期前期における「親世代になることに対する意識尺度」の作成と信頼性・妥当性の検討, 日本看護科学会誌 Vol.39, pp. 211-220, 2019
- 高校生のための「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」の効果, 小児保健研究 Vol.81, 4号, pp. 351-358, 2022
- 高校生のための「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの効果に関連する要因の検討, 看護実践学会誌, Vol.35, 1号, 2023
- 高校生のための改良版「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの評価. 子どもの虐待とネグレクト. Vol.25(1) pp.191-201,2023
- Think about Being a Parent Program: Text Mining Analysis of High School Students' Thoughts on Parenting. Journal of Nursing Science and Engineering. Vol.12, 2025

書籍等出版物

NiCE 地域・在宅看護論Ⅰ(在宅看護論 改訂第3版), 第Ⅲ章第2節F(6)「子ども虐待予防」(分担執筆), 南江堂, 2023

講演・口頭発表等

- High School Students' Thoughts on "Being a Parent Yourself" After Participating in the "Think About Becoming a Parent Program. 27th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS). 2024; Hong Kong.
- High School Students' Thoughts on "Being a Parent Yourself" after Participating in the "Think about Being a Parent Program (TBPP)": A Text Mining Analysis. International Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (ISPAN) Congress Sweden. 2024; Sweden.

競争的資金等の研究課題

- 基盤研究(C)「親になる前から始める子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発」(代表／科研費事業:2019-2022年度)
- 基盤研究(C)「VRによる多様な子育て疑似体験を活用した子ども虐待防止支援プログラムの開発」(代表／科研費事業:2023-2026年度)

社会貢献活動

かほく市子育て支援事業乳児NP(Nobody's Perfect／完璧な親なんていない)プログラム ファシリテーター



母性・小児看護学講座

後藤 亜希

助教

Aki Goto

contact: agotou@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/gotoaki>

研究キーワード

子育て支援／育児困難／母親／完全主義

child-rearing support, feelings of difficulty with child rearing, mothers, perfectionism

子ども虐待防止をめざした 育児困難を抱える母親支援を探る

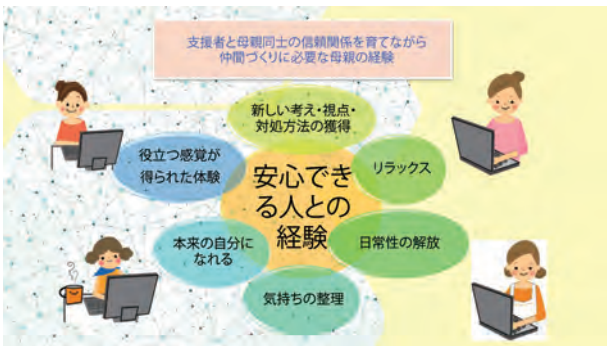
研究の概要

育児困難の要因の一つとして、子育て支援場面においてよく指摘される、母親の「子育てをきちんとしたい」という強い思いや「頑張るすぎる」傾向の「完全主義」に注目した。子どもが日常生活でうまくできないことがあると、母親はすぐに苛立ち、子どもをたたいたり叱責をしてしまう。母親は子どもに八つ当たりをした自分を反省し、落ち込んでしまう。子どもは失敗を繰り返すため、母親は子どもに苛立ってしまう。この過程の繰り返しにより母親は疲弊し、育児困難感が強まっていく。育児困難に陥る要因の一つに完全主義が関係しているのではないかと考える。完全主義傾向の強い母親が育児困難に陥っているときに、「不完全な自分でもよい」と感じることは育児困難感が軽減されるのではないかと考える。このためには、母親自身が他者に認められ、エンパワーされることが重要であると考える。完全主義の強い母親が、過度に完璧さを求めることを軽減すためには、「安心できる関係性」を築いた人たちの存在と、その人たちとの間での「エンパワーされた経験」が必要であると考えた。支援者と母親同士の信頼関係を育てながら、仲間づくりの場の中で継続的に母親を支援していく方法を探る。

研究の内容(大学院向け)

多様化する現代社会に合った子ども虐待予防支援システムを探る

近年 COVID-19 の蔓延により母親が対面での支援に不安を抱き、参加を抑えることがあった。そこで、対面では無い支援ができないかと考えた。母親が児の理解にもつながるような子育て支援を多様化する現代社会に合った支援システムを探る。



メッセージ

子どもが健やかに成長するには、親も健やかであることが大切です。はじめから完璧な親や子どもなどは存在しません。“これで大丈夫”という気持ちで子育てにベストを尽くせるお手伝いをしていきたいと思っています。子どもと家族を支える看護と一緒に学びましょう。

Profile

研究分野

小児看護学

所属学会

日本子ども虐待防止学会
日本乳幼児精神保健学会／日本小児保健協会
日本小児看護学会／日本看護科学学会

学歴・経歴

2010年 石川県立看護大学大学院看護学研究学
科 修士(看護学)
2019年 石川県立看護大学 臨時助教
2020年 石川県立看護大学 助教

論文

母親の完全主義と育児困難・エンパワーされた経験の関係 石川看護雑誌, 2020年, 第17巻, p. 23-36.

講演・口頭発表等

- 母親の完全主義とエンパワーされた経験の関係 - 完全主義がもたらす育児困難に注目して - 日本子ども虐待防止学会第16回学術集会くまもと大会プログラム抄録集, 2010年, p. 174.
- 理想の母親像との不一致感と自己注目傾向が育児不安に及ぼす影響 第19回石川県小児保健学会小児保健いしかわ, 2009年, 21巻, p. 6.

社会貢献活動

- かほく市子育て支援事業 幼児 NP (Nobody's Perfect) / 完璧な親なんていない親支援プログラム ファシリテーター (2020～)
- 石川県立看護大学同窓会「さくら会」副会長 (2022～)



母性・小児看護学講座

西 真理子

助教

Mariko Nishi

contact: n.mariko@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

特別養子縁組／実母支援／自立支援／虐待予防／予期しない妊娠

子どもを特別養子縁組に託す 実母への支援を確立し、傷ついた女性を支援する

研究の概要

虐待や貧困等により親から養育を受けられない子どもの養子縁組や里親等による家庭での養育率は非常に低く、文化社会的背景を考慮したうえで認知や受容を変革していく必要がある。そのような中、特別養子縁組に子どもを託す実母への支援はほぼなく、予期しない妊娠を経て出産後すぐに子どもを託すという人生の劇的な変化と、深い傷つきや不安を経験した女性への心理教育を含めた長期的な自立支援を目指し研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

子どもを特別養子縁組に託す実母への支援プログラムを開発し、 世論や意識を変容する

予期しない妊娠をした女性に対する支援は少なく、一人ひとりが自助の中で対応するしかない。その選択は人工妊娠中絶、赤ちゃんポストへの預け入れ、特別養子縁組に子どもを託す、最悪の結果が0歳0日死亡である。特別養子縁組に子どもを託した実母と、長年その支援に携わってきた専門家からの質的データを基に、各国の文化社会的背景を考慮しながら支援プログラムを開発し、効果を検証することを目指している。

メッセージ

研究を通じて、自分の興味を深く掘り下げ、知識の領域を広げることができ、新たな発見をする喜びがあります。虐待の加害者、被害者を作らない、優しい社会の実現を目指して一緒に取り組みましょう。

Profile

研究分野

女性看護学

所属学会

看護実践学会／日本母性衛生学会
日本子ども虐待防止学会／日本小児保健協会

学歴・経歴

2023年 石川県立看護大学 助手
2024年 石川県立看護大学 助教

論文

病産院の助産師が産後健診に行っている母親のメンタルヘルスクリーニングの実践.看護実践学会,40-49,35(3),2024.3

講演・口頭発表等

- 西真理子, 米田昌代:産院の助産師が行う2週間健診を中心とした産後健診における母親へのメンタルヘルスケアの実践-メンタルヘルスクリーニングに焦点を当てて-,第39回石川県母性衛生学会,2023.6, 第39回石川県母性衛生学会抄録集,13,2023
- Mariko Nishi, Hiromi Tobe, Yuka Chihara: Behind the Scenes of Japanese Special Adoption: The Reality of Supporting Birthmothers by Removing Invisible Barriers,15th International Nursing Conference(INC) & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), 2025, Korea

社会貢献活動

学童期・思春期のお子様がいるママのための子育て「Aka'aka サロン」ファシリテーター ,かほく市総合センターおひさま(かほく市),2023.8～12

競争的資金等の研究課題

基盤研究(C)「養子縁組に子どもを託す実母支援調査と地域参加型研究による支援プログラムの開発」(代表／科研費事業:2025-2027年度)



成人・老年看護学講座

紺家 千津子 教授

Chizuko Konya

contact: ckonya@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/c_konya

研究キーワード

褥瘡(じよくそう)ケア／スキンケア／ストーマケア／リモート支援

どこでも、すべての人たちの皮膚を健康に保つ 最良なケアを実現

研究の概要

高齢者の皮膚は、加齢により薄くなり、生理的な機能の低下により皮膚が乾燥し、傷もできやすくなります。傷ができると、痛みが起こり、日常生活にも支障がでます。この傷の例として、寝て過ごす時間の多い方に起こりやすい褥瘡(じよくそう)や、腕の紫斑部に家具などに擦れただけで起こるスキン-テア(皮膚裂傷)があります。これらの傷は、痛みだけでなく、感染すると生命にもかかわります。そのため、これらの皮膚障害を予防するために、誰もが、いつまでも健康な皮膚であり続けられるよう研究に取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

プロフェッショナルなスキンケア開発とDX化

皮膚を健康に保つためには、皮膚障害のリスクをアセスメントし、そのリスクを改善させるケア計画を立案し実施する必要があります。これらは、どの年代にも必要な基本的な看護技術です。しかし、皮膚が乾燥しているから保湿剤を塗るケアを例にすると、時間をかけて保湿剤を毎日塗布するケアを行っていても効果は十分には期待できません。その対象となる方の皮膚の状態を見極め、さらにどのような保湿成分が必要か、クリームか、ローションか、あるいはゲルかなど基材も検討する必要があります。日々のスキンケアを科学的根拠のあるケアに変え、病院や介護施設、ご自宅の療養者にとっても幸せでいられるケアを開発し、さらにICTも活用して広めていく研究をしています。

病院でも、ご自宅でも、どこでも最良なケアで
皮膚トラブル予防をできる体制を構築

健康な皮膚を保つケアは、看護職者であれば誰もが求められるケアです。しかし、誰もが最良のケアを提供できてはいません。よりよいスキンケア方法に関する研究結果は、論文を通して海外に発信すると世界の人たちのスキンケアも今よりも良いケアに変わります。この素敵な体験と一緒にしましょう！

Profile

研究分野
創傷看護学／看護理工学

所属学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本褥瘡学会／看護理工学会
日本創傷治癒学会／日本看護科学学会 など

学歴・経歴

1997年 創傷・オストミー・失禁看護(現 皮膚・排泄ケア) 認定看護師
2005年 金沢大学大学院 医学系研究科修了 博士(保健学)
2006年 金沢大学大学院医学系研究科 助教授
2010年 金沢医科大学看護学部 教授
2019年 石川県立看護大学看護学部 教授

受賞

2016年度 看護理工学会 学会賞

論文

● Nationwide time-series surveys of pressure ulcer prevalence in Japan. J Wound Care, 2022
● 皮膚・排泄ケア認定看護師による病院外施設のストーマ周囲皮膚障害保有者に対する遠隔看護師支援の効果検証. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 23(2), 2019

書籍等出版物

● ストーマケアガイドブック. 照林社, 2024
● 改定 DESIGN-R® 2020 コンセンサス・ドキュメント. 照林社, 2020
● ベストプラクティス スキン-テア(皮膚裂傷)の予防と管理. 照林社, 2015

講演・口頭発表等

● 令和6年能登半島地震:褥瘡ケア支援システムの構築と運営. 第12回看護理工学会学術集会
● 子どもから高齢者まで、みんなが幸せになる皮膚の健康管理. 北國健康生きがい支援事業

競争的資金等の研究課題

● 科研費基盤研究 (B) 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築
● 厚生労働行政推進調査事業費補助金 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究

社会貢献活動

● 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事長
● 日本創傷治癒学会 理事
● 令和6年能登半島地震 能登北部褥瘡ケア支援 など



成人・老年看護学講座

峰松 健夫 教授

Takeo Minematsu

contact: takeom@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/skincare>

研究キーワード

看護理工学／スキンケア／創傷治癒／慢性脱水／認知症

皮膚を^みる、皮膚を^もる、そして皮膚から^か診る

研究の概要

身体の外最層をおおう皮膚は、体内と体外を隔て生命を維持する臓器です。皮膚には痛みやかゆみを感じる神経末端が多く分布しており、かつ人目にさらされる部位であるため、皮膚の異常は生命を脅かすのみならず、強い不快感により生活の質(QoL)を低下させ、さらにボディイメージなどを損なうことで精神的苦痛にも直結します。そこで、誰もが簡便に、出血や痛みもなく皮膚や創傷の状態を検査できる「スキンプロッティング」「ウンドプロットティング」を開発してきました。これまでスキンプロッティングを皮膚バリア機能の評価や褥瘡(いゝくそう)の発生予測、ウンドプロットティングを褥瘡の治癒予測などに応用してきました。さらに近年は、スキンプロッティングを全身状態の評価にも応用できることを見出し、慢性脱水の評価や認知症の予測にも取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

ポイントオブケア・ナースィングで新たな価値を創造する

ポイントオブケア・ナースィングとは、看護師が臨床現場で簡便かつ非侵襲的に検査を行い、その場で得られた結果に基づいてケアを提供する看護のことです。また、患者自身による自己検査とその結果に基づくセルフケアのシステムも含まれます。スキンプロッティングは、ポイントオブケア・ナースィングを実現するために最適な技術であると考えられます。これを実現するためには、何を(バイオマーカー)何のために(疾患、症状など)検査するのか、その精度は如何ほどかを明らかにする必要があります。また、検査で明らかになった問題の本質を解決する新しいケア技術として、高機能皮膚洗浄剤などの開発にも取り組んでいます。さらに、看護理工学のフレームワークを用いた産学連携で、それらの実用化と普及にも取り組んでいます。

皮膚を^みる

・スキンプロッティング：皮膚の健康度を評価する
・ウンドプロットティング：傷の状態を状態を評価する

皮膚を^もる

・スキンケア：皮膚の健康度を改善する
・創傷ケア：傷を早く治す、きれいに直す

皮膚から^か診る

慢性脱水・栄養状態・認知機能など

出血や痛みがなく、その場で迅速・簡便に
ポイントオブケア・ナースィングの確立

看護大学を卒業した後の進路には、看護師だけではなく、看護学研究者という選択肢もあります。私たちと一緒に、少子高齢化社会を支える看護の未来を創っていきませんか。

Profile

研究分野
看護理工学／創傷看護学／スキンケアサイエンス

所属学会
看護理工学会／日本創傷治癒学会／日本褥瘡学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会 など

学歴・経歴

1995年 筑波大学第二学群農林学類 卒業
1995年 青年海外協力隊(ネパール, 家畜飼育)
2004年 筑波大学大学院農学研究科修了 博士(農学)
2017年 東京大学大学院医学系研究科 特任准教授
2022年 石川県立看護大学 教授

受賞

2014年 Rye Pharmaceuticals New Investigator Award (Science & Technology)
2019年 APETNA2019 Best Moderated Poster Award

論文

● Skin blotting: A noninvasive technique for evaluating physiological skin status. Adv Skin Wound Care. 2014.
● Evaluation of liquid-less biofilm staining on wound blotting samples. J Nurs Sci Engineer, 2022.

書籍等出版物

● 看護学における生物学的アプローチ. 看護理工学, 東京大学出版会, 2015.
● スキンプロッティング:新たなポイントオブケア・スキンアセスメント手法. 進化する皮膚研究最前線. エス・ティー・エス, 2021.

講演・口頭発表等

● バイオとの出会いで広がる看護理工学の多様性. 第12回看護理工学会学術集会. 2024/11/2.
● ソホロファインパブルを用いて洗浄したクリティカルコロナイゼーション創における細菌の組織内分布. 第54回日本創傷治癒学会. 2024/12/5

競争的資金等の研究課題

科研費基盤研究 (B) 車いすアスリートにおける深部損傷褥瘡(DTI)の早期同定法の確立

特許

軽度認知障害検出マーカー及びその使用. 特願 2024-181346

社会貢献活動

● 看護理工学会 常任理事, 編集委員長
● 日本創傷治癒学会 理事 など



成人・老年看護学講座

臺 美佐子 教授

Misako Dai

contact: daim000@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/misakodai>

研究キーワード

がん／リンパ浮腫／スキンケア／エコー／遠隔

がんと浮腫と共に 健やかに暮らす 未来を創る

研究の概要

目指す未来は、がんや浮腫の方々が安全・安心・快適に暮らすことができる社会の実現である。特に、がん治療後のリンパ浮腫と、それに伴うリンパ漏・蜂窩織炎は重要な臨床課題で、適切なアセスメントやケアが不十分のために重症化し、身体・心理・社会的影響をもたらすことが多い。この解決には、アセスメントやケア方法の革新的変化が必要で、かつ医療者・患者教育の充実化、そして、地域格差の均霑化が求められている。

そこで、石川県のどの地域でも、全国のどの施設でも、世界中のどの国でも、質の高いケアを受けられるシステムを開発するべく、看護理工学の手法を用いた異分野融合・多施設共同・国際共同で研究を行っている。特に、超音波技術(エコー)を用いたリンパ浮腫のアセスメントは世界をリードした革新的方法であり、今後、リンパ浮腫エコーアセスメントとそれに基づくケア方法の体系化、医療者や患者への教育方法の確立、実装への研究を行う。

研究の内容(大学院向け)

臨床実践で生じる素朴な疑問を大切にしたい
あなたの疑問が看護を変える力に

リンパ浮腫のケアは、視診や触診による外観評価に基づきケアが選択される。しかし、臨床で、外観評価と重症度が一致せず、ケア選択に悩み、浮腫管理に難渋する経験が多々あった。そこで、病態の可視化に着目し、エコーを用いた真皮・皮下組織の観察研究により、症状との関連性やケア前後での特徴的な所見を明らかにしてきた。今後は、これらの知見を体系化し、画像評価の自動化や遠隔化システム構築を図ることで、様々な地域や国への実装を目指していく。

なお、本研究は、この臨床疑問に賛同し、浮腫ケアの質向上という夢を共に描いた看護学・医学・理工学等の研究者・医療者らと研究チームを構成し実施している。

乳がん術後の
上肢リンパ浮腫子宮がん術後の
下肢リンパ浮腫

図1. リンパ浮腫の外観

図2. 小型エコーでリンパ浮腫患
肢の観察をしている様子

メッセージ

思えばいつでも、私のまわりには“臨床課題”を大切に研究に励む仲間がいました。石川県立看護大学には、看護の未来へ夢を描く教員や学生がたくさんいます。看護の発展に向けて、一緒に夢をもって“臨床課題”解決への研究的思考を磨いてみませんか。

Profile

研究分野

成人看護学／がん看護学／看護理工学

所属学会

日本看護科学学会／国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会／日本リンパ浮腫治療学会／看護理工学会／日本がん看護学会 など

学歴・経歴

- 群馬大学医学部保健学科看護学専攻 卒業
- 金沢大学大学院医学系研究科修了 博士(保健学)
- 慶應義塾大学病院脳神経外科病棟 看護師
- 金沢大学医薬保健研究域看護科学領域 助教
- 東京大学大学院医学系研究科 特任講師
- 藤田医科大学社会実装看護創成研究センター 准教授
- 石川県立看護大学成人看護学 教授

受賞

- Journal of Wound Care Awards 2025, Gold受賞, Compression Therapy for Venous and Lymphatic Disorders部門, 2025
- British Journal of Nursing Award 2024, Chronic oedema Nurse of the year 受賞, 2024
- 優秀演題賞, 第6回日本リンパ浮腫治療学会, 2022

論文

- Dai M et.al. Multidisciplinary approach for successfully managing lymphorrhoea and epidermolysis in lymphoedema patient with Klippel-Trenaunay syndrome: A case study, BJN, 33, 104-108, 2024
- Dai M et.al. Association of Dermal Hypoechoogenicity and Cellulitis History in Patients with Lower Extremity Lymphedema: A Cross-Sectional Observational Study. Lymphat Res Biol, 20, 376-381, 2021.

書籍等出版物

リンパ浮腫エコー, がん看護に生かす画像の見かた読みかた 見るみるわかるBOOK, 252-255, メディカ出版, 2024

講演・口頭発表等

Misako Dai. Ultrasonography for lymphoedema. Invited lecture, 10th International Lymphoedema Framework Conference, UK, 2023

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(B)代表: リンパ浮腫ケア選定のための超音波検査技術アセスメントと遠隔システムの確立, 2023年度 -2027年度
- 科研費挑戦的研究(萌芽)代表: リンパ浮腫の蜂窩織炎再発予防に向けたアドバンストスキンケア方法の開発, 2023年度 -2025年度

社会貢献活動

- 第12回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会大会会長(石川県立看護大学, 2023.9.17)
- 浮腫ケア相談室, 石川県立看護大学地域ケア事業, 2024年度 -



成人・老年看護学講座

松本 智里 准教授

Chisato Matsumoto

contact: chima23@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/c-matsumoto>

研究キーワード

がん／アピアランスケア／外見変化／ボディイメージ

外見変化に苦しむがん患者さんが
見逃されることなくキャッチされることを目指す

研究の概要

がん患者は、がんに罹患することや、化学療法・放射線療法といった治療のために、脱毛や皮膚や爪の色素沈着などの外見の変化が現れることがある。入院期間の短縮やがん治療の進歩によって、がん患者は外来で治療を受けながら社会の中で生活を送っている。がん患者は外見が変化することで、社会生活の中で他人からの目を気にしながら生活することになったり、外見のせいで他者との関係を構築し直すことを余儀なくされたりするものもある。そのため、がん患者にとって外見の変化は、社会生活を営む上での苦痛になりうる。

このような外見の変化に対するケアをアピアランスケアと言う。がん患者の社会復帰や精神的な支援の1つとして、重要なケアの1つであるが、比較的新しいケアであるため、広く医療職に知られているとは言い難い。外見の変化によって社会生活に苦しむがん患者さんが、見逃されることなくケアされるように、看護師を含む多くの医療職がアピアランスケアを正しく理解できるようにするにはどうしたらよいかを研究している。また、近年はリンパ浮腫患者のアピアランスケアの1つとして靴の開発に関する研究にも着手している。

研究の内容(大学院向け)

アピアランスケアの周知や、多職種連携、
ケアのアウトカムに関する方法を探る

がん患者のアピアランスケアの周知プログラムの構築や、多職種連携・チームアプローチ、アピアランスケアのアウトカムに関する研究している。北陸3県のがん看護専門看護師やがん化学療法専門看護師、乳がん専門看護師等の臨床家と連携して研究を進めている。また、近年はリンパ浮腫患者のケアに関する研究にも着手している。



国立がんセンター中央病院 アピアランス支援センター
シンボルマーク: オレンジクローバー
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/appearance/010/index.html>

メッセージ

看護を仕事にしようと決めた皆さんの選択が「間違っていないかった」と思ってもらえるように、看護の魅力を精一杯お伝えします。「この大学を選んでよかった」といつてもらえるような教育を目指しています。いっしょにがんばりましょう!

Profile

研究分野

リハビリテーション看護／がん看護

所属学会

日本看護科学学会／日本がん看護学会
日本運動器看護学会／日本老年看護学会
看護実践学会

学歴・経歴

- 2021年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 保健学専攻博士後期課程 修了
- 2014年 石川県立看護大学 助教
- 2019年 石川県立看護大学 講師
- 2022年 石川県立看護大学成人看護学領域 准教授

論文

- Chisato Matsumoto, Rui Yang, Mutsumi Okazaki, Chizuko Konya, Misako Dai. Feasibility of implementing a remote system for lymphoedema conservative therapy: a case study. British journal of nursing. 2024; 33: 612-620.
- 松本智里, 牧野智恵. コロナ禍でがん体験者ががんサロンに抱いた要望 -がんサロンの活動休止を経験した体験者の語りから-. Palliative Care Research. 2024; 19(4): 299-305.

講演・口頭発表等

- 松本智里, 牧野智恵. コロナ禍のがんサロンにがん体験者が求める支援. 第29回日本緩和医療学会学術大会／第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会, 2024
- 浅田夏菜, 松本智里, 今方裕子, 臺美佐子. 看護師へのアピアランスケアの周知プログラムの構築 -がん看護に従事する看護師が抱くアピアランスケアの目的・意義の認識の実態調査-. 第17回看護実践学会学術集会, 2024.

競争的資金等の研究課題

- 2024年度(2024年度-2026年度) 科学研究費助成事業 若手研究: 下肢リンパ浮腫患者の足部の外観の特徴と室外用の靴の実態と困難感
- 2024年度 日本創傷・オストミー・失禁管理学会研究助成(アルケア技術・研究助成): 下肢リンパ浮腫患者に適した靴の開発: 足部の形状の特徴と靴内の環境に関する実態調査

社会貢献活動

- 査読委員: 看護実践学会、日本運動器看護学会、日本がん看護学会
- 学術集会企画委員: 第25回日本運動器看護学会



成人・老年看護学講座

南條 裕子 講師

Yuko Nanjo

contact: nanjoy@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/Yuko_Nanjo

研究キーワード

クリティカルケア／重症化予防／看護の質改善
EBP: Evidence-Based Practice

“重篤な病気を乗り越えた先”に、 「頑張って良かった」の笑顔を目指す

研究の概要

集中治療領域の発展により、重症患者の生存率は上昇したが、その一方で、長期予後の悪化やQOL低下が問題視されるようになった。集中治療後の運動機能・認知機能・メンタルヘルスの障害はPost intensive care syndrome: PICSと言われ、患者とその家族の退院後のQOL低下の一因とされている。特に、超高齢化社会においては、患者の多くが高齢者であることからPICS発症のリスクは高く、一旦退院しても再入院を繰り返すなどにより、患者やその家族だけでなく、医療経済への負担は大きいものとなっている。

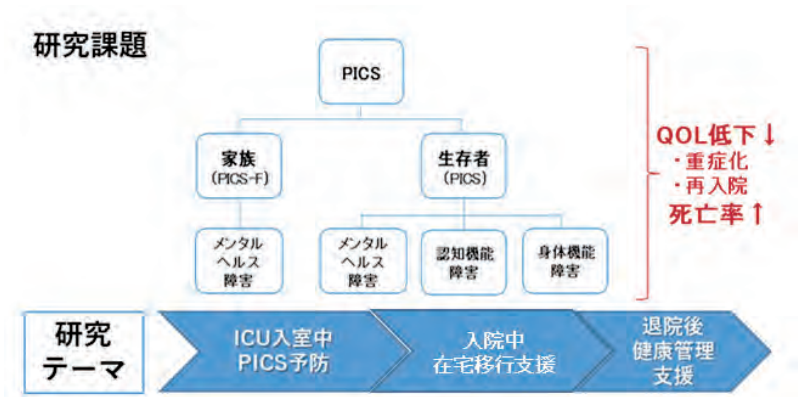
そのため、重篤な病態を乗り越えた患者とその家族が、退院後に自律して生活できること(自助力を活かした在宅療法への移行支援、心身のリハビリの継続、異常の早期発見による重症化前の対応＝再入院予防)を目標に、プログラムやシステムの開発に関する研究に取り組んでいる。

- 1) ICU入室中～入院中のアプローチ
- 2) 退院後のアプローチ

研究の内容(大学院向け)

質の高い看護ケアの提供の実現に向けて 一緒に研究していきましょう。

- 1) ICU入室中～入院中のアプローチ:PICS予防・在宅移行支援
- 2) 退院後のアプローチ:健康管理支援



メッセージ

「その人らしく生きることを支える」を目標に、現状と目標とのギャップと、その原因の本質やニーズを探っていきましょう。そして、目標達成に向け、医療者だけでなく、患者・家族も巻き込んで、エビデンスが標準的に実践されるプログラムやシステムを一緒につくっていきましょう。

Profile

研究分野

クリティカルケア／看護管理

所属学会

日本集中治療医学会／日本呼吸療法医学会
日本看護科学学会／看護理工学会
日本クリティカルケア看護学会
日本看護シミュレーションラーニング学会

学歴・経歴

大学医学部附属病院 看護師, 看護師長を経て
2023年より 石川県立看護大学 講師
2000年 集中ケア認定看護師 取得
2010年 東京大学大学院医学系研究科 修士課程修了
2021年 聖路加国際大学看護学研究科 博士課程修了

受賞

2013年, 2021年 東京大学医学部附属病院リスク
マネジメント研究課題 病院長賞
2021年 日本看護科学学会 優秀口演賞

論文

- 生体情報モニタ使用時のリスクテイキングと影響要因 - 看護師の実態調査から - Clinical Engineering 22(9); 851-858, 2011年
- Relationship Between Morphological Characteristics and Etiology of Pressure Ulcers in Intensive Care Unit Patients. J Wound Ostomy Continence Nurs. 38(4); 404-12, 2011年
- 急性期病院一般病棟における終末期医療を含む Early Warning System の開発と実装. 看護理工学会誌 10(0), 44-55, 2022年

書籍等出版物

ICUナースポケットブック改訂第2版 学研2022年

講演・口頭発表等

2020年 クリティカルケア看護学会プラクティスセミナー:重症患者の褥瘡予防-今,まさにEBPが求められる-

2021年 日本看護科学学会優秀口演:急性期病院一般病棟におけるEarly Warning Systemの実装に関する研究

競争的資金等の研究課題

2012年, 2013年 生体情報モニターアラームの無駄なり低減の検討

2020年 がん患者を対象としたEarly Warning Systemの実装に関する研究

2024年 集中治療後の移行期ケアガイドの開発(科学研究費助成事業 若手研究)

社会貢献活動

日本集中治療医学会評議員



成人・老年看護学講座

瀧澤 理穂 助教

Riho Takizawa

contact: takizawa@ishikawanu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/rtakizawa>

研究キーワード

がん／意思決定／対話／Cancer, Decision making, Dialogue

がん体験者の悩みの核心や 意思決定の背景をとともに探る

研究の概要

医療の進歩により、がんの生存率は向上している。がん体験者が定期的な通院、仕事や家事を調整し、病気に伴う生活の変化にうまく対処していくためには、他者からのサポートを得ることが重要となる。その前段階として、がん体験者であることを家族や周囲にいつ、どこまで、どのように伝えるかという悩みが生じている。そういったがん体験者の意思決定に関する思いや体験を明らかにし、がん体験者を支援することを目的に研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

子どもや家族、周囲に自己の病名を伝えることに悩むがん患者、 その患者を支援する看護師の世界を知る

子どもをもつ乳がん患者にとっては、子どもに自分の病名を伝えるべきか否かは悩みの一つであるといわれている。その悩みは、たとえ同じ病期で同じ年齢の子どもを養育していても、患者の病状の受け止め方、患者や子どもの特性、これまでの家族の歴史、周囲との協力体制などそれぞれの社会背景や考え方などによって異なる。

患者が子どもに自分の病名を伝えない要因としては、母親自身の負担になることや、子どもに精神的負担を与えたくないなどがあるといわれている。しかし、子どもに病名を伝えることに悩む患者の体験や、その患者を支援する看護師の主観的経験を明らかにした研究は少なく、伝えられない患者への支援がすすんでいない現状である。そのため、対話を通して子どもに自己の病名を伝えることに悩む乳がん患者の体験を明らかにし、がん患者への看護支援の在り方を検討したいと考えている。

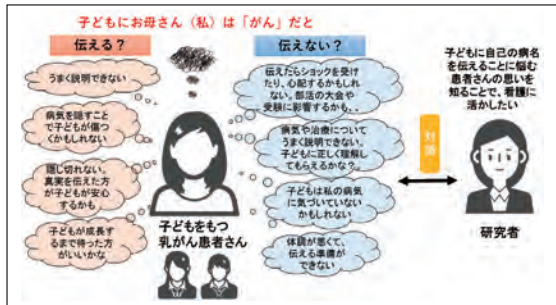


図. 研究の概要

メッセージ

石川県立看護大学では、看護師に必要な根拠のある知識や技術を学ぶだけではなく、皆さんが高度で多様な医療に対応できる判断力・思考力を身に付けられるよう教職員一同がサポートしています。卒業後の進路は病院だけではなく地域や教育・研究機関企業と幅広く、進学してさらなるスキルアップを目指すこともできます。本学はあなたの夢を全力で応援しています。

Profile

研究分野

がん看護／慢性期看護

所属学会

日本看護科学学会／日本がん看護学会
日本緩和医療学会／日本看護研究学会

学歴・経歴

- 石川県立看護大学看護学部看護学科(看護学)
- 石川県立看護大学大学院 博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野がん看護CNSコース修士(看護学)
- 石川県立看護大学大学院 博士後期課程(看護学)

受賞

瀧澤理穂, 牧野智恵:第27回日本緩和医療学会.
2022年.(優秀演題)

論文

- 瀧澤理穂, 牧野智恵:乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩を乗り越える体験 - M.Newman理論に基づく対話から -. 日本がん看護学会誌,31,172-180,2020年.
- 瀧澤理穂, 牧野智恵:がん体験者が身近な人に病名を伝える上での悩み. 石川看護雑誌,7,63-68,2020年.

講演・口頭発表等

- 瀧澤理穂, 牧野智恵:1県民における緩和ケア・在宅療養に関する意識調査 -2010年の調査と比較して-,第35回日本がん看護学会学術集会,2021年.
- 瀧澤理穂, 牧野智恵:乳がん患者が子どもに病名を伝えることへの看護介入の困難感に関するアンケート調査.第27回日本緩和医療学会.2022年
- Riho Takizawa, Tomoe Makino: Experiences of breast cancer patients who worry about telling their children about the disease. East Asian Forum of Nursing Scholars, 2023年.

競争的資金等の研究課題

瀧澤理穂:乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩の体験,R2～R5年,科学研究費助成事業 若手研究

社会貢献活動

- 石川県立看護大学地域ケア総合センター事業企画責任者
- 一人で悩まないで乳がんサバイバー同士で語り合おう(2020年～)
- 終末期実践の悩みを語り心も体もリフレッシュ(2020年～)
- 看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう(2023年～)



成人・老年看護学講座

額 奈々 助教

Nana Nuka

contact: nukanana@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/nananuka>

研究キーワード

高齢者施設／看取り／高齢者救急／LGBTQ+／GID／トランスジェンダー

高齢者に人生の最期まで自分らしく 過ごしてもらうために 高齢者施設での看取りケアの向上を追求する

研究の概要

自分は人生の最期をどのように迎えるのか見当もつかない。でも、誰もが自分らしく心地よく最期を迎えたいと願っているのではないだろうか。誰と、どこで、どんな風に過ごすのか、私たちが最期まで自分の望む自分でありたいと思うことは当然であると言える。高齢者は、老年期に入り、社会的役割の喪失、親しい人との別れ、身体機能や認知機能の変化など様々なことを経験している。もし、全ての判断が自分でできなくなっても、もし全ての生活行動が自立していなくても、その人らしく最期まで生きる支援をしたいと考え、高齢者施設の研究、特に看取り期に着目して研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

高齢者施設で看取りの説明を担う看護師の 実践能力と育成支援を探る

高齢多死社会となり、病院内にとどまらず高齢者施設でも看取りは避けて通れない重要な業務の1つとなっている。しかし、高齢者施設に常勤医がいる施設は1割に満たず、医師不在であれば看取りの説明を看護師が担っている。以前取り組んだ研究では、看取りの説明に困難を感じているという看護師の語りが複数あった。その中でも「看取りの説明には経験が必要であり、誰にでもできるものではないから難しい。」と言う看護管理者の語りがあり、今後の課題のひとつとして、『看取りの説明を担える後輩看護師の育成』が必要であると考えた。また、同調査では、「最終的に看取りに納得できないと看取りの説明時の決断を後悔するため、看取りの説明は重要であり難しい。」という家族の立場を踏まえた語りもあった。看取りとは、看取りの説明から最終的な看取りまで切り離せるものではなく一連のプロセスである。最終的に悔いのない看取りを迎えるには、看取り期に入る説明のタイミングや内容が重要である。

そこで、現在、看取りを担っている看護師を対象とし、看取りの説明を担う看護師に必要な実践能力と説明者育成のための支援を検討するための研究に取り組んでいる。看取りの説明がスムーズに行えることで、本人、家族、多職種チームは“看取り期に入る”と、意思統一が図れ、看取り期のケアの充実が期待できる。また、十分な看取りケアを行うには、ある程度期間が必要であるため、説明時の支援に着目することで、本人の望む看取り期を過ごすためのケアが提供できる期間が増えると考えている。

メッセージ

看護職は人を見る仕事です。人に関心を持ち、対象者を“患者”ではなくひとりの“人”として尊重できる看護師の育成を目指しています。学生の皆さんも、大切な尊重されるべきひとりの人間です。お互いに相手に関心を寄せ、本学で一緒に深く学び合いませんか。

Profile

研究分野

成人・老年看護学／精神看護学

所属学会

GI学会／日本看護科学学会
日本看護研究学会／日本老年看護学会
日本エンドオブライフケア学会／日本褥瘡学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会

学歴・経歴

2020年 福井県立大学大学院看護福祉学研究所
看護学専攻博士前期課程 修了
2020年 石川県立看護大学 助教

論文

介護保険施設における新型コロナウイルス感染流行時の入所者とその家族への対応, 石川看護雑誌, 19, 101-110, 2022.

講演・口頭発表等

- 高齢者の術後せん妄予防のための看護介入に関する文献検討, 第12回看護理工学会学会学術集会 (2024)
- 日本におけるトランスジェンダーへの看護に関する研究の動向と課題, 日本看護研究学会第50回学術集会 (2024)
- 就寝前の温浴による認知症高齢者の夜間睡眠への影響, 日本看護研究学会第49回学術集会 (2023)
- 介護保険施設における新型コロナウイルス感染流行時の入所者とその家族への対応, 日本老年看護学会第27回学術集会 (2022)
- 介護保険施設入所高齢者の看取り期の判断を家族と共有するうえで看護師が抱える難しさとその背景にある思い, 第40回日本看護科学学会学術集会 (2020)

競争的資金等の研究課題

- 高齢者施設における看取り期の説明に関する実態調査及び看取りの説明を担う看護職に必要な実践能力と説明者育成のための支援の検討(公益社団法人全国老人福祉施設協議会調査研究助成事業)
- 介護保険施設における認知症高齢者の難聴に着目した支援プログラム作成に関する研究(科学研究費助成事業基盤研究(C)分担)

社会貢献活動

- 日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員
- 日本ACLS協会 BLS・ACLSインストラクター
- 第12回看護理工学会学術集会 実行委員
- LGBTQ出張授業
- 第12回ILFJ学術集会 実行委員 (2023)



成人・老年看護学講座

星野 真実 助教

Makoto Hoshino

contact: hoshinom@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

看護理工学／DTI予防／バイオメカニクス／異分野融合

シミュレーションで非侵襲的に体内を観察し、 看護理工学による新たなケア・機器開発へ

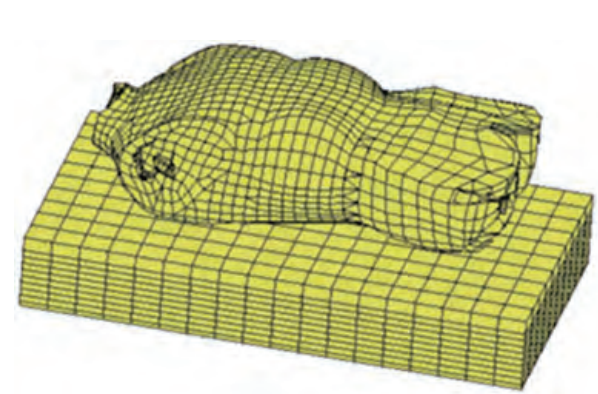
研究の概要

わが国において、高齢化や医療の高度化により看護はより社会的に重要なものとなり、その技術の発展が望まれている。私はその中でもシミュレーション技術を用いた工学的手法を用いて看護学の研究を行っている。シミュレーション技術を用いることでコンピュータ上で身体モデルを再現し、非侵襲的に身体内部に加わる力の予測などが行える。この技術を用いて褥瘡(じよくそう)予防のためにベッドに寝たときに身体内部にどのような力が加わっているのか予測できるモデルの開発(下図)などに取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

看護学と工学の学際的研究により、 身体内部に加わる力を観察することで新たなケアへ

有限要素法という技術を使用し、生体のシミュレーションを行うことで身体内部に加わる力を予測する研究を行っている。臨床の看護師において褥瘡の発生やリンパ浮腫の圧迫療法、弾性ストッキングの使用など表面だけではなく身体内部の力学的影響が関係する場面は多数存在する。しかしその力を非侵襲的に測定するのは難しい。そこでコンピュータ上で力を加えたときに身体内部に影響する力を予測することでどのような方法が効果があるのか評価し、新たなケアや機器開発につなげていく。



図．褥瘡予測のための有限要素モデル

メッセージ

看護学の研究ではその成果をどのように社会に還元していくかが特に重要だと考えています。そのためには看護学を中心に学際的な研究を行ってきたいと考えています。ぜひ一緒に新たな看護学の発展をめざしましょう！

Profile

研究分野

看護理工学／創傷看護学／バイオメカニクス

所属学会

看護理工学会／日本褥瘡学会／日本機械学会
国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本看護技術学会／日本看護研究学会
看護人間工学会／日本転倒予防学会

学歴・経歴

2019年 静岡県立大学看護学部 卒業 看護師・保健師
2019年 菊川市立総合病院 看護師
2025年 金沢大学大学院新学術創成研究科融合科学共同専攻 博士前期課程 修了 修士(融合科学)
2025年 金沢大学大学院新学術創成研究科融合科学共同専攻 博士後期課程 入学
2025年 石川県立看護大学 成人・老年看護学講座 助教

論文

星野真実, 坂本二郎, 茅原崇徳, 腰部有限要素モデルを用いた側臥位における体圧分散マットレスの力学的評価, 看護理工学会誌, 2025;12:119-135.

講演・口頭発表等

- 星野真実, 勝森琢朗, 池田舜亮, 坂本二郎, 大野直樹, 大桑麻由美, 大江真琴, 茅原崇徳, 三浦真揮, 松田英明, 林修巳, 身体内部のせん断応力を含めた褥瘡予防に有効なウレタンマットレスの検討—実験と有限要素解析を通して—, 第19回日本褥瘡学会中部地方会学術集会, (2024)
- 星野真実, 勝森琢朗, 坂本二郎, 大野直樹, 大桑麻由美, 大江真琴, 茅原崇徳, 三浦真揮, 松田英明, 林修巳, 体圧分散寝具のバイオメカニクスの評価のための個別別有限要素モデルの開発, 第12回看護理工学会学術集会, (2024) (示説)

社会貢献活動

R7年度石川県立看護大学リカレント教育事業「がんとこころと看護の力」運営. 臺美佐子, 松本智里, 星野真実, 平岡淳子. 2025.5.10, 金沢



成人・老年看護学講座

北村 言 教授
 Aya Kitamura
 contact: kitamura@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/akitamura>

研究キーワード

高齢者／褥瘡／在宅／遠隔

高齢者が「今が幸せ」と思える生活を支える 新たな看護技術の開発

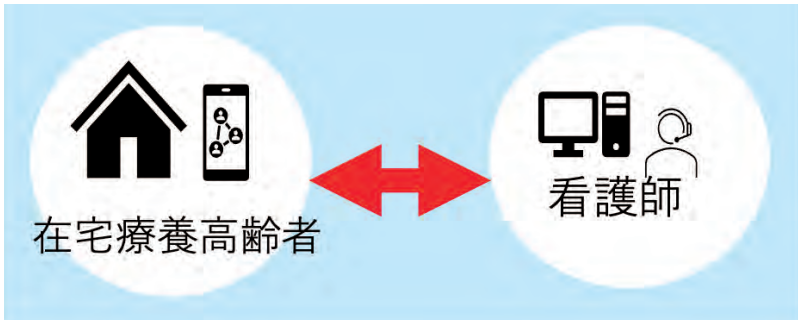
研究の概要

高齢化率が上昇する中、これまでと同じケア方法では、同等あるいはより質の高いケアを全ての高齢者に提供することは難しくなります。その課題を解決するには、看護ケアも変化していかななくてはなりません。世の中の変化とともに、高齢者を取り巻く環境も大きく変化し、様々なテクノロジーが身近なものになってきています。現在、そして未来の高齢者の生活を支えるため、それらのテクノロジーを活用し、新たな看護技術の開発に取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

褥瘡のアセスメントおよびケア技術に関する研究、 高齢者の在宅療養支援に関する研究

在宅療養高齢者は今後ますます増加することが予想されます。彼らの生活を支えるため、高齢者がどこに住んでいても、いつでも、最良のケアを受けられるようにするには、従来の対面でのケアだけでなく、遠隔でのケア提供も組み合わせることが必要となっていくと考えられます。これまで褥瘡を研究テーマに、遠隔看護の研究にも取り組んできました。在宅での褥瘡ケアでは、訪問看護師が日々の褥瘡ケアを実施していることが多いです。訪問看護師が利用者宅で褥瘡ケアを実施する際に、創傷の専門家である皮膚・排泄ケア認定看護師の助言を遠隔で受けられるようにすることで、褥瘡の治癒が促進されることを報告しました。在宅療養高齢者の遠隔での生活支援という視点で研究を広げていきたいと思っています。



メッセージ

高齢者が「今が幸せ」と思える生活を看護の力で支えていきたいと思いが、
 ら研究に取り組んでいます。新しい看護技術・システムと一緒に作っていき
 ませんか。

Profile

研究分野

老年看護学／創傷看護学／看護理工学

所属学会

日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本看護科学学会／日本創傷治癒学会／看護理工学会／日本看護管理学会 など

学歴・経歴

2006年 名古屋大学 卒業
 2006年 三重大医学部附属病院 看護師
 2011年 名古屋大学医学部保健学科 助教
 2014年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 修士課程 修了
 2017年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 博士課程 修了
 2017年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 助教
 2022年 東京大学大学院医学系研究科健康科学／看護学専攻 准教授
 2024年 石川県立看護大学 教授

論文

- Kitamura A, Nakagami G, Okabe M, Muto S, Abe T, Doorenbos A, Sanada H. An application for real-time, remote consultations for wound care at home with Wound, Ostomy, and Continence Nurses: A case study. Wound Practice and Research. 2022;30(3):158-162.
- Kitamura A, Nakagami G, Minematsu T, Kunimitsu M, Sanada H. Establishment of an infected wound model by bacterial inoculation on wound surface in rats. J Nurs Sci Eng. 2021;9:1-8.
- Kitamura A, Nakagami G, Matsumoto M, Hayashi C, Kawasaki A, Sanada H. Effectiveness of a robotic mattress with automatic inner-air cell adjustment and continuous pressure mapping on prevention of pressure ulcer deterioration in a critically ill patient with a pressure ulcer in the sacrum. J Jpn WOCN. 2021;25(4):689-696. など

講演・口頭発表等

- Kitamura A, Nakagami G, Sanada H. A robotic mattress supporting patients' comfort by automatic repositioning and air-cell pressure adjustment through interface pressure mapping. The 6th Congress of the World Union of Wound Healing Societies, Abu Dhabi, UAE, March 3rd, 2022.
- Kitamura A, Nakagami G, Muto S, Sanada H. Effectiveness of teleconsultations with Wound, Ostomy, and Continence Nurses on pressure injury healing in community settings. The 9th Asia Pacific Enterostomal Therapy Nurse Association Conference, online, 3-5th July, 2021. など

競争的資金等の研究課題

科研費 若手研究, 在宅療養者における下肢褥瘡の外力コントロールのためのケアアルゴリズムの開発, 2023-2025年度

社会貢献活動

日本褥瘡学会(理事)／日本看護科学学会(代議員)／一般社団法人次世代看護教育研究所 エコー技術講習会 講師 など



成人・老年看護学講座

中道 淳子 准教授
 Junko Nakamichi
 contact: junkoh@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yudusato13>

研究キーワード

認知症高齢者／QOL／意思決定支援／ACP

忘れても あなたはあなたのままでいい！共生社会の実現を推進するための認知症基本法の推進を！

研究の概要

平成15年に、「いちご会；認知症予防ボランティアの会」を立ち上げた。住民ボランティアの方と認知症の普及啓発や、グループホーム訪問や老人福祉センターでの認知症予防活動などを行い、その効果やプロセスについて研究してきた。

また、グループホームにおいて笑いヨガを実施して、その効果を前頭前野の脳血流量測定や唾液アミラーゼ測定、口腔機能の測定等で行ってきた。

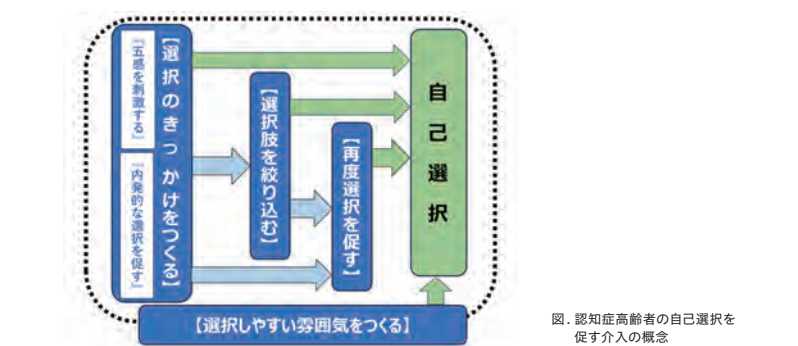
グループホームにおいては笑いヨガだけでなく、レクリエーションを実施して意思決定の実態調査なども実施した。

2024年1月1日に施行された、共生社会の実現を推進するための認知症基本法の目的は、認知症の人が尊厳を保持し、希望を持って暮らせるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進することである。この法律の目的を念頭に、認知症高齢者の意思決定支援やACPの実践に向けた調査にも着手している。

研究の内容(大学院向け)

認知症高齢者のQOLを様々な視点からとらえ、 看護実践につなげていこう

認知症高齢者は、徐々に認知機能の低下が進み、やがて言語でのコミュニケーションが難しい段階に進む。言葉を発することができなくなった重度認知症高齢者が最期まで尊厳のある生を全うするためには、日々の生活にかかわる者が認知症高齢者からの微弱なサインを見逃さずにキャッチする必要がある。我々はどんなサインをキャッチできるだろうか？そしてそのサインを日々の看護に活かしていくには？認知症高齢者に最後まで笑顔で過ごしていただくことにつながる研究にしていきたい。



メッセージ

傍にいて、話すこと、触れ合うことを大切にして、
 いっしょに認知症高齢者の笑顔の花を咲かせませんか。

Profile

研究分野

老年看護学／認知症ケア

所属学会

日本看護科学学会／日本老年看護学会
 日本認知症ケア学会／日本認知症予防学会
 日本エンドオブケア学会

学歴・経歴

- 富山医科薬科大学大学院医学系研究科 修士(看護学)
- 石川県立看護大学大学院 博士(看護学)

受賞

日本認知症ケア学会 平成29年度石崎賞「認知症高齢者とケアスタッフが共に笑いヨガを行った際の唾液アミラーゼ活性値の変化」(代表)

論文

- 中道淳子, 渡辺達也: 認知症高齢者の日常生活における自己選択のための介入方法の検討 - 認知症対応型共同生活介護事業所でのレクリエーションにおける試み -, 日本認知症予防学会誌, 14(1), 25-32, 2024.
- 中道淳子, 磯光江, 北山礼子, 今井秀樹: 笑いヨガによる高齢アルツハイマー病患者のストレス状態と認知機能の変化 - 唾液アミラーゼ活性値を指標として -, 看護科学研究, 24巻, 23-31, 2025.
- 吉崎彩, 中道淳子, 川島和代: 老人看護専門看護師が非がん疾患高齢者・家族とのACPを躊躇したときの実践, 日本老年看護学会誌, 29(1), 78-85, 2024.

書籍等出版物

最新老年看護学第4版2025年版, 日本看護協会出版会(7章分担執筆)

講演・口頭発表等

- 中道淳子, 大橋史弥, 宮本菜々恵, 近藤孝朗, 今井秀樹: 地域の認知症予防ボランティアと大学生による小学生への認知症学習の在り方と効果, 第13回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2024.9
- かほく市: 認知症サポーターフォローアップ研修(2023)

競争的資金等の研究課題

- 挑戦的萌芽研究「ストレス軽減および認知機能の維持向上を意図した笑いヨガプログラムの開発」(代表; 2015-2018年)
- 基盤研究(C)「高齢腎不全患者におけるフレイル改善への介入効果と腎代替療法への影響についての調査」(分担; 2021-2023年)

社会貢献活動

- 日本老年看護学会災害支援検討委員会 委員
- 日本認知症予防学会 代議員 査読委員
- かほく市地域密着型サービス運営協議会 委員長
- 津幡町介護予防メイト養成講座 講師



成人・老年看護学講座

大橋 史弥 講師

Fumiya Oohashi

contact: foohashi@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/fumiyaoohashi>

研究キーワード

心不全／エコー／褥瘡再発予防／看護理工学
AR(Augmented Reality)／DX(Digital Transformation)

エコーを用いた体内の可視化により、 病に苦しむ高齢者への新たな看護システムを探る

研究の概要

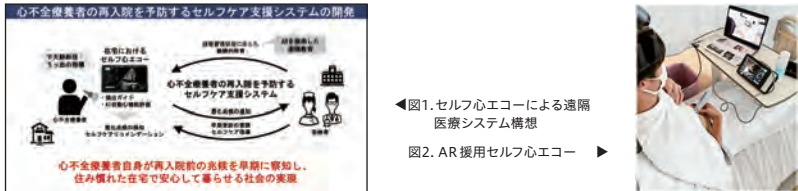
日本は心不全パンデミック禍にあり、心不全の罹患率は高齢者を中心に年々上昇している。心不全の特徴は、心機能の増悪と寛解に伴い再入院を繰り返す点にある。現在の大きな問題は、心不全療養者の再入院率の高さである。再入院率が高い要因は、在宅における医療者の人材不足や心機能悪化後の症状をモニタリングしている点にある。そこで、心不全療養者が自身で心機能を把握し、症状が出現する前段階を可視化することを目的に、セルフモニタリング心エコー（以下、セルフ心エコー）の実装に向け研究活動に従事している。

研究の内容(大学院向け)

心不全療養者の再入院予防に向けた セルフ心エコーの実装と非医療者用エコー器機の開発

心不全療養者によるセルフ心エコーの実施に向け、まず心機能評価項目の検討を行った。そこで、心機能の悪化兆候を反映する指標として、下大静脈に焦点を当てた。下大静脈は、Nt-proBNPとの相関や、再入院の要因となるうっ血の評価が可能である。そこで、セルフ心エコーによる下大静脈の描出を目指したプロトコルの開発を行った。開発したプロトコルの検証結果から、健常成人(Katano, Miya 2021)や地域在住の非心不全高齢者(Tanaka 2022)、外来通院可能な心不全療養者(Ishiwa, Kimura 2023)は下大静脈の描出が可能であることが示された。

セルフ心エコーによる遠隔医療システムの構築(図1)を想定している。遠隔医療システムの構築を見据え、AR技術を援用した遠隔指導によるセルフ心エコー(図2)の実現可能性について検討を行った(Fujio, 2022)。AR技術を援用することでエコー走査手技の間接的な誘導が可能となる。結果、健常成人はAR技術を援用した遠隔指導によりセルフ心エコーによる下大静脈の描出が可能であることが示唆された。現在、心不全療養者によるセルフ心エコーの実現可能性の検討や、非医療者用エコー器機の開発を目指した研究をすすめている。



メッセージ

看護の奥深さは何でしょう？皆様も本学で看護の魅力を体感し、一緒に探求しませんか？そして、看護の力は無限大です。それぞれの夢の実現に向けて一緒に歩みましょう！大切な大学生活を全力でサポートします。

Profile

研究分野

創傷看護学／看護理工学／成人・老年看護学

所属学会

日本看護科学学会／看護理工学会／日本創傷治癒学会／International Lymphoedema Framework Japan／日本褥瘡学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会 など

学歴・経歴

- 群馬大学大学院保健学研究科 修士(看護学)
- 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 博士(保健学)

受賞

Best Poster Presentation Award, 「The most appropriate duration for preventing recurrent pressure ulcers among patients with pressure ulcers undergoing conservative treatment」, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023. など

論文

- Cumulative recurrence rate of pressure ulcers in bedridden older adults healed with conservative treatment. Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management, 27 (1), 2023.
- Increased temperature at the healed area detected by thermography predicts recurrent pressure ulcers. Wound Repair and Regeneration, 30 (2), 190-197, 2022.
- Interventions for the management of lower extremity edema in the elderly people: A review. Lymphoedema Research and Practice, 9 (1), 1-12, 2022 など

書籍等出版物

一般病棟の認知症患者「こんなときどうする?」(共著). 照林社, 2017. など

講演・口頭発表等

- The most appropriate duration for preventing recurrent pressure ulcers among patients with pressure ulcers undergoing conservative treatment (EAFONS, 2023)
- Using self-monitoring echocardiography to delineate and measure the inferior vena cava diameter by patient receiving treatment for heart failure(EAFONS, 2023) など

競争的資金等の研究課題

若手研究「在宅心不全療養者へのセルフ心エコー導入による先駆的な遠隔医療システムのモデリング」(代表／科研費事業:2022-2024年度) など

社会貢献活動

日本看護科学学会 若手エリアマネージャー など



成人・老年看護学講座

近藤 考朗 助教

Takao Kondo

contact: kondo615@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

認知症／退院支援／意思決定支援

認知症高齢者がその人らしく暮らすことができるよう手助けするための研究

研究の概要

わが国が目指す認知症を有する人との共生社会の実現のためにも、医療者には効果的な退院先選択に関する意思決定支援の実践が求められる。認知症を有する人と家族にとって適切な退院先を調整するためにどのような課題があるのかを明らかにするために、認知症を有する高齢者と家族が退院後の住まいを選択するまでのプロセスや両者に生じるずれの探索を行っている。さらに、地域包括ケア病棟における高齢者の退院に関する実態や退院先に影響する要因を明らかにするための研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

医療者に認知症高齢者の住まいに対する 意思決定支援を促すためのツール開発

認知症の人との共生社会を目指すにあたり、認知症の人が住み慣れた在宅で過ごすためにも、認知症患者と家族の認識のすり合わせが重要である。認知症高齢者と家族がお互いを知ることができ、意向のすり合わせに向けた対話へのきっかけを作るため、医療者に意思決定支援を促すためのツール開発に着手している。意思決定支援における医療者の具体的な対話の切り口や判断の視点を示すことで認知症高齢者と家族の意向に配慮した意思実現支援が行える可能性がある。

メッセージ

研究で見えられたことは患者・家族の希望になります。自分がよりよくしたい、課題を解決したいという強い思いが患者さんの幸せにつながると信じています。一緒に看護を探究しましょう。

Profile

研究分野

認知症看護／退院支援

所属学会

日本老年看護学会／看護実践学会
日本老年医学会／日本糖尿病看護・教育学会
日本看護研究学会

学歴・経歴

- 2012年 金沢大学医薬保健学域保健学類看護学専攻 卒業
- 2012年 公立学校共済組合北陸中央病院 看護師
- 2018年 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科保健学専攻看護学専攻 博士前期課程修了
- 2020年 石川県立看護大学大学院実践看護科学分野 博士後期課程 入学
- 2024年 石川県立看護大学 助教

論文

- 近藤考朗, 稲垣美智子, 多崎恵子, 堀口智美: インスリン療法中の高齢糖尿病患者を支える家族のモニタリング力, 日本看護研究学会誌, 46巻4号, 671-681, 2023.
- 近藤考朗, 川島和代, 中道淳子, 中山詠美, 窪田雅江, 前田郁子, 中島照美, 小幡法子, 福島真弓, 大家理恵: 地域包括ケア病棟入院を契機とした高齢者の住まいの変化, 日本老年医学会雑誌, 61巻, 3号, 304-311, 2024.

講演・口頭発表等

- 前頭側頭型認知症が発覚した2型糖尿病患者への関わり, 第48回日本看護学会慢性期看護学術集会, 兵庫, 2017: 近藤考朗, 中川法子.
- 地域包括ケア病棟における高齢者と家族の退院先への意向と実態, 第9回地域包括ケア病棟研究大会, 東京, 2023: 近藤考朗, 川島和代, 中道淳子, 中山詠美, 窪田雅江, 前田郁子, 中島照美, 小幡法子, 福島真弓, 大家理恵.
- 認知機能障害のある高齢患者と家族が退院先を決定するまでに生じるずれの探索, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024.6: 近藤考朗, 川島和代, 中道淳子, 大橋史弥, 宮本菜々恵, 中島照美, 岸本奈々.



地域・在宅・精神看護学講座

米澤 洋美 教授

Hiromi Yonezawa
contact: h-yonezawa@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0140188>



研究キーワード

保健師活動／健康づくり／介護予防／団塊世代男性
シルバー人材センター

立場の弱い人や孤立した人も含め、お一人お一人が 居場所と出番を持ち輝ける社会を目指して、地域での 退職後高齢者の健康づくりを探る

研究の概要

行政の保健師として働いてきた経験と日本の地域保健福祉従事者の現任教育を担当する研究所での経験を発端にして研究テーマを展開しています。地域丸ごと健康になれるしぐみに興味があります。地域保健における保健活動や健康づくりのテーマであれば一緒に研究したいです。

研究の内容(大学院向け)

2000年に始まった日本の介護保険制度は20年を超え、住み慣れた街でいつまでも自分らしく暮らすことを目指し介護予防の考え方が各自治体で推進され介護予防を重視した事業や保健と福祉の一体化事業など公的サービスは連続性をもって進められています。が一方で自ら求めない高齢者も多く、いきなり重症化している事例も少なくありません。

他国と比較して日本の高齢者の就労意欲は高い傾向が見られます。この就労意欲の高さを強みとし、いつまでも自信をもって暮らすための高齢者の健康づくり、介護予防が主体的に展開されるしぐみを研究として考えています。



シルバー人材センター会員の高齢者さんと一緒に話し合って健康づくりを進める研究をしました。保健師が主体的に健康づくりに取り組むためのファシリテーター（船頭さん）になれたらと思います。参加型アクションリサーチの手法を用いました。

メッセージ

これまでは2025年に着目した制度改革から、今般では2040年に着目した制度改革に世の中の関心が進んでいます。健康で暮らせる寿命がさらに延びるであろう未来において高齢者がいつまでも生き生きと輝けるしぐみづくりと一緒に考えることに関心のある方をお待ちします。

Profile

研究分野

公衆衛生看護学／高齢者保健／保健師現任教育

所属学会

日本公衆衛生看護学会／日本地域看護学会
日本看護科学学会／日本医学看護学教育学会
日本結核・非結核性抗酸菌症学会
日本老年看護学会／日本保健師活動研究会

学歴・経歴

1995年 東京大学医学部保健学科 卒業
1999年 東京医科歯科大学大学院修了 修士(看護学)
2019年 石川県立看護大学大学院修了 博士(看護学)
1995年 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 看護師
1999年 横浜市役所 保健師
2005年 国立保健医療科学院公衆衛生看護部 研究官
2007年 横浜市役所保 健師
2008年 福井大学医学部看護学科 助教
2009年 福井大学医学部看護学科 講師
2015年 福井大学医学部看護学科 准教授
2022年 石川県立看護大学 教授

論文

- 日本の高齢者の就労と健康づくり・健康管理に関する文献検討. 米澤洋美, 石垣和子, 地域ケアリング, 24(12), 2022
- NICUを退院した低出生体重児の母親の育児不安と育児ソーシャルサポート、育児に対する自己効力感との関連, 夏梅るい子, 長谷川美香, 米澤洋美, 49(1), 2022.

書籍等出版物

米澤洋美(分担執筆)第3章. 高齢者保健医療福祉活動, 中谷芳美(著者代表): 標準保健師講座, 対象別公衆衛生看護活動第5版. 92-118, 医学書院, 東京, 2024.

講演・口頭発表等

Factors Relating to the Self-assessment of Driving Skill for Members of Silver Human Resource Centers in Rural Areas.Hiromi. yonezawa,4th Edition of International Public Health Conference.2025.

競争的資金等の研究課題

文科省科研基盤 (C) 一般(研究代表者) 定年退職後男性の再就労の場における役割循環型介護予防プログラムの開発(2024-2028)

社会貢献活動

- かほく市健康づくり推進協議会委員
- かほく市地域自立支援協議会委員長
- 全国保健師教育協議会「保健師教育」編集委員



地域・在宅・精神看護学講座

室野 奈緒子 助教

Naoko Murono
contact: muro79@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/muro79_naoko



研究キーワード

多職種連携／産業保健／職場復帰支援／メンタルヘルス

メンタルヘルス不調者の円滑な職場復帰を叶える 多職種連携の科学的検証

研究の概要

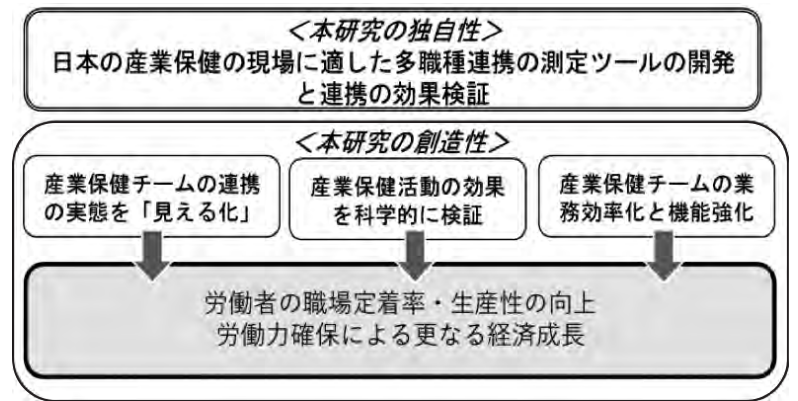
メンタルヘルス不調による休職は長期化しやすく、再発率も高いため、企業にとって大きな経済的損失をもたらす。不調者の職場復帰を促進するためには、適切な支援が不可欠であり、その中でも産業医、産業看護職、人事労務担当者など、職場内の多職種連携が重要な役割を果たす。

職場復帰支援に携わる職種間の連携を強化することで、労働者への質の高いメンタルヘルスケアの提供と、円滑な職場復帰が可能となる。そこで、職場内の多職種連携に焦点を当て、その実態と効果を明らかにすることを目指し、研究に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

メンタルヘルス不調者の円滑な職場復帰を支援するため、職場内の多職種連携の効果を測定するツールを開発し、その有効性を検証する研究を進めている。産業保健チームは、医療専門職と非医療専門職の多様な職種で構成されており、事業場の規模や職種によって連携の在り方は一様ではない。本研究では、開発した測定ツールを用いることで、多職種連携の実態を明らかにし、それぞれの属性による違いを科学的に検証する。

さらに、測定ツールを用い連携の効果検証を行うことで、産業保健チームの連携の実態を「見える化」できるほか、業務効率の改善や労働者へのきめ細かな支援に寄与し、職場全体の産業保健活動の充実につながることが期待される。



メッセージ

産業保健は、従業員の健康管理を通して生産性の向上や労働災害の予防などの効果をもたらす、従業員と企業の双方の利益につながります。産業保健師として、従業員の健康を支え、従業員と企業の幸せのために関わることによりやりがいを感じます。

Profile

研究分野

産業保健／メンタルヘルス／職場復帰支援
公衆衛生看護学

所属学会

日本産業衛生学会／日本公衆衛生学会
日本地域看護学会／日本産業精神保健学会
日本看護科学学会

学歴・経歴

2019年 石川県立看護大学看護学研究科看護学専攻 博士前期課程 修了
2020年 石川県立看護大学地域看護学 助教

論文

室野奈緒子, 石垣和子, 塚田久恵, 阿部智恵子: 人事労務担当者との連携における産業看護職の役割の構造 -メンタルヘルス不調者の職場復帰支援を通して-. 石川看護雑誌, vol.18, 13-24, 2021

講演・口頭発表等

- メンタルヘルス不調者の職場復帰支援における産業保健看護職の人事労務担当者との連携.第34回日本産業衛生学会全国協議会, 示説
- Survey of Collaboration between Occupational Health Nurses and Human Resources in Supporting the Return-to-Work of Employees with Mental Health Problems. the 15th International Nursing Conference (INC) and the 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), E-Poster

競争的資金等の研究課題

「メンタルヘルス不調者の職場復帰に向けた多職種連携効果の測定」令和6～9年度 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)

社会貢献活動

- 日本産業衛生学会 多職種連携研究会世話人
- 日本産業衛生学会 産業保健看護部会石川県会計監事



地域・在宅・精神看護学講座

嶋 雅奈恵 助教

Kanae Shima

contact: kanaeshi@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/kanaeshima>

研究キーワード

地域看護／公衆衛生看護学／児童虐待／障害児施設

家庭養育の推進(より家庭に近い環境での養育の推進)のため、障害児施設の発達障害児への支援を探る

研究の概要

これまで行政保健師として公衆衛生看護活動に従事してきた。この経験の中で常に対象者がその人らしく主体的に生活できるように、QOL 向上を目指した活動を行ってきた。また地域の健康課題やその解決のための取り組みを関係者で共有、検討・協議してその取り組みをさらに推進するために行政計画へ反映させることを目指した研究を行ってきたが、現在は障害児施設の児童への支援に関する研究に取り組んでいる。

2023年4月に「こども家庭庁」が新設され児童のいる家庭だけでなく、施設で生活する児童も等しく健やかに成長するための支援が求められている。障害児に対する児童福祉法に基づく入所施設に「福祉障害児入所施設(以下、障害児施設)」がある。入所児童の中には被虐待児も入所しており、知的障害を含む発達障害、精神障害等合併障害の児童が増加している。児童虐待により児童相談所を経て障害児施設に入所となる児童も少なくない。

障害児施設からの意向先は、医療が必要な入所施設である医療型においては、「家庭復帰」8割を超えるのに対して、福祉型は「家庭復帰」は3割にも満たない。

児童福祉法(2016年改正)では、実親による養育が困難であれば、里親や特別養子縁組などで児童が健やかに養育されるよう、家庭養育の推進(より家庭に近い環境での養育の推進)を図ることになったが、社会的養護を必要とする児童の約9割が施設入所という現状にある。

そこで、障害児施設での発達障害児に求められている支援を検討し、障害児の健やかな成長とともに、障害児施設の支援の質の向上を探求し、家庭養育の推進(より家庭に近い環境での養育)の実現を目指していく。

メッセージ

私はこれまで行政保健師として地域で生活する困難な状況にある者が抱える健康課題とその課題解決に向けた支援に取り組んできました。実践者からエビデンス重視の実践を探求するべく、研究活動を開始しています。

Profile

研究分野

地域看護／公衆衛生看護学

所属学会

日本公衆衛生学会／日本公衆衛生看護学会
日本地域看護学会

学歴・経歴

2007年 富山医科薬科大学大学院医学研究科
看護学専攻(修士課程) 修了
2007年 富山県職員(保健師)
2020年 石川県職員(保健師)
2023年 石川県立看護大学地域看護学講座 助教

論文

住宅改修が要介護認定者の在宅継続期間へ及ぼす影響(学位論文) 厚生指標(0452-6104)54巻11号 Page38-43, 2007年10月

講演・口頭発表等

- 住宅改修が要介護認定者の在宅継続期間へ及ぼす影響第64回日本公衆衛生学会(於北海道)示説, 2005年9月
- 福祉型障害児入所施設における知的障害児支援に関する文献レビュー. 日本公衆衛生看護学会, 2024年1月

競争的資金等の研究課題

「福祉型障害児入所施設の発達障害児に対する社会性スキル支援プログラムの開発」令和7-10年度学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)



地域・在宅・精神看護学講座

中敷 えりか 助手

Erika Nakashiki

contact: 6r1kanak@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

訪問看護師／看取り／被災後

訪問看護師を中心とした「能登地区看取り推進プログラム」

研究の概要

自宅で最期を迎えたいと考える人は多いが、医療・在宅支援などの体制不足、家族の負担、経済的な問題など、多くの課題がある。1年に2度大規模自然災害を経験した能登地区のような地域の訪問看護師を中心とした在宅看取り推進の実態は十分に明らかにされていない。そこで、令和6年に発生した能登半島地震と奥能登豪雨以降の能登地区における在宅看取りの現状を把握し、地域の特性に適した訪問看護師を中心とした在宅看取り推進プログラムの構築を目指す。

メッセージ

2025年度4月より地域看護学講座で助手をさせていただいております。これまであまり主体となって研究を行ってこなかったため経歴は乏しいですが、地域看護学分野をベースに頑張っていきたいと思います。

Profile

研究分野

地域看護学

学歴・経歴

2013年 石川県立看護大学 卒業
2013年 金沢大学医学部附属病院 看護師
2015年 公益社団法人石川勤労者医療協会 城北病院 保健師
2020年 医療法人社団浅ノ川 千木病院 看護師
2025年 石川県立看護大学 地域看護学講座 助手



地域・在宅・精神看護学講座

桜井 志保美 教授

Shihomi Sakurai

contact: sakurai@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/sakurai-shihomi>

研究キーワード

介護者／心血管疾患リスクファクター／睡眠／医療的ケア育児

年齢や疾患にかかわらず、生まれてから人生の最期まで、児者が家族とともに自宅で安心して暮らせる未来の実現に貢献する

研究の概要

認知症高齢者の家族介護者のほとんどが睡眠の不满を経験していた。これまでに、睡眠に問題を抱える介護者が、非介護者に比べて高血圧リスクが高いことを明らかにし、心血管疾患発症予防のための睡眠支援について提案している。

国内には1万を超える訪問看護ステーションがあるが、小児訪問看護に特化した訪問看護ステーションは43施設のみであった(2020年4月)。そこで、日本国内のどこに住んでいても、医療的ケア児とその家族が自宅で一緒に安心して暮らせる社会の実現を目指し、訪問看護師による育児支援について取り組んでいる。

最近新たに、指定規則が改正され、地域・在宅看護論になったことをきっかけに、介護予防に関する取り組みにも着手している。

研究の内容(大学院向け)

実践活動で感じた疑問を研究手法によって、明らかにし、解決策を探る

保健師と働いていたある日、いつものように認知症高齢者のお宅に訪問すると、介護者である奥さんのお葬式と遭遇。“この認知症高齢者のご夫婦との経験を無駄にしない”と思い開始した研究が、認知症高齢者の家族介護者への健康支援である。介護者の睡眠を、Pittsburgh 睡眠質問票、アクティグラフ、心拍変動スペクトル解析を用いて、睡眠の量的評価・質的評価をすることを得意にしている。これまでに、歩行可能な認知症高齢者の家族介護者の睡眠の問題やレスパイトケアの効果を明らかにした。また、記述データについて内容分析を行い、介護者のストレス解消方法や医療的ケア児の養育者の困りごとなどを明らかにしている。

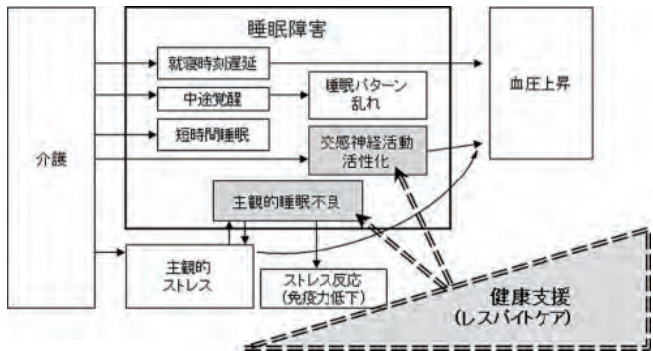


図. 家族介護者の健康支援に関する研究

メッセージ

月に1回抄読会を開催し、在宅看護に関する論文の紹介と意見交換に実施。いろいろな視点からの意見交換を期待して、在宅看護学分野ゼミ以外の参加者も募集中。一緒に学び合いましょう。

Profile

研究分野
 地域看護学

所属学会
 在宅ケア学会／地域看護学会／日本看護科学学会

- 学歴・経歴
- 名古屋大学大学院医学系研究科 博士(看護学)
 - 大阪府保健所勤務(保健師)
 - 日本福祉大学事業部 研修講師
 - 名古屋大学医学部保健学科在宅看護学 助手・助教
 - 金沢医科大学看護学部公衆衛生看護学 講師・准教授
 - 石川県立看護大学在宅看護学 准教授・教授

- 論文
- 未就学の医療的ケア児を養育する親の育児ストレスの実態「インターナショナル Nursing CareResearch 21(1)」2022
 - Effectiveness of Respite Care via Short-Stay Services to Support Sleep in Family Caregivers「Int. J. Environ. Res. Public Health 17」2020
 - Impaired autonomic nerve activity during sleep in family caregivers of ambulatory dementia patients in Japan「Biol Res Nurs 17(1)」2015

- 講演・口頭発表等
- 医療的ケア児が2歳未満の時期に訪問看護師が行った遊びの育児支援に関する内容分析「第41回日本看護科学学会学術集会」2021
 - ショートスティ利用による睡眠支援を目的としたレスパイトケアの効果「第23回日本在宅ケア学会学術集会」2018

- 競争的資金等の研究課題
- 科学研究費基金・基盤研究(C)「訪問看護師向け2歳未満の医療的ケア児における食と発達に関する育児支援ガイド作成」
 - 科学研究費基金・基盤研究(C)「認知症患者の家族介護者に対する睡眠支援を目的としたレスパイトケアの効果検証」

社会貢献活動

かほく市地域公開講座、宝達志水町女性の会:健康教育「あなたの眠りは大丈夫」



地域・在宅・精神看護学講座

山路 朋子 助教

Tomoko Yamaji

contact: 07yama@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/to.mo-ko>

研究キーワード

病棟看護師／終末期／退院支援

人生の終末期をその人らしく暮らすことができるように、病棟看護師が行う退院支援の在り方や、病棟看護師に対する効果的な教育を考えるために役立てる

研究の概要

日本人は人生の最終段階を迎えた時にどこで過ごしたいかと問われた時、自宅で過ごしたいと答える人が多い。しかし、医療の進歩に伴い、病院で過ごすことを選択し病院で亡くなる人が多い現状にある。終末期を在宅で安全に安心して、その人らしく過ごせる人を増やすためにはどうしたらよいか。2016年の診療報酬改定により退院調整加算から退院支援加算に変更され、病院から在宅までの切れ目のない援助を行うために、退院支援がより重要とされることとなった。また、早期のスクリーニングや、患者や家族の意向を確認することが必要となり、病棟看護師による退院支援が求められる時代となった。退院支援は患者の症状や病状のコントロール、意思決定支援、他職種や家族との連携や調整など様々なことを行う必要がある。病棟看護師は終末期を迎える患者の退院支援を行えていだろうか、できていないと感じている人達には何が影響しているのだろうか、退院支援を行う病棟看護師に対してどのような支援が必要であるかを見出していく必要がある。

研究の内容(大学院向け)

病棟看護師の終末期のがん患者に対する退院支援の実践の自己評価と関連する要因を明らかにする

病棟看護師として勤務していて、終末期がん患者さんの看護に携わることが多かった。自宅で過ごしたかったという患者さんがいたが、その思いを叶えられずに何度も悔しい思いをしたことが研究のきっかけである。病棟看護師の退院支援がどの程度できているか、苦手と感じていないか、またそれに関連する要因は何かを明らかにすることで、病棟看護師の退院支援に関する教育に役立てていくことができるのではと考えた。病棟看護師は、患者・家族からの情報収集、家族への余命や告知、家族への療養についての要望確認はできているとする人が多かった。社会資源の活用、患者・家族・医療者の思いのずれについてはできていないとする人が多かった。苦手意識が少なく、終末期がん患者を自宅退院につなげた経験、在宅療養後の情報提供を受けた経験、退院支援に関する知識を有する病棟看護師は退院支援の実践の自己評価が高いことが明らかとなった。病棟看護師への支援として、退院後の患者の情報提供を受けることができるシステム作りや、苦手意識の改善への方策、退院支援の学習機会の必要性が示唆された。

メッセージ

10代の頃は看護の世界に入ろうとは思っていませんでしたが、大学で勉強し看護師として働き、大学院でさらに深めていくことで楽しくなりました。一緒に学んでいけるといいですね。

Profile

研究分野
 在宅看護学

所属学会
 日本看護科学学会

- 学歴・経歴
- 2011年 金沢医科大学看護学部 卒業
 - 2011年 金沢医科大学病院 看護師
 - 2018年 金沢医科大学大学院看護学研究科修士(看護学)
 - 2023年 石川県立看護大学 助教

論文

「病棟看護師の終末期がん患者に対する退院支援の実践自己評価と関連要因の検討」『日本看護科学学会誌』40巻 p. 562-571 2020年

- 講演・口頭発表等
- 「終末期がん患者に対する病棟看護師の退院支援実践の自己評価とその関連要因の検討」日本看護科学学会学術集会 口演 2018
 - 「病棟看護師の終末期がん患者に対する退院支援の自己評価とその関連要因の検討」日本看護科学学会学術集会 示説 2019



地域・在宅・精神看護学講座

牛村 春奈 助教

Haruna Ushimura

contact: ushimura@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/u-haru>

研究キーワード

在宅看護／パーキンソン病／口腔機能

食べることは生きることであり、喜びでもある。
食べることを諦めなくて良い社会に向けて、
口のはたらきを探る。

研究の概要

食事は単に栄養をとるだけでなく、「美味しい」と喜びを感じ、人と一緒に食べるにより仲が深まるなど、生きる上で欠かせないものである。しかし、人生の楽しみである食事が困難となる場合があり、その原因には加齢や病気による口の機能の衰えがある。口の機能が衰えると、最初は、むせたり、食べにくい食品があったりする程度だが、進行すると食べられなくなり、ついには栄養不足により心身機能が低下する。しかし、早期に気づいて対応することで、口の機能低下を予防することができる。そこで、口の機能が低下しやすい高齢者やパーキンソン病の方の口の機能に関する研究をすることにより、食べることを諦めなくて良い社会に貢献したいと考えている。



図1.口腔機能測定方法の例



図2.これまでに取り組んだ研究 (Parkinson 病の舌・咀嚼機能と栄養素摂取量との関連)

メッセージ

訪問看護師としての経験を活かして在宅療養に活かせる研究をしたいと思っています。私自身、研究については勉強中なので、学生と一緒に成長したいと思っています。

Profile

研究分野
在宅看護学

所属学会
日本在宅看護学会／在宅ケア学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会

学歴・経歴
2023年 石川県立看護大学博士前期課程 修了
2023年 石川県立看護大学博士後期課程 在籍

論文
Parkinson 病療養者における舌圧・咀嚼能力と栄養素摂取量の関連, 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌, 28(2), 90-98, 2024.

講演・口頭発表等

- Tongue pressure is associated with oral health-related quality of life and nutritional status among Japanese elderly people, The 27th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2024.
- 高齢女性における基本チェックリスト判定と口腔関連 QOL との関連, 第29回日本在宅ケア学会学術集会 2024.



地域・在宅・精神看護学講座

美濃 由紀子 教授

Yukiko Mino

contact: mino-pn@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/read0123773>

研究キーワード

司法精神看護／精神科身体合併症看護／感情活用

重大な他害行為を行った精神障がい者の治療、
社会復帰における看護師の役割の明確化を図る

研究の概要

わが国では従来、他害行為を行った精神障がい者の医療は、専門システムの不備から極めて劣悪な状況下にありましたが、2007年の医療観察法の施行によって飛躍的な改善を遂げました。同法の対象者は、病状の重篤さや複合性、課題の深刻さから一般精神科医療の枠では治療・処遇が非常に困難でしたが、マンパワー確保による治療契約・多職種連携等の条件が整備されたことで、早期に社会復帰ができるようになりました。司法精神医療の現場において、特に看護師が担う役割は、多岐にわたることから司法精神医療で行われているケアの実態を明らかにすることを通じた啓発と司法精神看護学教育の充実は必須課題であると考えています。司法精神医療制度や専門教育体制は、国による違いも大きく、それらの充実のためには国際的な視点からの検討も必要です。私は、司法精神医療における看護職が果たす役割の明確化と司法精神看護学教育の充実に向けた研究活動を行っています。

研究の内容(大学院向け)

「他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰支援における看護師の役割」研究における4つのサブテーマ「1.日本における医療観察法対象者に対する治療・評価・社会復帰支援」、「2.日本における司法精神医学・司法精神看護学教育の方向性」、「3.日本と欧米諸国と司法精神医療教育体制の違い」、「4.司法精神医療制度の国際比較」に沿って研究を進めており、現在は、司法精神看護学教育の確立に向けて、分担研究者らと共に活動を行っています。



図1.指定入院医療機関の整備状況
厚生労働省HPより

図2.医療観察法の仕組み
厚生労働省HPより

メッセージ

大学院での研究では、学生自身が関心を持っているテーマを大切に扱います。博士前期課程でしたら比較のどんなテーマでも対応可能です。博士後期課程の場合は、テーマと内容にオリジナリティが求められますので、取り組みたいテーマがありましたら、事前にご相談ください。

Profile

専門分野・研究分野
精神看護／メンタルヘルス／司法精神看護学
精神科身体合併症看護

研究分野
精神保健看護学

所属学会
日本司法精神医学会／日本看護科学学会
日本精神科看護協会／看護実践学会
日本看護研究学会／日本保健医療行動科学会

学歴・経歴

- 北里大学東病院 看護師

1997年 北里大学大学院 修士(看護学)
1999年 東京慈恵会医科大学 助教
2004年 東京医科歯科大学大学院 博士(看護学)
2006年 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 厚生労働技官 研究員
2009年 東京医科歯科大学大学院 准教授
2022年 石川県立看護大学 教授

論文
医療観察法にもとづく通院処遇対象者への訪問看護に関する研究動向と課題の検討, 日本精神科看護学術集会誌, 66(2)、143-147, 2024

書籍等出版物
美濃由紀子編著. これだけは知っておきたい『精神科の身体ケア技術』. 医学書院.

講演・口頭発表等

- 統合失調症患者を主人公とした映画の視聴が疾患・対象理解に及ぼす影響. 第50回日本看護研究学会学術集会, 175, 2024
- 感情という糸口から事例の真実に迫る包括的事例検討会- Well being の実現を援助する感性を磨こう-. 第38回日本保健医療行動科学会学術大会, 44, 2024

競争的資金等の研究課題

他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰支援における看護師の役割. / 「司法精神看護学」教育のカリキュラムの開発と多職種連携教育方法の検討. 文部科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤(C)

社会貢献活動

- 日本司法精神医学会 査読委員
- 国立精神・神経研究センター 精神保健研究所 客員研究員
- かほく市地域自立支援協議会 委員
- 能登半島地震・石川こころのケアセンター 相談員



地域・在宅・精神看護学講座

大江 真吾

准教授

Shingo Ohe

contact: ohe1111@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/shingooue>

研究キーワード

自閉スペクトラム障害／発達障害／農福連携／思春期のメンタルヘルス

自閉スペクトラム症の方の語りから、彼らが何を考え、何を感じているかを探る

研究の概要

わが国では、発達障害者支援法の施行により、発達障害者（児）に対して障害特性やライフステージに応じた支援が行われている。自閉スペクトラム症者に関する疫学については様々な先行研究があるが、国内外での調査では有病率が0.9～2.8%とされ、自閉スペクトラム症は決して稀な疾患ではなく、今後も社会全体で支援していくことが必要であることがわかる。自閉スペクトラム症者への支援には多職種が関わる。その中でも看護師は生活の支援から疾患理解、対処方法の確立など多岐に渡ってサポートしている。自閉スペクトラム症者がよりスムーズに社会参加し暮らせるように、彼らの語りから理解を深め、生活を支援し、就労へ繋ぎ、自閉スペクトラム症者が暮らしやすい社会を目指して研究を行っている。

研究の内容(大学院向け)

自閉スペクトラム症者が抱く看護師への思いはなにか、彼らのニーズはなにか、彼らの語りから解き明かす

入院中の自閉スペクトラム症者にインタビューを実施したところ、彼らは入院中の看護師からのケアを実感しながらも、看護師に存在を希薄に感じると語っていた。一方看護師は、自閉スペクトラム症者の自己肯定感を高めようとする関わりや認知面への働きかけを行うなど、熱心に看護ケアを実践していた。

ケアの実践は、特に精神科領域においては必ずしもケアの提供側と受け取る側のケアの必要性の認識の一致が行われない。しかしながら、コミュニケーション障害をもつ自閉スペクトラム症者には看護師との間で交わされる相互交流から得られる経験や認識、対人関係スキルの学びは、とても重要であると考え。今後は、様々な場面で起こる自閉スペクトラム症者と看護師の交流の中で自閉スペクトラム症者が何を感じ、考えているのか、それを受けて看護師はどのように看護実践を行っていくかを、自閉スペクトラム症者自身の語りから明らかにしていきたい。



図1.知的・発達障害者が使いやすい農業機械の開発に向けた調査の様子



図2. あおカフェの様子

メッセージ

看護はとても奥深いものです。その中でも精神看護では相手や自分自身の思いに関心を寄せ、理解しようとするところから始まります。たくさんの楽しいこと、大変なことを一緒に進んでいけたら良いなと思っています。

Profile

研究分野

精神看護学／児童思春期精神看護学

所属学会

日本看護科学学会／日本看護研究学会
日本精神保健看護学会／日本精神科看護協会
北陸公衆衛生学会／看護実践学会

学歴・経歴

- 金沢大学医薬保健学総合研究科 修士(看護学)
- 金沢大学医薬保健学総合研究科 博士(保健学)

論文

- 知的障害者および発達障害者の刈り取り機操作における走行方向補正システムの効果検証, 看護理工学会誌,12,161-172,2025
- Factors Associated with Worsening Post-Earthquake Psychiatric Symptoms in Patients Receiving Psychiatric Visiting Nurse Services During the 2024 Noto Peninsula Earthquake: A Retrospective Study,Psychiatry International,6(1),2025
- 農業機械操作時の知的障害者および発達障害者が抱く困難性と機械操作への思い北陸公衆衛生学会誌,50(2),11-22,2024

講演・口頭発表等

自閉スペクトラム障害患者の認識と看護師の意図の間に生じるズレとニーズをふまえた効果的な看護ケアの検討(第40回日本看護科学学会学術集会, 2020)

競争的資金等の研究課題

- 自閉スペクトラム症者への精神科訪問看護ケアに関する主観的・客観的データからの分析(代表)／科費費事業:2024-2026年度
- 障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発(分担／イノベーション創出強化研究推進事業:2022-2023年度)

社会貢献活動

- 石川県かほく市自殺対策推進委員会 委員長
- 発達障害児の保護者学習会「あおカフェ」講師



地域・在宅・精神看護学講座

高濱 圭子

助教

Keiko Takahama

contact: takahama@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

アルコール依存症／事例検討会

断酒継続し依存症から立ち直る方々の生きる力を探求して看護ケアに活かす

研究の概要

アルコールは人類の歴史始まって以来、あらゆる文化の中で使用されてきた。技術革新の進化によって豊かになり、大量生産・飲用が可能になるにつれてアルコール関連問題も多く発生し、我々を悩ませてきた。アルコール依存症は長期の大量飲酒によって、身体・精神的依存を形成し、身体的・社会的問題を引き起こす進行性の慢性疾患で、アルコール関連問題の中核である。わが国では2014年に「健康障害対策基本法」が成立し、予防から回復までの支援が包括され、回復には断酒継続が重要とされ、自助グループへの参加が推奨されている。アルコール依存症の回復を支援している世界規模の自助グループAA(Alcoholics Anonymous)は基本テキストとミーティングを中心に活動している。AAについては医療・福祉・社会・宗教といった広範囲の領域から関心が向けられ、研究がなされてきた。看護領域でも長期断酒継続者の回復過程に関する研究がみられるようになり、回復者たちが「発症から回復までの過程を振り返りながら様々な経験の意味付けを行っている」ことが報告されている。私はAAメンバーがどのように実践しその断酒体験を位置づけているのか、どのような意味を見出しているのかを明らかにすることを目的として質的研究を行っている。



AA発祥の地、アメリカ合衆国へ研修に行きました。アルコール依存症からの回復者が運営する施設です。左上(外観)、左下(ミーティングルーム)、右の写真の言葉はトルストイからの引用だとか…「人間っていいな」と思った瞬間でした。

メッセージ

私が研究に取り組むきっかけは糖尿病・アルコール依存症の患者さんとの出会いでした。どちらも自己管理(セルフケア)が肝要で、その回復と支援は簡単ではありません。しかし、回復した方の姿をみて、今、苦しんでいる患者さんにもこうなって欲しいと思いました。そして大学院進学、アルコール依存症から回復している方々と関わることになりました。分かったことは断酒の難しさや苦悩でした。しかし、楽しそうに生きる姿を見せられ、希望を持つことができました。現在、その過程・経験を理解して看護支援に活かすことを目指して研究しています。

Profile

研究分野

アルコール依存症／事例検討会

所属学会

日本精神保健看護学会／日本保健医療行動科学会
日本看護科学学会／日本精神科看護協会
日本質の心理学会

学歴・経歴

- 長崎大学病院(内科・外科)
- 東京医科歯科大学病院(精神科・内科)
- 東京アルコール医療総合センター

2005年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科精神保健看護学博士前期課程 修了

2015年 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科看護先進科学専攻精神保健看護学博士後期課程 入学(現在に至る)

書籍等出版物

- 宮本真巳, 安田美弥子編『アディクション看護』医学書院 2008年(糖尿病の章を担当)
- 美濃由紀子編著『精神科の身体ケア技術』医学書院 2008年(糖尿病の章を担当)
- 井上智子・窪田哲朗編『病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図』医学書院 2016年(物質・アルコール関連障害の看護を担当)

講演・口頭発表等

- 国内の看護学領域における統合医療に関する文献レビュー 患者を対象とした研究の効果・検証に焦点を当てて(示説:日本保健医療行動学会 2017年)
- 自助グループに参加するアルコール依存症者の回復過程 12ステップを実践している2事例の語りから(口頭発表:日本保健医療行動学会2018年)
- 看護学領域における事例検討会の効果と課題に関する文献の検討(第2報)デスカンファレンスを中心に(示説:日本看護科学学会2021年)

社会貢献活動

2003年から日本精神科看護協会の研修にファシリテーターとして貢献している。



共同研究講座 看護理工学

大貝 和裕 共同研究講座教授

Kazuhiro Ogai

contact: ogaikzhr@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/cosine_60

研究キーワード

看護理工学(bio-engineering nursing)／マイクロバイオー
ム褥瘡／人工知能(AI)

バイオからAIまで看護理工学に基づく、 高齢者を守る包括的ケアシステムの構築

研究の概要

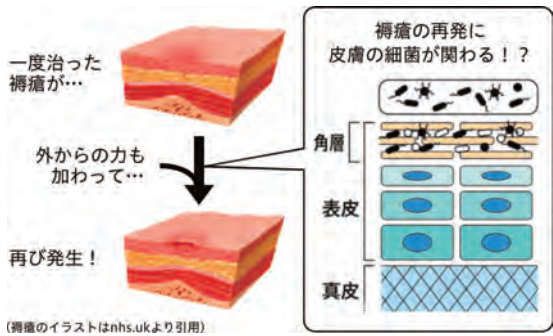
少子高齢化に伴い、社会保障のメインステージは病院から在宅にシフトされつつある。また、体調は悪い、だけど病院にはかからない、という高齢者が多くいると考えられる。2023年4月に新たに設立された「共同研究講座 看護理工学」では、上記のような問題を解決するために、病院や施設にいる方はもちろん、地域に住む高齢者が健康状態を自分で、いつでも、どこでも調べることできる技術の開発研究を行う。さらに、結果を早期発見やケアにつなげることを見据え、「高齢者を守る包括的ケアシステム」を確立する。

研究の内容(大学院向け)

マイクロバイオー(細菌のパターン)、スキンプロットینگ、 AIを駆使した皮膚・創傷ケア技術の開発

上記目的を達成するための基礎研究として、高齢者の皮膚マイクロバイオーの研究をすすめている。マイクロバイオーとは、対象となる部位(皮膚など)にどういった細菌がどのくらいの割合で存在するか、ということである。高齢者の中には褥瘡(床ずれ)を持つ方がいるが、褥瘡が治った後でも再び褥瘡が起こる場合がある。この褥瘡再発に、ある種の細菌が関与していることを研究によって明らかにした。この細菌を対象とした検出方法や“撃退”方法を開発できれば、褥瘡再発の早期発見や、褥瘡再発そのものを減らせるようになるかもしれない。

このほかにも共同研究として、スキンプロットینگという技術とAIを組み合わせて、採血せずに全身状態をチェックできる方法の開発(慢性脱水:峰松先生、栄養評価:長谷川先生)や、ベッドサイドで簡単に迅速にできるDNA 検査法をベースにした創部感染検査法などの基礎・応用研究を行っている。



メッセージ

看護理工学、というと難しく聞こえるかもしれませんが、自分のちょっとしたひらめきが新しい看護技術の開発につながり、高齢者が健康に長生きできる世の中をつくれるかもしれない…と考えたら、ちょっとワクワクしませんか。このワクワクを、石川県立看護大学と一緒に体感しましょう！

Profile

研究分野

看護理工学(bio-engineering nursing)
マイクロバイオー／褥瘡／人工知能(AI)

所属学会

看護理工学会／日本創傷治療学会
日本看護科学学会／日本褥瘡学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会 など

学歴・経歴

2008年 金沢大学医学部保健学科検査技術科学専攻 卒業
2013年 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程 修了 博士(保健学)
2013年 金沢大学健康増進科学センター 助教
2018年 金沢大学健康増進科学センター 准教授
2023年 石川県立看護大学共同研究講座看護理工学共同研究講座 教授

受賞

2020年 第8回看護理工学会学術集会 研究奨励賞
2021年 令和2年度保健学系優秀研究教員
2022年 令和3年度保健学系優秀研究教員
2023年 看護理工学会 学会賞

論文

- Shibata K, Ogai K*, Ogura K, et al. Skin Physiology and its Microbiome as Factors Associated with the Recurrence of Pressure Injuries. Biol Res Nurs . 2021 Jan; 23(1): 75-81. (*corresponding author)
- Ogai K, Matsumoto M, Aoki M, et al. Increased level of tumour necrosis factor-alpha (TNF- α) on the skin of Japanese obese males: measured by quantitative skin blotting. Int J Cosmet Sci . 2016 Oct; 38(5): 462-9.

講演・口頭発表等

- スキンプロットینگのさらなる応用-定量解析・網羅的解析に向けた検討- 第50回日本創傷治療学会
- A comparative study of skin bacterial communities in healthy-young individuals and bedridden-aged inpatients in japan. WUWHS 2016.

競争的資金等の研究課題

- 科研費基盤研究(B)「皮膚細菌・真菌叢に着目した失禁関連皮膚炎の新規リスクファクター探索と予防ケア開発」
- 科研費基盤研究(C)「網羅的スキンプロットینگ法による「褥瘡予測タンパク質」の探索と臨床応用」
- 科研費挑戦的研究(萌芽)「褥瘡再発を予防する「自己皮膚細菌叢コピー＆ペーストドレッシング材」の開発」

社会貢献活動

- 看護理工学会 評議員, 編集・広報・教育委員
- 日本創傷治療学会 評議員
- 金沢大学つま同窓会 会長



共同研究講座 看護理工学

長谷川 陽子 共同研究講座准教授

Yoko Hasegawa

contact: haseyoko@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/yoko.hasegawa>

研究キーワード

臨床栄養学／看護理工学

栄養学と看護理工学をビッグデータで融合し、 人々が健康で幸せに生きることを支える サイエンスを目指す

研究の概要

地域在住者が健康で長生きできる社会の実現を目指し、「栄養学」と「看護理工学」を融合させ、“痛くない、簡便で、リアルタイムな新たな健康管理システム”の開発を目指している。具体的には、スキンプロットینگという非侵襲的な生体検査法を用いて、地域在住者が自分で自身の健康状態や脱水、栄養状態を評価できるセルフモニタリングツールの開発と、それを活用した健康管理システムの構築に取り組んでいる。

研究の内容(大学院向け)

“痛くない、簡便で、リアルタイムな新たな健康管理システム”を 開発する

地域在住者の健康を守るためには適切な健康管理が必要である。さらに、高齢化や地方の過疎化が進む今日においては、地域在住者が自分で自分の健康管理をする“セルフケア”の概念が重要性を増している。従来、健康管理のためによく用いられてきた採血による血液検査は出血や痛みを伴うだけでなく、セルフケアの一環として自身で検査を行うことが困難であった。そこで我々は、スキンプロットینگ法という、皮膚にパッチテストのようなプロットینگメンブレンを貼付し、皮膚の間質液に含まれる生体指標を検出する生体検査法を用いて、誰もが簡便かつ非侵襲的に、健康状態や脱水、栄養状態などを評価することができ新しい生体検査ツールを開発に取り組んでいる。さらに、それを活用し適切な介入や疾病予測が可能となる健康管理システムの構築を目指して日々研究に取り組んでいる。



メッセージ

臨床で働く看護師さん以外にも、研究や教育現場で活躍する道もあります。県内だけでなく、県外や海外で活躍する道もあります。本学で皆さんの可能性が最大限発揮されるよう、全力でサポートします。ぜひ本学と一緒に学びましょう。

Profile

研究分野

臨床栄養学／看護理工学

所属学会

看護理工学会／日本臨床栄養代謝学会
日本病態栄養学会／日本糖尿病学会
日本創傷・オストミー・失禁管理学会
日本褥瘡学会／日本栄養改善学会 など

学歴・経歴

2006年 徳島大学医学部栄養学科 卒業
2008年 徳島大学大学院栄養生命科学教育部博士前期課程 修了(栄養学修士)
2010年 University of Pittsburgh, School of Health and Rehabilitation Sciences, Coordinated Master in Nutrition and Dietetics 修了(栄養学修士)
2017年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻博士課程 修了(保健学博士)
2022年 医療リアルワールドデータ活用人材育成事業一般履修コース 修了

受賞

2021年 Japan Digestive Week 2021 Best Presenter Award
2023年 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 学術論文症例研究賞
2024年 第24回北陸PEG・在宅栄養研究会 優秀賞

論文

- Nishioka S, Hasegawa Y. Addressing sarcopenia in people with disabilities: Definition, assessment and nutritional care. Medical Nutrition Matters. 44(1):2-10. 2024/10/1.
- Hasegawa Y*, Kato K*, Ogai K, Konya C, Minematsu T (*co-first authors). Need for a consensus definition of chronic dehydration: A scoping review. Drug discoveries & therapeutics. 18(2):75-79. 2024/6/6
- Kato K*, Hasegawa Y*, Ogai K, Konya C, Minematsu T (*co-first authors). Evaluation indicators for chronic dehydration: A scoping review. Journal of Nursing Science and Engineering. 11: 263-270. 2024/7/31

書籍等出版物

- 長谷川陽子「終末期における褥瘡と栄養管理」, 終末期の褥瘡,石澤美保子・玉井奈緒編集,真田弘美監修,p37-42,南山堂,東京,2025年
- 長谷川 陽子,須金 淳子:疾患における栄養療法:褥瘡、病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 改訂第8版,p283-287,南江堂,東京,2025年

競争的資金等の研究課題

スキンプロットینگ法を用いた非侵襲的栄養評価法の開発と在宅栄養管理への応用(科学研究費助成事業 若手研究 2023-2025年度)

社会貢献活動

2024年 「もしもに備えて今日から始める「食」と健康」,北國健康生きがい支援事業 令和6年度石川県立看護大学プログラム
2024年 「まだまだ間に合う!もっと増やそう!筋肉貯金!!～筋肉を増やす食事のコツ～」,かほく市地域公開講座



共同研究講座 ウェルビーイング看護学

松本 勝

共同研究講座教授

Masaru Matsumoto

contact: matumoto@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/masurumatsumoto>

研究キーワード

ロボティックチェア／ウェルビーイング／シーティング
遠隔支援／超音波検査(エコー)

センサ技術・ICTを活用したモニタリングやAIによる新たなロボティックホームケアの確立

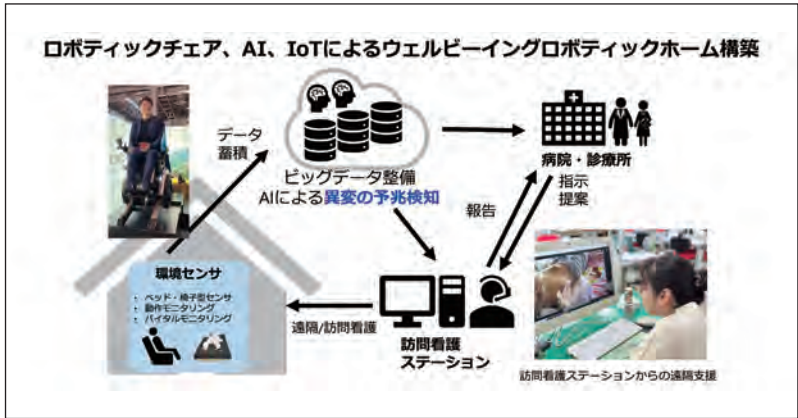
研究の概要

医療的ニーズを持ちながら在宅で療養する高齢者が、寝たきりや座りきりの問題を回避しつつ、安全で快適な生活を送るためには、センサー技術やICTを活用したモニタリング、および異常を早期発見するAIを組み込んだ新しいホームケアシステムの確立が不可欠です。そこで、共同研究講座ウェルビーイング看護学では、産学連携を通じて、在宅療養者の幸福寿命の延伸とウェルビーイングの実現に向けた医療機器・福祉用具の開発と社会実装に取り組んでいます。

研究の内容(大学院向け)

在宅高齢者の安全で快適な生活を実現する ロボティックホーム、遠隔看護システムの開発

在宅高齢者が安全かつ快適に長時間座位を維持できるよう、シーティング条件の検討と、座位時の身体状態を非拘束でモニタリングする手法の開発を行います。さらに、これらを活用した生活支援ロボティックチェアを開発します。また、それらを社会実装するために、ケアリコメンデーションシステムの構築、データベースの整備、遠隔看護システムの開発にも取り組みます。



メッセージ

看護理工学や産学連携、技術開発等に関心がある方、あるいはやりたいテーマは具体的になくても何か新しいことをやってみたいという方と一緒に研究ができればと思っています。年齢、性別、キャリアは問わず、一緒に研究できる学生を募集しています。

Profile

研究分野

ウェルビーイング看護学／看護理工学
創傷看護学／イメージング看護学

所属学会

看護理工学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本褥瘡学会／日本看護科学学会／日本在宅ケア学会／日本超音波医学会／日本老年看護学会／日本老年医学会／ウェルビーイング学会／看護実践学会 など

学歴・経歴

石川県かほく市出身
2014年 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了 博士(保健学)
2014年 金沢大学医薬保健研究域保健学系 助教
2019年 東京大学大学院医学系研究科 特任講師
2021年 石川県立看護大学 准教授
2024年 現職

受賞

2021年 日本看護科学学会学術論文賞 優秀賞
2022年 2021年度看護理工学会 奨励賞

論文

- 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証:対面教育・遠隔ライブ教育・VR オンデマンド教育の比較, 看護理工学会誌, 2024;12:1-9.
- Expert consensus document: diagnosis for chronic constipation with faecal retention in the rectum using ultrasonography. Diagnostics. 2022; 12(2):300.

書籍等出版物

松本勝, 河本敦夫, 野村岳志編:ポイントオブケア看護エコー:ポケットエコーで看護力アップ. 照林社, 東京, 2024.

講演・口頭発表等

- 産学連携 で“幸福寿命を延伸する”未来の看護への取り組み(ランチョンセミナー2). 社会実装を目指す新たな共同研究講座の取り組み. 第12回看護理工学会学術集会, 2024年11月3日.
- デジタルヘルスの未来に貢献する、看護ケアイノベーション(パネルディスカッション1). 看護理工学によるケアイノベーション:便秘エコーシステムの開発と遠隔支援. 第28回日本遠隔医療学会学術集会, 2024年11月9日.

競争的資金等の研究課題

- 科研費, 基盤研究 B, 令和7-10年度, 代表者, 生体情報遠隔モニタリングを活用した医療過疎地・僻地における訪問看護 DXの実装.
- 科研費, 挑戦的研究(萌芽) 令和6〜8年度, 代表者, 非拘束センシングによる椅座位での聴診音モニタリング手法と異音検知システムの開発.

社会貢献活動

石川県立看護大学令和6年度リカレント教育事業, 高齢者看護ケアに活かす、座位姿勢の整え方の基礎と実践を学ぼう!. 石川県立看護大学. 2024.12.22.



共同研究講座 ウェルビーイング看護学

幅 大二郎

共同研究講座講師

Daijiro Haba

contact: haba-d@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ <https://researchmap.jp/haba1021>

研究キーワード

ウェルビーイング／ロボティックチェア／看護理工学
理学療法学／低周波振動

看護理工学と理学療法学を融合し、幸福寿命の延伸を目指したロボティックチェアの開発

研究の概要

在宅で療養する高齢者は日中車椅子に移乗して寝たきを予防していますが、本来は「移動手段」の車椅子であるため長時間の座位は姿勢を崩して嚥下が困難になり、さらに褥瘡や下腿浮腫を引き起こすといった問題があります。本共同研究講座ではこの「移動手段」の車椅子を食事や排泄、褥瘡や浮腫予防などトータルで生活を支援する「生活の場に適した」車椅子に進化させることで、在宅療養者の幸福寿命の延伸を目指します。

研究の内容(大学院向け)

幸福寿命を延伸するロボティックチェアの開発



図1.日中車椅子に移乗するがウェルビーイングの実現には至っていない(一般社団法人オーディナリーライフ提供)



図2.トータルで生活を支援し、高齢の療養者が在宅で最期まで尊厳をもって自立できるロボティックチェアの開発

メッセージ

看護師に限らず、理学療法士やそのほか様々な分野のメンバーで研究に取り組んでいます。既存の概念にとらわれず、なにか新しいことをやってみたいという方と一緒に研究ができればと思っています。

Profile

研究分野

看護理工学／創傷看護学／理学療法学

所属学会

日本理学療法士協会／日本物理療学会／看護理工学会／日本創傷・オストミー・失禁管理学会／日本褥瘡学会／日本創傷治癒学会

学歴・経歴

2015年 神戸大学医学部保健学科学理学療法学専攻 卒業
2023年 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻 創傷看護学分野博士課程修了 博士(保健学)
2023年 東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター 特任研究員
2024年 石川県立看護大学共同研究講座ウェルビーイング看護学 共同研究講座講師

受賞

2022年 第52回日本創傷治癒学会 研究奨励賞
2022年 日本基礎理学療学会第6回若手研究者ネットワークシンポジウム データ解析賞
2022年 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 優秀演題賞 英語セッション

論文

- Efficacy of wearable vibration dressings on full-thickness wound healing in a hyperglycemic rat model. Wound Repair and Regen. 2023;31:816-826.
- Local low-frequency vibration accelerates healing of full-thickness wounds in a hyperglycemic rat model. Journal of Diabetes Investigation. 2023;14:1356-1367.

講演・口頭発表等

- 幅大二郎, 仲上豪二郎, 真田弘美. シンポジウム2(日本リハビリテーション医学会合同企画)リハビリテーション専門職者の褥瘡ケアへの関わり. 局所低周波振動刺激による難治性創傷治癒促進の新戦略と将来展望. 第26回日本褥瘡学会学術集会 (2024.9.6).
- Development of an intelligent vibrational dressing to promote healing of diabetic foot ulcers. The Wound Meeting 2024 Seoul (2024.3.22)
- 高血糖ラットモデル全層欠損創への局所低周波振動刺激による細胞老化抑制効果の検証. 第53回日本創傷治癒学会 (2023.11.21)

競争的資金等の研究課題

- 科研費, 若手研究, 令和7-8年度, 車椅子座位高齢療養者への局所低周波振動刺激による下腿慢性浮腫セルフケア方法の確立
- 科研費, 研究活動スタート支援, 令和5〜6年度, 局所低周波振動刺激による難治性創傷での老化細胞除去促進メカニズムの解明
- 科研費, 特別研究員奨励費, 令和2〜4年度, 糖尿病足潰瘍の治癒を促進するインテリジェントバイプレッションドレッシング材の開発



石川県寄附講座 災害実践看護学

木田 亮平 教授

Ryohei Kida
contact: rkida@ishikawa-nu.ac.jp

リサーチマップ ▶ https://researchmap.jp/ryohei_kida

研究キーワード

災害看護／防災教育／組織マネジメント／ソーシャル・キャピタル
持続的な看護提供体制／地理情報システム

災害時に国民を守る 看護提供体制・組織システムを探求する

研究の概要

災害が多発する日本において、持続的に医療サービスを提供し国民の健康・生活をまもるためには、災害に強い看護提供体制やシステムの構築がカギとなる。災害サイクル(準備期、超急性期、急性期、慢性期・復興期)において重要な役割を担う看護職のチカラが最大限発揮され、国民の健康・生活をまもるための看護提供体制やシステムづくりについて探求している。

研究の内容(大学院向け)

地理情報や量的データを活用して、 災害に強い看護提供体制・システムづくりを提案する

持続的な看護提供体制、特に災害時の体制づくりには「場所」というマクロな視点が非常に重要である。場所に関する様々な情報(地理情報)と看護・保健医療に関する情報を組み合わせて、災害に強い看護提供体制やシステムの在り方、体制づくりに関する研究を行っている。また、各医療機関等の災害・防災に対する組織マネジメントに関する定量的・定性的研究も専門としている。



図1.種々の情報を組み合わせて作成した石川県地域医療・防災マップ(β版)のアプリ画面(浸水場所を避けた避難所から薬局までの距離を推計している例)



図2.石川県における500mメッシュごとの高齢化率と医療機関・訪問看護ステーションの位置関係

メッセージ

さまざまなデータを活用し、地域医療や災害・防災情報等を組み合わせ可視化し分析することを重視しています。「災害で生じる健康問題や悲しみを少しでも減らせる社会をつくる」という夢を一緒に叶えてくれる仲間を募集しています！

Profile

研究分野

看護提供体制／看護施策・看護政策／看護管理学
組織心理学／災害看護

所属学会

日本看護管理学会／日本看護科学学会／日本医療・病院管理学会／産業・組織心理学会／看護実践学会／日本看護評価学会／地理情報システム学会

学歴・経歴

- 2011年 首都大学東京(現・東京立大学)健康福祉学部看護学科 卒業
- 2018年 東京大学大学院医学系研究科看護管理学／看護体系・機能学分野 特任助教
- 2020年 東京大学大学院医学系研究科看護管理学／看護体系・機能学分野 助教
- 2021年 東京医科歯科大学(現・東京科学大学)大学院保健衛生学研究科博士課程修了 博士(看護学)
- 2024年 石川県立看護大学 准教授
- 2025年 石川県立看護大学寄附講座「災害実践看護学」教授

論文

- Relationship between shift assignment, organizational justice, and turnover intention: A cross-sectional survey of Japanese shift-work nurses in hospital. Japan Journal of Nursing Science. 21(1):e12570. 2023.
- Nursing management for temporary lodging facilities in Japan in the early stages of the COVID-19 pandemic: A multiple-case study. 20(1):e12507. 2023.
- Working conditions and fatigue in Japanese shift work nurses: A cross-sectional survey. Asian Nursing Research. 16(2):80-86. 2022.
- The association between workplace social capital and authentic leadership, structural empowerment, and forms of communication as antecedent factors in hospital nurses: A cross - sectional multilevel approach. Journal of Nursing Management. 29(3):508-517. 2021.
- 全国の認定看護管理者所属施設の分布及び所属と関連する二次医療圏・施設特性 - 地理情報システムを用いたオープンデータ分析 -. 日本看護科学学会誌. 43:305-314. 2023. など

講演・口頭発表等

- 就業継続可能な働き方の現状と課題. 令和6年度赤十字医療施設東部ブロック看護部長会公演. 2024.
- 施設における認定看護管理者の有無と病棟の看護師充足度および在宅復帰率との関連. 第28回日本看護管理学会学術集会. 2024.
- ポスト・コロナに向けた看護職の労働環境 およびワークライフバランスにおける研究動向. 第77回日本臨床眼科学会. 2023年. など

競争的資金等の研究課題

2022～2024年度. 科学研究費助成事業若手研究「専門的教育を受けた看護管理者の配置と患者アウトカムとの関連の検証(研究代表者)」

社会貢献活動

日本医療・病院管理学会 認定フェロー, 事業委員, 若手会員の会世話人.



石川県寄附講座 災害実践看護学

窪田 直美 講師

Naomi Kubota
contact: nkubotan@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

災害／避難生活／生活環境／災害トイレ

災害時の避難生活における生活環境の向上を目指す研究(災害トイレの整備)

研究の概要

災害発生後の避難生活において、ライフライン停止による災害トイレ問題は健康障害に直結する。現在「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」があるが、要介護高齢者施設での災害トイレの整備は十分でない。能登半島地震を経験した要介護高齢者施設の看護職等が災害超急性期に「どのように工夫して災害トイレ対応をしたか」「より良く対応するための課題は何か」について実態を明らかにしたい。その結果より、全国の要介護高齢者施設における災害トイレの備えの実態を明らかにし、大きな災害の備えの一助としたい。

メッセージ

病院等で30年以上看護師として、さらに災害看護専門看護師(2017年取得)として地域防災、病院防災、防災教育など活動して参りました。今後は、災害実践看護学の知見を集積できるように研究活動を進めたいと思います。

Profile

研究分野

災害発生後における避難生活での環境整備
排泄環境の整備／災害トイレの備蓄と普及

所属学会

日本災害看護学会／日本災害医学会／日本高度実践看護学会／看護実践学会／トイレ研究会

学歴・経歴

- 1989年 東京都立公衆衛生看護専門学校 卒業
- 1989年 東京都立広尾病院を経て
- 2010年 福井県立大学大学院看護福祉学部看護学科修士課程看護学専攻(基礎看護)修了(修士 看護学)
- 2012年 日本DMAT(現在更新なし)
- 2016年 福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻災害看護専門看護師教育課程 修了(修士 看護学)
- 2017年 災害看護専門看護師 取得(2022年更新)
- 2025年 石川県立看護大学 石川県寄附講座 災害実践看護学講座 講師

論文

手術体位の保持に伴うストレスに対するアロマセラピーの効果:2011, 第41回日本看護学会学術集会 論文集, 成人看護 I, ISSN 1347-8192, pp289-292.

書籍等出版物

変化を乗り切る判断・決断・行動力を!看護部長通信 新・実践情報誌[隔月刊]2022年8月9月号, 特集2「過去の教訓を生かし、危機的状況でも機能を止めない 災害に強い組織づくりと看護管理の実践」本人担当分:p72～p81(10ページ分), Web10月11月、12月1月、2月3月にて連載, 2022年8月, 日総研出版 看護部長通信

講演・口頭発表等

- 2016年8月 「東日本大震災の応急仮設住宅で暮らす独居高齢被災者の社会とのつながりに関する研究」日本災害看護学会第18回年次大会
- 2022年3月 第2類感染症指定病院かつ地域災害拠点病院におけるCOVID19禍での地震災害発生を想定した図上訓練からの課題, 第27回災害医学会総会学術集会
- 2025年3月 A災害拠点病院における地震災害を想定した机上訓練による電子カルテ機能停止の課題, 第30回日本災害医学会総会学術集会

社会貢献活動

- 2019年3月～ 鯖江市にて減災ナースにて委嘱、鯖江市消防団機能別分団:医療班(現在)
- 2019年7月～ 日本災害看護学会 ネットワーク活動委員会(現在)



石川県寄附講座 災害実践看護学

登谷 美知子 講師

Michiko Toya

contact: toyam092@ishikawa-nu.ac.jp

研究キーワード

介護施設／災害時受け入れ／事前準備

介護施設における災害時受け入れ事前準備に関する実態調査

研究の概要

災害が発生した場合、介護施設は特に配慮を要する被災した高齢者を受け入れ、避難生活中における生活機能の低下等の防止を図る等その役割は重要である。しかし受け入れについては、福祉支援体制の強化に関するガイドラインや運営に関する準備・連携への提案など記されたものがほとんどであり、具体的かつ実用的な事前準備については示されていない。そこで今回、令和6年能登半島地震発生後に被災地外の介護施設の被災者受け入れについて実態調査を行いどのような準備が必要であったかを明らかにする。

Profile

研究分野

災害実践看護学／災害時の受援
災害時の受け入れシステム
災害時の看護管理者に関する事

所属学会

日本災害看護学会／日本看護管理学会
看護実践学会

学歴・経歴

2017年 福井大学大学院医学系研究科看護学専攻 災害看護専門看護師教育課程修学
2020年 福井大学大学院医学系研究科看護学修士課程 修了(災害看護学領域)
2020年 災害看護専門看護師 取得
2025年 石川県立看護大学 石川県寄附講座 災害実践看護学講座 講師

論文

2016年熊本地震の災害中長期に受援を行った病院に勤務する看護管理者の思いと活動の実際(投稿中)

書籍等出版物

- 災害派遣シミュレーションQ&A(共著:日本看護協会出版会)
- 看護職員の惨事ストレスとケア-災害・暴力から心を守る-(共著:朝倉書店)
- 主任・看護style 管理・リーダーシップと育成(共著:日総研)
- 令和7年版看護白書(共著:日本看護協会出版、投稿中)

講演・口頭発表等

- 2016年熊本地震発生後の災害中長期に受援を行った病院に勤務する看護管理者の思いと活動の実際 第24回日本看護管理学会学術集会, 2020年8月
- 効果的な受援への準備 ～平時の備えを考える～日本災害看護学会第23回年次大会, 特別講演, 2021年9月
- 災害拠点病院看護部が取り組む防災対策と評価, 第12回日本看護評価学会, シンポジスト, 2022年9月
- R6年能登半島地震における急性期の避難所支援活動, 日本災害看護学会第26回年次大会, シンポジスト, 2024年9月

社会貢献活動

2007年 中越沖地震 救護班避難所支援活動
2011年 東日本大震災 花巻空港 SCU 活動、知的障害者施設支援
2016年 熊本地震 DMAT 活動、避難所・病院支援
2018年 平成30年7月西日本豪雨災害 病院・福祉避難所支援
2023年 令和5年奥能登地震 在宅避難者支援
2024年 令和6年能登半島地震 避難所・在宅避難者、応急仮設住宅支援
2010年～2024年 石川県看護協会 災害支援ナース育成事業参画
2019年～2021年 日本災害看護学会 広報委員会

メッセージ

2025年4月より、石川県寄附講座 災害実践看護学講座が開設され講師として着任いたしました。これまで、現場での実践活動を主体としており研究としての経歴は乏しいですが、実践で得た経験・知識・技術を活かし災害に強い看護師の育成を目指し頑張っていきたいと思います。

研究シーズ集

Research SEEDS

研究テーマ	歳をとるのも悪くないなと思える 看護技術に必要なシステムやものづくり	真田 弘美 [P.08] 研究キーワード・看護のものづくり／DX／傷(キズ)
看護学は、毎日進化しています。これからの少子超高齢社会で対象となる方々のキーパーソンです。人生100歳に向けて、個々が自分で生きる術をつくります。病院で、在宅で、施設で、どこで暮らしても幸福寿命が達せられるように、無いなら創るを基本に、他分野(理工)の先生方や企業とともに「歳をとるのも悪くないな」という社会にすることが夢です。東京2020パラリンピックで銀メダルをとった車いすバスケットチームの褥瘡予防ケアを東大時に一任されていました。		
研究テーマ	身体活動を促進する行動科学および 社会的支援アプローチの効果	垣花 涉 [P.09] 研究キーワード・運動／コミュニティ・エンパワメント／アクションリサーチ
「地域を基盤とした参加型研究によるコミュニティ・エンパワメントの構築は、高齢者の健康を維持・増進させる」という仮説検証型の研究を行っている。研究者と高齢者が協働して地域健康づくりを作り上げる介入プロセスを、トライアンギュレーション法を用いて質的に分析する。併せて、介入に伴う高齢者の体組成および体力の変化を対照群のそれと比較する。量的・質的分析により、コミュニティ・エンパワメントの構築が高齢者の健康を維持・増進させる根拠を明らかにする。		
研究テーマ	看護学生を能動的な学習へ導く 双方向型授業の構築	垣花 涉 [P.09] 石川 倫子 [P.20] 瀬戸 清華 [P.24] 研究キーワード・探究／双方向型授業／コミュニケーション
私たちは、コロナ禍での遠隔授業の経験から、学生を能動的な学習へ動機づける教師－学生間、または学生同士のコミュニケーションの重要性を見出している。そのため、授業では自明の答えのない問題について、学生自身がみずから答えを模索する「探究学習」を推進している。学生は、「問いを立てる・しらべる・読む・集めた情報を分析する・議論する・論理を組み立てる・書く・発表する」一連の学問の思考様式を体験する。併せて、言葉により人間関係をつくり、自分の意思を伝え、他者の意思を理解することを学ぶ。		
研究テーマ	西田幾多郎における自由概念の研究	中嶋 優太 [P.10] 研究キーワード・西田幾多郎／自由／自律／人格／新資料／翻刻／徳倫理
個人の自由な意志決定は、生命倫理学の自律尊重原則にも見られるように現代社会においてますます重視されるようになってきた一方で、自由な選択を迫られる場面が増えるとともに自由であることが必ずしも幸福であると感じられなくなってきた。本研究では、日本を代表する哲学者、西田幾多郎の独創的な自由論を手がかりに自由とはなにかを問い直すことで、現代社会に於ける自由をめぐる諸問題を考えるために新たな視点を提供する。		
研究テーマ	AI・機械学習を活用したデータ駆動型な 探索的問題解決シーズの創出	松田 幸久 [P.11] 研究キーワード・AI／機械学習／データ駆動型／コンサルテーション
本シーズは、1：AIや機械学習をよく知りたい方、2：業務に導入しようとしている企業、3：それらを用いた事業を展開している企業に対するコンサルテーションや研修会での講師を行うサービスである。		
研究テーマ	ストレス・マネジメント、対人関係論、 コミュニケーションスキルなどについて の心理学的コンサルテーション	松田 幸久 [P.11] 研究キーワード・ストレス・マネジメント／交流分析／第一印象
本シーズは、以下のテーマについて企業や団体に対する講義や研修を行うサービスである。1：ストレス社会におけるストレスをコントロールする方法や考え方、2：対人関係の理論と日常の社会で応用できる交流分析、3：第一印象の形成を含めたコミュニケーションスキルなどの理論と実践		
研究テーマ	・心拍変動(Heart Rate Variability)測定 およびその解析技術 ・体幹加速度分析による歩行動作解析	小林 宏光 [P.12] 研究キーワード・心拍変動／自律神経／歩行／森林浴
心拍変動は自律神経活動の指標として様々な領域で活用されています。特に近年では実験室的な研究だけではなく実際の生活環境での研究や一般向けの健康づくりなどにおける活用も進んでいます。この心拍変動測定に関する基礎的な研究に加え 1、2) この測定を用いた自然環境、森林環境が与える治療的効果の研究 3、4) も行ってきました。また体幹の加速度測定による歩行動作解析 5) の研究も進めています。侵襲なく歩行機能が測定できることから特に近年注目されている技術です。		

研究テーマ	15世紀イングランドの写本文化における 英語教訓詩受容の実態	工藤 義信 [P.13] 研究キーワード・後期中世英文学／教訓詩／写本研究
15世紀イングランドで創作された英語教訓詩、ピーター・イドリー作『息子への教え』の現存写本10点それぞれを詳しく調査し、ひとつの詩作品が多様な仕方で編纂され、多様な文脈で読み親しまれていた実態を明らかにする研究を行っています。詩のテキストの改変・削除・追加とその経緯・意図、同じ写本の中に一緒に編纂されている他の作品や、それらの作品とともに収録されていることの意味、読者の社会階層の多様化を扱っています。		
研究テーマ	MRゴーグルを用いた輸液ポンプの輸液 管理演習における教育効果の検証	佐能 唯 [P.14] 研究キーワード・歩行解析／転倒リスク評価／医療工学
Mixed Reality(MR)ゴーグルを用い、輸液ポンプの輸液管理方法を自主練習することで従来の方法と比べ、教育的な影響を検証する。 (小児看護学とのコラボレーション)		
研究テーマ	時計遺伝子を制御する機能的分子を 見つける	平居 貴生 [P.15] 研究キーワード・分子薬理学／時間生物学／骨代謝学
体内リズムと病気の関連について興味を持って研究を続けています。体内リズムを制御する時計遺伝子の新しい役割を見つけること、それらをコントロールするような機能分子を見出すことで多くの病気の予防や治療に貢献できるのではないかと考えています。		
研究テーマ	若者のHPV関連疾患予防に 関する研究	今井 美和 [P.16] 亀田 幸枝 [P.26] 研究キーワード・HPV(ヒトパピローマウイルス)／ワクチン HPV関連疾患／子宮頸がん／プレコンセプションケア
日本の高校までの包括的性教育のレベルは国際標準から大きく遅れており、子宮頸がんなどのHPV関連疾患の予防について学ぶ機会はほとんどありません。このため、高校卒業後の18歳以上の若者に対するプレコンセプションケアが不可欠になっています。同時に、思春期の子どもを持つ保護者もその重要性を理解する必要があります。このような状況を改善するため、本学では同世代のピア(仲間)である大学生や大学院生が協力し、HPV関連疾患予防啓発プログラムの開発に取り組んでいます。 注)包括的性教育:世界の性教育の指標である国際セクシャリティ教育ガイダンスの内容を取り入れた教育 プレコンセプションケア:生殖可能年齢にあるすべての人々の健康の保持および増進		
研究テーマ	生殖機能の中枢制御機構に関する研究	市丸 徹 [P.17] 研究キーワード・性周期調節／視床下部／電気生理学 多ニューロン発射活動
生殖に関わる行動的・生理的变化は直接的には性ホルモンに調節されますが、その性ホルモンの分泌調節はHPG axisという視床下部を頂点とした上位ホルモンによる調節系で制御されています。本研究ではラットを用いて、生殖機能の中枢と想定される視床下部GnRHパルスジェネレーターの電気活動を、留置電極により多ニューロン発射活動(MUA)として記録・解析するシステムの開発を目指しています。		
研究テーマ	重症筋無力症の新規病態： 免疫チェックポイント分子と 補体制御因子および治療への発展	岩佐 和夫 [P.18] 研究キーワード・神経免疫学／重症筋無力症／骨格筋／補体制御因子 免疫チェックポイント因子
重症筋無力症の基本的な病態は自己抗体による神経筋接合部のシナプス後膜(骨格筋)の障害である。重症筋無力症ではシナプス後膜の障害に加え、骨格筋においても特異的な反応が生じていることが明らかになってきている。この骨格筋における反応は重症筋無力症の新たな病態理解に結びつくだけでなく、治療にも役立つ可能性がある。		

研究テーマ	・地域の出生力に関する研究 ・環境汚染物質の脳神経系・内分泌系への影響 ・必須微量元素の生態学的意義に関する研究	今井 秀樹 [P.19] 研究キーワード・fertility／environmental chemicals essential trace elements
環境因子(おもに化学物質)の脳－神経系あるいは内分泌系への影響の研究(近年は複合汚染に注目している)。栄養素(必須微量元素など)の生態学的意義に関する研究。地域の出生力に関する研究。		
研究テーマ	診療看護師(NP)による 患者・家族の症状マネジメント力を 高める教育支援モデルの開発	石川 倫子 [P.20] 寺井 梨恵子 [P.21] 田村 幸恵 [P.22] 瀬戸 清華 [P.24] 千田 明日香 [P.25] 研究キーワード・診療看護師(NP)／症状マネジメント／在宅療養移行支援
患者・家族が在宅療養生活を継続するためには、当事者である患者・家族の症状マネジメント力の向上が重要であり、患者の病態と生活から包括的に症状マネジメントできる診療看護師(NP)の介入が求められる。そこで本研究では、在宅療養生活を継続するために、診療看護師(NP)が患者・家族の療養生活で得た自助力を活かし、患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発を試みる。		
研究テーマ	転倒リスク場面における看護師の 臨床判断能力と眼球運動との関連	寺井 梨恵子 [P.21] 研究キーワード・転倒／看護師／看護学生／臨床判断／視線解析／観察
医療事故のうち転倒・転落は療養上の世話の中で最も多い。一般的に、転倒リスクアセスメントツールが用いられているが、実際には五感を使った判断や行動が先行している現状が明らかになっている。五感のうち、視覚は87%を占めており、看護師は視覚情報を用いて臨床判断を繰り返している。現在は、転倒リスク場面における看護師の臨床判断能力や場面の違いによる眼球運動との関連を明らかにすることを目的として研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	在宅療養患者への 看護師による携帯エコーを使用した 心不全評価の臨床的意義	田村 幸恵 [P.22] 研究キーワード・慢性心不全／携帯エコー／看護師／在宅
高齢化に伴い急増している慢性心不全は、増悪と寛解を繰り返すことで心機能が低下し、生活の質と生命予後を悪化させる。再入院率は非常に高く、患者数増加に伴う高額な医療費も問題となっている。慢性心不全患者への看護師の役割は、問診と身体所見観察、および日常生活指導による心不全の増悪予防と早期発見であるが、現状の予防対策では十分とは言えない。そこで、在宅療養する慢性心不全患者の身体所見観察に、看護師が携帯エコーを用いることに着眼した。看護師の身体所見観察に携帯エコーによる客観的指標を追加できれば、心不全増悪の早期発見が容易となり、在宅で療養する心不全患者の再入院率低下とADL維持に大きく貢献できると考える。		
研究テーマ	ケア技術の質向上、患者さんにとって より安全・安楽なケア方法の考案を目指す	石井 和美 [P.23] 研究キーワード・看護技術／看護教育／清潔ケア
清潔は人間の基本的欲求であり、日々の生活の中で当たり前に行っている生活行動の1つである。しかし、病気や手術など何らかの理由によって、自分で清潔を保持できなくなった場合は他者に清潔行動を委ねることになる。ケア実施者はその人に代わって、より安全で安楽で効果的な(質の高い)ケアを提供し、その人の清潔のニーズ(欲求)を満たす必要がある。近年では様々なケア用品が開発され、ケアを実施する場や人も多様になっており、このような現状においてもより質の高いケア技術を患者に提供するためには常にケア技術のエビデンスを検証し続ける必要がある。清潔ケアでは「洗う」、「拭く」といった基本的な技術がある。このような基本技術に着目し、誰がいつどのような場で何を用いても同じケアが提供できるよう、ケア技術の検討を行っている。		
研究テーマ	稀少・難治性疾患を生きる当事者視点の ピアサポートの支援プログラム	瀬戸 清華 [P.24] 研究キーワード・筋萎縮性側索硬化症／ピアサポート／当事者間プログラム／支援
筋萎縮性側索硬化症の患者が自助や互助の力を高めるためには、当事者同士のピアサポートの様相に基づく支援プログラムが重要である。希少性・難治性・進行性を生きる患者は、患者交流の場においてどのようなピアサポートを成しているのか。当事者間に広がる世界に近づき、社会参加につながる真の支援を形にすることを目標に、研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	看護管理職がCOVID-19患者専用病棟 開設時に配置する看護師を選出する 基準および配置後の評価の実態	千田 明日香 [P.25] 研究キーワード・新型コロナウイルス感染症患者専用病棟／看護管理者 看護師／配置転換
2020年1月以降新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)のパンデミックに対応するために、全国の大規模病院はCOVID-19重点医療機関に指定されCOVID-19患者専用病棟が開設された。その際、看護部長などの看護管理職はCOVID-19患者専用病棟に看護師を配置転換し、加えて他部署から応援要員として看護師を派遣した。本研究はCOVID-19患者の増加という緊急事態の中で、看護管理職がCOVID-19患者専用病棟に配置転換するまたは応援要員として派遣する看護師の選出基準と配置後の評価内容について明らかにした。		
研究テーマ	性成熟期の男女へのプレコンセプションケア (生殖可能年齢にあるすべての人々の健康の保持および増進) に関する研究	亀田 幸枝 [P.26] 今井 美和 [P.16] 研究キーワード・妊娠前／健康教育／プレコンセプションケア プログラム開発
プレコンセプションケアは、妊娠前の適切な時期に適切な知識・情報を女性やカップルを対象に提供し、将来の妊娠のためのヘルスクエアを行うことです。取り組むべき領域は栄養状態、不妊、ワクチンで予防できる疾患、性感染症、若年妊娠や望まない妊娠、喫煙など多岐にわたります。ヘルスリテラシーを高めることで妊娠前の女性やカップルの健康状態を改善することが可能となります。その結果、より安全で安心な妊娠・出産が可能となり、結婚、妊娠、出産、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを描けるようになります。しかし、このような情報を知る機会ほとんどありません。そのため、プレコンセプションケアに関する啓発プログラム開発を目指しています。		
研究テーマ	周産期の死(流産・死産・新生児死亡)を 経験した母親・家族を社会全体で支える システム開発に関する研究	米田 昌代 [P.27] 研究キーワード・周産期喪失／流産／死産／新生児死亡／グリーフケア セルフヘルプグループ／連携システム／オンラインシステム
周産期喪失は、通常は喜びにあふれた妊娠・出産の中で起こる突然の出来事であり、母親にとって深い傷を負う体験となる。このような体験は、悲嘆が複雑化しやすく、様々な健康障害を生じたり、残されたきょうだいに対する不適当な養育につながる事が明らかになっている。このようなことから、周産期喪失時にグリーフケアは重要である。本研究では多職種、セルフヘルプグループが連携してその対象にあったグリーフケアを提供できるように、また、対象自らが選択できるような施設から地域へのシステム作りをめざしている。		
研究テーマ	神経管閉鎖不全の発生リスク 低減のための葉酸サプリメント摂取に 関する女性の認識	曾山 小織 [P.28] 研究キーワード・神経管閉鎖障害／葉酸サプリメント プレコンセプションケア／ヘルスリテラシー／保健行動
神経管閉鎖障害(Neural tube defects:NTDs)は二分脊椎を含む脊髄髄膜瘤、脳瘤、及び無脳症等の先天異常です。女性が妊娠する1か月以上前から葉酸を補足することで発生リスクが低減すると言われています。日本では葉酸サプリメントの摂取が推奨されて20年以上経過しましたが、妊娠前の葉酸サプリメントの摂取率は低率であり、NTDsも減少していません。妊娠前の葉酸サプリメント摂取率を向上するための研究を行っています。		
研究テーマ	AYA世代がんサバイバーの セクシュアリティに関する支援、 母乳育児支援	桶作 梢 [P.29] 研究キーワード・AYA世代／セクシュアリティ／がん／母乳育児
AYA世代(Adolescent and Young Adult:思春期・若年成人)とは15歳から39歳までの若い世代を指す言葉である。この時期に多くの人は進学や就職、パートナーとの交際や結婚、妊娠・出産などのライフイベントを経験する。AYA世代でがんに罹患すると、がん治療および治療による後遺症により外見や性機能・生殖機能に影響を与える場合がある。このことは医療の発展によりがん患者の5年生存率が向上しており、AYA世代がん患者は治療後の長い人生をいかに自分らしく生きてゆくかを模索する状況において重要な課題である。この課題について、様々な治療段階にあるAYA世代がん患者や周産期にあるAYA世代がん患者のセクシュアリティ支援の方法や支援体制構築に関する研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	膀胱底の位置の縦断的計測による 妊産褥婦の尿失禁リスク予測のための 指標の探索	河合 美佳 [P.30] 研究キーワード・尿失禁／膀胱／妊産褥婦
女性の尿失禁は妊娠や出産が契機となり発症することが多く、加齢とともに増加し、尿失禁がQOLに影響するという点では妊娠や出産に関わる看護者は女性の生涯を通して考えなくてはならない問題である。産後に尿失禁が起こる原因としては、骨盤底筋群の弛緩により膀胱が下降することや、妊娠中に子宮と癒着した膀胱が産後の子宮復古とともに下降するためと考えられていることから、膀胱底の位置と骨盤底筋群の筋力の変化を縦断的に測定し尿失禁との関連を検証することを検討している。		
研究テーマ	妊婦歯科健診の受診率向上を 目指した取り組み	野沢 ゆり乃 [P.31] 研究キーワード・妊産婦／妊婦歯科健診／育児不安
近年、口腔の健康が全身の健康に密接に関係していることが明らかとなっている。周産期においても口腔内からの感染・慢性炎症巣としての歯周病が早産や低出生体重児出産などを引き起こす可能性があるという報告があり、妊婦歯科健診受診率向上を目指した支援方法を見出すための研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	家族のレジリエンスを高め、 愛着形成と修復を支援する	戸部 浩美 [P.32] 研究キーワード・虐待／マルトリートメント／家族／レジリエンス／愛着 養育態度／感情調整／マインドフルネス／認知行動療法
子どもが幼少期に養育者との間に築く安定して安心が得られる関係性＝愛着は、その後の人格形成の土台となり、生涯にわたって個人、また家族や社会のウェルビーイングに大きな影響を与える。世代間伝達の影響、身体・精神的疾患、貧困、不登校、発達障害など、様々な要因で愛着形成がうまくいかない場合も多いため、愛着形成不全の予防や修復のために周囲の支援が不可欠である。人生に起こるストレスや危機にあっても立ち直る力＝レジリエンスを高めるために、認知行動療法やマインドフルネスを用いた教育や訓練による支援を行っている。		
研究テーマ	親になる前から始める 子ども虐待予防支援プログラムの開発	千原 裕香 [P.33] 研究キーワード・子ども虐待予防／親になること／子育て 次世代育成教育／DX(Digital Transformation)
子ども虐待・不適切な養育は子どもの発達に広範囲で深刻な衝撃を及ぼすことが明らかとなっており、発生の未然防止が極めて重要である。様々な社会の変化により子どもと関わる機会が少なくなり、「親になること」について考えたり、子育てについて学んだりする機会がないまま親になり、育児不安や不適切な養育につながってしまうことが指摘されている。そこで、親になる前の若者にアプローチする子ども虐待予防支援プログラムの開発をめざし検討を重ねている。		
研究テーマ	母親の完全主義と育児困難・ エンパワーされた経験の関係	後藤 亜希 [P.34] 研究キーワード・子育て支援／育児困難／母親／完全主義
本研究の目的は、母親の完全主義と育児困難の関係および、完全主義とエンパワーされた経験との関係を明らかにすることである。完全主義の「完全欲求」、「失敗過敏」、「行動疑念」の3側面が強い母親ほど育児困難が強かった。また、安心できる人達の基で「気持ちの整理」、「本来の自分になれる」、「役立つ感覚が得られた体験」、「新しい考え・視点・対処方法の獲得」の経験をしていない母親は、そうでない母親に比べて完全主義の「完全欲求」、「失敗過敏」、「行動疑念」の3側面が強かった。完全主義の傾向が軽減されるには、母親が安心できる関係性の構築とその人との間で、上記の経験ができるよう支援することが重要であった。		
研究テーマ	子どもを特別養子縁組に託す実母への 支援を確立し、傷ついた女性を支援する	西 真理子 [P.35] 研究キーワード・特別養子縁組／実母支援／自立支援／虐待予防 予期しない妊娠
虐待や貧困等により親から養育を受けられない子どもの養子縁組や里親等による家庭での養育率は非常に低く、文化社会的背景を考慮したうえで認知や受容を変革していく必要がある。そのような中、特別養子縁組に子どもを託す実母への支援はほぼなく、予期しない妊娠を経て出産後すぐに子どもを託すという人生の劇的な変化と、深い傷つきや不安を経験した女性への心理教育を含めた長期的な自立支援を目指し研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	どこでも、すべての人たちの皮膚を 健康に保つ最良なケアを実現	紺家 千津子 [P.36] 研究キーワード・創傷ケア／スキンケア／ストーマケア／リモート看護師支援
高齢者の皮膚は、薄く、弾力性が乏しく、角質水分保持能や皮脂の分泌能などの機能が低下する。このように脆弱な高齢者の皮膚に物理的、化学的な刺激が加わると、褥瘡(じゆくそう。いわゆる「床ずれ」を意味する)、スキン-テア(皮膚裂傷)、失禁関連皮膚炎などの多様な皮膚障害が発生しやすい。さらに、これらの皮膚障害によって、痛みや痒み、時には皮膚障害部が感染し死に至る場合がある。そのため、これらの皮膚障害を予防し、発生時には適切な管理を病院や介護施設、自宅であっても行える体制整備に向けての研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	皮膚を見る、皮膚を護る、 そして皮膚から見る:ポイントオブケア ナーシング技術の開発	峰松 健夫 [P.37] 研究キーワード・看護理工学／スキンケア／創傷治癒 慢性脱水／スキンプロッティング
皮膚の異常は、生命を脅かすのみならず、強い不快感により生活の質(QOL)を低下させ、さらにボディイメージなどを損なうことで精神的苦痛にも直結する。そこで、誰もが簡単に、出血や痛みもなく皮膚の状態を検査できる技術として「スキンプロッティング法」を開発してきました。これまでスキンプロッティング法を用いた皮膚バリア機能の評価、褥瘡(じゆくそう。いわゆる「床ずれ」)の発生予測、かゆみの同定などに応用してきました。さらに近年は、スキンプロッティングを全身状態の評価にも応用できることを見出し、慢性脱水や栄養状態の評価法の開発にも取り組んでいます。		
研究テーマ	リンパ浮腫の客観的評価方法の確立と ケア技術の開発	臺 美佐子 [P.38] 研究キーワード・がん／リンパ浮腫／セルフケア支援
リンパ浮腫は、がん治療後に生じる慢性的な浮腫である。リンパ循環停滞により真皮・皮下組織に過剰な組織間液が貯留することで、治癒が見込めない病態であること、皮膚の急性炎症である蜂窩織炎を繰り返しやすいことが特徴である。ひとびとが、がん治療後も安心・安全に暮らせるために、浮腫をコントロールし、蜂窩織炎を予防するためのケアの継続支援が重要であることから、看護学に求められる役割は大きい。臨床(浮腫ケア相談室や国内の医療施設)・研究(看護理工学手法を用いた様々な研究方法)・教育(がん看護学)・地域フィールド(かほく市や県内の被災地域)・国際的フィールド(世界14カ国)との連携を図り、リンパ浮腫の新たな評価方法の開発、遠隔システムの構築、革新的ケア開発に取り組んでいる。		
研究テーマ	がん患者のアピアランスケアについて	松本 智里 [P.39] 研究キーワード・がん／アピアランスケア／外見変化／ボディイメージ
がん患者は、がんに罹患することや、化学療法・放射線療法といった治療のために、外見が変化することがある。入院期間の短縮やがん治療の進歩によって、がん患者は外来で治療を受けながら社会の中で生活を送っているため、外見の変化は、社会生活を営む上で苦痛になりうる。このような外見の変化に対するケアをアピアランスケアと言う。がん患者の社会復帰や精神的な支援の1つとして、看護師を含む多くの医療職がアピランスケアを正しく理解できるように周知していけるよう活動している。また、リンパ浮腫患者のアピアランスケアの1つとして、靴の開発に関する研究にも着手している。		
研究テーマ	重篤な病態を乗り越えた高齢者の 退院後の療養支援に関する研究	南條 裕子 [P.40] 研究キーワード・クリティカルケア／重症化予防／看護管理／EBP
集中治療領域の発展により、重症患者の生存率は上昇したが、その一方で、長期予後の悪化やQOL低下が問題視されるようになった。集中治療後の運動機能・認知機能・メンタルヘルスの障害はPost intensive care syndrome: PICSと言われ、患者とその家族の退院後のQOL低下の一因とされている。特に、超高齢化社会においては、患者の多くが高齢者であることからPICS発症のリスクは高く、一旦退院しても再入院を繰り返すなどにより、患者やその家族だけでなく、医療経済への負担は大きいものとなっている。そのため、重篤な病態を乗り越えた患者とその家族が、退院後に自律して生活できること(自助力を活かした在宅療法への移行支援、心身のリハビリの継続、異常の早期発見による重症化前の対応＝再入院予防)を目標に、プログラムやシステムの開発に関する研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	子どもに自己の病名を伝えることに 関する乳がん患者の悩み	瀧澤 理穂 [P.41] 研究キーワード・がん／意思決定／子どもへの説明
日本人の2人に1人ががんに罹患すると推計されているが、医療の進歩により、がんの生存率は向上している。がん患者が定期的な通院、仕事や家事を調整し、病気に伴う生活の変化にうまく対処していくためには、他者からの理解と協力が必要となる。そのため患者は、自己の病名をいつ、誰に、どこまで、どのように伝えるかという意思決定に迫られる。特に子育て中のがん患者は、子どもの特性や発達段階に応じて、子どもの自己の病名をどう伝えるかという悩みを抱いている。このようながん患者の意思決定に関する思いや体験を明らかにし、看護支援の在り方について検討することを目的に研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	高齢者施設における看取り期の説明に関する実態調査及び看取りの説明を担う看護職に必要な実践能力と説明者育成のための支援の検討	額 奈々 [P.42] 研究キーワード・高齢者施設／看取り／実践能力
高齢者施設では看取りの説明を看護師が担っている。以前取り組んだ研究では、説明時の困難として、看護師は「看取りの説明には経験が必要であり、誰にでもできるものではないから難しい。」と語り、『看取りの説明を担える看護師の育成』が課題である。さらに、「最終的に看取りに納得できないと看取りの説明時の決断を後悔するため、看取りの説明は重要であり難しい。」という家族の立場を踏まえた語りもあった。看取りとは、看取りの説明から最終的な看取りまで切り離せるものではなく一連のプロセスである。最終的に悔いのない看取りを迎えるには、看取り期に入る説明のタイミングや内容が重要である。		
研究テーマ	シミュレーションで非侵襲的に体内を観察し、看護理工学による新たなケア・機器開発へ	星野 真実 [P.43] 研究キーワード・看護理工学／DTI 予防／バイオメカニクス／異分野融合
わが国において、高齢化や医療の高度化により看護はより社会的に重要なものとなり、その技術の発展が望まれている。私はその中でもシミュレーション技術を用いた工学的手法を用いて看護学の研究を行っている。シミュレーション技術を用いることでコンピュータ上で身体モデルを再現し、非侵襲的に身体内部に加わる力の予測などが行える。この技術を用いて褥瘡(じよくそう)予防のためにベッドに寝たときに身体内部にどのような力が加わっているのか予測できるモデルの開発などに取り組んでいる。		
研究テーマ	・褥瘡のアセスメントおよびケア技術に関する研究 ・高齢者の在宅療養支援に関する研究	北村 言 [P.44] 研究キーワード・高齢者／褥瘡／在宅／遠隔
高齢化率が上昇する中、これまでと同じケア方法では、同等あるいはより質の高いケアを全ての高齢者に提供することは難しくなります。その課題を解決するには、看護ケアも変化していかなくてはなりません。世の中の変化とともに、高齢者を取り巻く環境も大きく変化し、様々なテクノロジーが身近なものになってきています。現在、そして未来の高齢者の生活を支えるため、それらのテクノロジーを活用し、新たな看護技術の開発に取り組んでいます。		
研究テーマ	認知症高齢者における笑いヨガの効果	中道 淳子 [P.45] 研究キーワード・認知症／笑いヨガ／ストレス
笑いヨガは、1995年にインド人医師であるMadan KatariaとヨガインストラクターであるMadhuri Katariaによって考案された。笑いヨガは、笑いのエクササイズとヨガの呼吸法を組み合わせたユニークな健康法で、誰でもユーモアや冗談に頼らずに皆で一斉に笑うという特徴がある。この笑いヨガをグループホームで生活する認知症高齢者が実施することによってどのような効果が得られるのかを明らかにする。		
研究テーマ	在宅心不全療養者へのセルフモニタリング心エコー導入による先駆的な遠隔医療システムのモデリング	大橋 史弥 [P.46] 研究キーワード・心不全／セルフモニタリング／心エコー／遠隔医療AR(Augmented Reality)DX(Digital Transformation)
心不全による再入院率の高さが問題視されている。その要因は、在宅療養中の心機能の悪化兆候を早期発見出来ていないことや、心機能悪化後に出現する症状をモニタリングしていること、在宅における医療者のマンパワー不足にある。そこで、心不全療養者が自身の心機能をタイムリーに把握し、日常生活行動変容をとることで再入院予防に繋がると考えた。これらの条件を満たす、心不全療養者によるセルフモニタリング心エコーの実現可能性について検討を重ねている。		
研究テーマ	認知症高齢者がその人らしく暮らすことができるよう手助けするための研究	近藤 考朗 [P.47] 研究キーワード・認知症／退院支援／意思決定支援
わが国が目指す認知症を有する人との共生社会の実現のためにも、医療者には効果的な退院先選択に関する意思決定支援の実践が求められる。認知症を有する人と家族にとって適切な退院先を調整するためにどのような課題があるのかを明らかにするために、認知症を有する高齢者と家族が退院後の住まいを選択するまでのプロセスや両者に生じるずれの探索を行っている。さらに、地域包括ケア病棟における高齢者の退院に関する実態や退院先に影響する要因を明らかにするための研究に取り組んでいる。		

研究テーマ	団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労場における介護予防プログラム構築	米澤 洋美 [P.48] 研究キーワード・主体的健康づくり／退職後高齢者シルバー人材センター／介護予防
日本の高齢者の就労意欲は諸外国と比較しても高い。少子高齢化が急速に進展し人口が減少する中、経済社会の活力を維持するため、働く意欲がある高年齢者が活躍できる環境の整備を目的として、「高年齢者雇用安定法」の一部が改正され、令和3年4月1日から施行されている。社会の要請でもある高齢者の就業の場において、健康づくりの効果を検証することができれば介護サービスを使わず健康で暮らせる時間が延伸するのではないかと考えアクションリサーチにて検討している。		
研究テーマ	メンタルヘルス不調者の職場復帰に向けた多職種連携効果の測定	室野 奈緒子 [P.49] 研究キーワード・多職種連携／産業保健／職場復帰支援／メンタルヘルス
メンタルヘルス不調による休職は長期化しやすく、再発率も高いため、企業にとって大きな経済的損失をもたらす。不調者の職場復帰を促進するためには、適切な支援が不可欠であり、その中でも産業医、産業看護職、人事労務担当者など、職場内の多職種連携が重要な役割を果たす。職場復帰支援に携わる職種間の連携を強化することで、労働者への質の高いメンタルヘルスケアの提供と、円滑な職場復帰が可能となる。そこで、職場内の多職種連携に焦点を当て、その実態と効果を明らかにすることを目指し、研究に取り組んでいる。		
研究テーマ	福祉型障害児入所施設に配属された行政保健師が行う知的障害児に対する支援技術	嶋 雅奈恵 [P.50] 研究キーワード・地域看護／公衆衛生看護学／児童虐待
2023年4月に「こども家庭庁」が新設され児童のいる家庭のみならず施設で生活する児童も等しく健やかに成長するための支援が求められている。障害児に対して、保護、日常生活の指導及び知識技能の支援を行う児童福祉法に基づく入所施設に「福祉型障害児入所施設」がある。児童虐待により児童相談所を経て福祉型障害児施設に入所となる児童も少なくなく、中でも障害児の中でも知的障害児が多いのが特徴である。そこで、医療受診やこころの相談で苦慮した申請者の行政保健師としての経験から、福祉型障害児入所施設での行政保健師の知的障害児への支援技術の実態を明らかにし、福祉型障害児入所施設での知的障害児に求められている支援を検討する基礎資料とする。		
研究テーマ	訪問看護師を中心とした「能登地区看取り推進プログラム」	中敷 えりか [P.51] 研究キーワード・訪問看護師／看取り／被災後
自宅で最期を迎えたいと考える人は多いが、医療・在宅支援などの体制不足、家族の負担、経済的な問題など、多くの課題がある。1年に2度大規模自然災害を経験した能登地区のような地域の訪問看護師を中心とした在宅看取り推進の実態は十分に明らかにされていない。そこで、令和6年に発生した能登半島地震と奥能登豪雨以降の能登地区における在宅看取りの現状を把握し、地域の特性に適した訪問看護師を中心とした在宅看取り推進プログラムの構築を目指す。		
研究テーマ	・家族介護者の健康支援 ・医療的ケア児の養育者への育児支援 ・介護予防	桜井 志保美 [P.52] 研究キーワード・介護者／心血管疾患リスクファクター／睡眠／介護予防医療的ケア／育児
認知症高齢者の家族介護者のほとんどが睡眠の不满を経験していることが知られている。これまでに、睡眠に問題を抱える介護者が、非介護者に比べて高血圧リスクが高いことを明らかにし、心血管疾患発症予防のための睡眠支援について提案している。国内には1万を超える訪問看護ステーションがあるが、小児訪問看護に特化した訪問看護ステーションは43施設のみであった。そこで、日本国内のどこに住んでいても、医療的ケア児とその家族が自宅で一緒に安心して暮らせる社会の実現を目指し、訪問看護師による育児支援について取り組んでいる。		
研究テーマ	病棟看護師の終末期がん患者に対する退院支援の実践自己評価と関連要因の検討	山路 朋子 [P.53] 研究キーワード・病棟看護師／終末期がん／退院支援
わが国では在院日数の短縮化や病床数削減に取り組む一方、在宅医療の充実や、医療上のニーズや日常生活に課題を抱える患者が在宅生活に移行できるよう推進されている。また、高齢化に伴いがん患者も増加することが予測される。近年では自宅での終末期医療や最期を希望する国民のニーズが明らかとなっている。このようなニーズに答えるためには、早期からの退院支援が重要となってくる。		

研究テーマ	高齢者の口腔機能に関する研究	牛村 春奈 [P.54] 研究キーワード・在宅看護／パーキンソン病／口腔機能
食べることは単に栄養をとるだけでなく、喜びを感じたり、人と一緒に食べるにより仲が深めたりする生きる上で欠かせないことである。しかし、人生の楽しみである食事が困難となる場合がある。その原因の一つには加齢や病気による口の機能の衰えがあり、口の機能が衰えると、食べられなくなり心身機能が低下する。そこで、口の機能の低下に早く気付いて予防することで、食べることを諦めなくて良い社会にしたいと考えている。		
研究テーマ	・他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰における看護師の役割 ・日本における司法精神医学・司法精神看護学教育の方向性 ・身体疾患を併発した精神疾患患者の治療・ケアに影響を及ぼす要因	美濃 由紀子 [P.55] 研究キーワード・司法精神看護／医療観察法／精神科身体合併症看護
わが国では、重大な他害行為を行った精神障がい者の医療は、従来、専門システムの不備から極めて劣悪な状況下にありましたが、「医療観察法」の施行によって飛躍的な改善を遂げました。同法の対象者は、病状の重篤さや複課題の深刻さから一般精神科医療の枠での治療が非常に困難でしたが、治療契約・多職種連携等の条件が整備されたことで、早期に社会復帰ができるようになりました。特に看護師が担う役割は多岐にわたることから、司法精神医療で行われているケアの実態を明らかにすることを通じた啓発と司法精神看護学教育の充実は必須課題であると考えています。		
研究テーマ	知的・発達障害をもつ方の農福連携に関する研究	大江 真吾 [P.56] 研究キーワード・自閉スペクトラム症／発達障害／農福連携
わが国では、発達障害者支援法の施行により、発達障害者（児）に対して障害特性やライフステージに応じた支援が行われている。知的・発達障害をもつ人の社会参加の一つとして、就労がある。農福連携を推進していくことが国を挙げての動きであるが、順調には進んでいない状況にある。その理由にはいくつかあるが、知的・発達障害をもつ人がうまく働くことができる環境づくりが必要であると考える。現在は知的・発達障害をもつ方が適切に機械操作ができるように研究を進めている。		
研究テーマ	オンラインによる「包括的事例検討会」の方法論に関する研究	美濃 由紀子 [P.55] 大江 真吾 [P.56] 高濱 圭子 [P.57] 研究キーワード・事例検討会／継続学習／オンライン／アルコール依存症
事例検討会は、看護職を含む援助職の現任教育における実践能力の向上を目指す継続学習として位置づけられてきた。本研究メンバーは、2002年より宮本が提唱する「包括的事例検討会」を実践し、2005年から方法論の確立を目指した検討を重ねてきた。これまでの研究では、事例提供者および参加者の体験の構造化を試み、集団力動が及ぼす影響、参加者・提供者の感情体験等を明らかにすることで運営面での工夫を重ね、その効果を検証してきた。しかし、2020年以降、COVID-19のパンデミックの影響によって、オンラインで開催している。2021年に実施した「看護領域における事例検討会の効果と課題に関する文献の検討（河合）」によると、パンデミック以前からオンラインツールを活用した事例検討会に関する研究報告はなされており、対面開催と同様の学習効果がもたらされることや、感染対策のみならず、開催上の利点が複数存在することが示されていた。しかしながら、看護の分野において事例検討会は、未だ継続運営の困難さ、方法論の吟味の不十分さが課題とされていることも明らかとなった。このような現状を踏まえ、オンラインによる「包括的事例検討会」の学習効果と利点・課題点を明らかにし、先行研究で明らかにされている学習効果比較検討することを通じて、課題点の解決方法を考察することを本研究の目的とする。本研究の実施によって、「包括的事例検討会」においてオンラインツールの効果的活用と運営のための示唆を得ることができる。		
研究テーマ	・看護理工学に基づく、高齢者を守る包括的ケアシステムの構築 ・マイクロバイオーム（細菌のパターン）、スキنبロツティング、AIを駆使した皮膚・創傷ケア技術の開発	大貝 和裕 [P.58] 研究キーワード・看護理工学(bio-engineering nursing)／マイクロバイオーム／褥瘡／人工知能(AI)
少子高齢化に伴い、社会保障のメインステージは病院から在宅に変わりつつある。体調は悪いが病院にはかからない、という高齢者も多い。2023年4月に石川県立看護大学に「共同研究講座 看護理工学」が新設され、上記のような問題を解決するために、地域に住む高齢者が健康状態を自分で、いつでも、どこでも調べることのできる技術の開発研究を行う。さらに、結果を早期発見やケアにつなげることを見据え、「高齢者を守る包括的ケアシステム」を確立する。		

研究テーマ	・スキنبロツティング法を用いた健康管理システムの構築に関する研究 ・スキنبロツティング法による健康状態や栄養状態の評価法の開発に関する研究	長谷川 陽子 [P.59] 研究キーワード・看護理工学／栄養評価／在宅栄養管理／スキنبロツティング
地域在住者が健康で長生きできる社会の実現を目指し、「栄養学」と「看護理工学」を融合させ、“痛くない、簡便で、リアルタイムな新たな健康管理システム”の開発を目指している。具体的には、スキنبロツティングというパッチテストのような非侵襲的な生体検査法を用いて、地域在住者が自分で自身の栄養状態や健康状態を評価できるセルフモニタリングツールを開発し、それを活用する管理システムの構築に取り組んでいる。		
研究テーマ	センサ技術・ICTを活用したモニタリングやAIによる新たなロボティックホームケアの確立	松本 勝 [P.60] 研究キーワード・ロボティックチェア／ウェルビーイング／シーティング／遠隔支援／超音波検査(エコー)
医療的ニーズをもちながらも在宅で療養する高齢者が寝たきりや座りきりの問題を回避しながら安全で快適な生活を送るためにはセンサ技術・ICTを活用したモニタリングや異常を早期発見するAIなどによる新しいホームケアシステムの確立が欠かせません。そこで共同研究講座ウェルビーイング看護学では、産学連携により在宅療養者の幸福寿命延伸、ウェルビーイングを実現するための医療機器・福祉用具の開発と実装を行っています。		
研究テーマ	看護理工学と理学療法学を融合し、幸福寿命の延伸を目指したロボティックチェアの開発	幅 大二郎 [P.61] 研究キーワード・ウェルビーイング／ロボティックチェア／看護理工学／理学療法学／低周波振動
在宅で療養する高齢者は日中車椅子に移乗して寝たきりを予防していますが、本来は「移動手段」の車椅子であるため長時間の座位は姿勢を崩して嚥下が困難になり、さらに褥瘡や下腿浮腫を引き起こすといった問題があります。本共同研究講座ではこの「移動手段」の車椅子を食事や排泄、褥瘡や浮腫予防などトータルで生活を支援する「生活の場に適した」車椅子に進化させることで、在宅療養者の幸福寿命の延伸を目指します。		
研究テーマ	災害時に国民を守る看護提供体制・組織システムを探求する	木田 亮平 [P.62] 研究キーワード・災害看護／防災教育／組織マネジメント／ソーシャル・キャピタル／持続的な看護提供体制／地理情報システム
災害が多発する日本において、持続的に医療サービスを提供し国民の健康・生活をまもるためには、災害に強い看護提供体制やシステムの構築がカギとなる。災害サイクル(準備期、超急性期、急性期、慢性期・復興期)において重要な役割を担う看護職のチカラが最大限発揮され、国民の健康・生活をまもるための看護提供体制やシステムづくりについて探求している。		
研究テーマ	災害時の避難生活における生活環境の向上を目指す研究(災害トイレの整備)	窪田 直美 [P.63] 研究キーワード・災害／避難生活／生活環境／災害トイレ
災害発生後の避難生活において、ライフライン停止による災害トイレ問題は健康障害に直結する。現在「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」があるが、要介護高齢者施設での災害トイレの整備は十分でない。能登半島地震を経験した要介護高齢者施設の看護職等が災害超急性期に「どのように工夫して災害トイレ対応をしたか」「より良く対応するための課題は何か」について実態を明らかにしたい。その結果より、全国の要介護高齢者施設における災害トイレの備えの実態を明らかにし、大きな災害の備えの一助としたい。		
研究テーマ	介護施設における災害時受け入れ事前準備に関する実態調査	登谷 美知子 [P.64] 研究キーワード・介護施設／災害時受け入れ／事前準備
災害が発生した場合、介護施設は特に配慮を要する被災した高齢者を受け入れ、避難生活中における生活機能の低下等の防止を図る等その役割は重要である。しかし受け入れについては、福祉支援体制の強化に関するガイドラインや運営に関する準備・連携への提案など記されたものがほとんどであり、具体的かつ実用的な事前準備については示されていない。そこで今回、令和6年能登半島地震発生後に被災地外の介護施設の被災者受け入れについて実態調査を行いどのような準備が必要であったかを明らかにする。		

キーワード検索

A	AI	58
	ACP	45
	ALS	24
	AR(Augmented Reality)	46
	AYA(Adolescent and Young Adult)世代	29
B	bio-engineering nursing	58
	Bone biology	15
C	Cancer	41
	child-rearing support	34
	Chronobiology	15
D	Decision making	41
	Dialogue	41
	DTI予防	43
	DX(Digital Transformation)	08・33・46
E	EBP:Evidence-Based Practice	40
	environmental chemicals	19
	essential trace elements	19
F	feelings of difficulty with child rearing	34
	fertility	19
G	GID	42
	GnRH パルスジェネレーター	17
H	HPV(ヒトパピローマウイルス)	16
	HPV関連疾患	16
L	LGBTQ+	42
M	Molecular Pharmacology	15
	mothers	34
	MUA	17
	Myasthenia Gravis	18
N	Neuroimmunology	18
P	perfectionism	34
Q	QOL	45
S	SDGs	21
	Skeletal muscle	18
あ	愛着形成・修復	32
	アクションリサーチ	09
	アピアランスケア	39
	アルコール依存症	57
い	育児困難	34
	育児支援	29
	育児不安	31
	意思決定	41
	意思決定支援	45・47
	異分野融合	43
	医療工学	14
	医療コミュニケーション	28
	医療的ケア育児	52
う	ウェルビーイング	60・61
	運動	09

え	エコー	38・46・60
	遠隔・遠隔支援	38・44・60
お	応用臨床心理学	11
	親になること	33
か	外見変化	39
	介護施設	64
	介護者	52
	介護予防	48
	家族学	32
	家族のレジリエンス	32
	がん	29・38・39・41
	環境汚染物質の脳神経系・内分泌系への影響	19
	看護管理者	25
	看護技術	23
	看護教育	23
	看護実践能力	25
	看護提供システム	20
	看護デザイン	12
	看護の質改善	40
	看護のもののづくり	08
	看護理工学	37・43・46・58・59・61
	感情活用	55
	感情調整	32
	完全主義	34
き	希少・難治性疾患	24
	傷(キズ)	08
	基礎看護技術	22
	虐待予防	35
	キャリア	20
く	グリーフケア	27
	クリティカルケア	40
け	健康教育	26
	健康づくり	48
こ	口腔機能	54
	公衆衛生看護学	50
	高齢者	44
	高齢者救急	42
	高齢者施設	42
	子育て	33
	子育て支援	34
	骨格筋	18
	骨代謝学	15
	子ども虐待予防	33
	コミュニティ・エンバワメント	09
さ	災害	63
	災害看護	62
	災害時受け入れ	64
	災害トイレ	63
	災害ボランティア	21
	在宅・在宅看護	44・54
	在宅療養移行支援	20
	産業保健	49
	産後	30
し	シーティング	60
	時間生物学	15
	子宮頸がん	16
	思春期のメンタルヘルス	56
	自助・互助	24

し	視床下部	17
	次世代育成教育	33
	事前準備	64
	持続的な看護提供体制	62
	実母支援	35
	児童虐待	50
	自閉スペクトラム障害	56
	司法精神看護	55
	重症化予防	40
	重症筋無力症	18
	終末期	53
	循環器看護	22
	障害児施設	50
	褥瘡	44・58
	褥瘡ケア	36
	褥瘡再発予防	46
	職場復帰支援	49
	女性	30
	自立支援	35
	シルバー人材センター	48
	事例検討会	57
	神経免疫学	18
	心血管疾患リスクファクター	52
	人工知能	58
	身体活動	28
	心不全	46
	心理学	11
	診療看護師(NP)	20
す	睡眠	52
	スキンケア	36・37・38
	ストーマケア	36
せ	生活環境	63
	清潔ケア	23
	生殖中枢	17
	精神科身体合併症看護	55
	生命倫理学	10
	西洋中世写本研究	13
	生理人類学	12
	セクシュアリティ	29
	セルフヘルプグループ支援	27
そ	ソーシャル・キャピタル	62
	創傷治癒	37
	組織マネジメント	62
	組織開発	20
た	退院支援	47・53
	対話	41
	多職種連携	49
	団塊世代男性	48
ち	地域看護	50
	地域の出生力に関する研究	19
	中堅看護師	25
	中世イングランド書物文化	13
	中世英文学	13
	超音波検査	60
	地理情報システム	62
て	低周波振動	61
	電気生理学	17
	転倒	21
	転倒リスク評価	14

と	当事者	24
	特別養子縁組	35
	トランスジェンダー	42
に	西田幾多郎	10
	日本哲学	10
	尿失禁	30
	人間工学	12
	妊娠婦	31
	妊娠前	26
	認知科学	11
	認知症・認知症高齢者	37・45・47
	妊婦歯科健診	31
の	脳科学	11
	農福連携	56
は	パーキンソン病	54
	バイオメカニクス	43
	発達障害	56
	母親	34
	パフォーマンス評価	21
ひ	ピアサポート	24
	被災後	51
	必須微量元素の生態学的意義に関する研究	19
	避難生活	63
	病棟看護師	53
ふ	プレコンセプションケア	16・26・28
	プログラム開発	26
	分子薬理学	15
へ	ヘルスリテラシー	28
ほ	防災教育	62
	訪問看護師	51
	保健行動	28
	保健師活動	48
	歩行解析	14
	ボディイメージ	39
ま	マイクロバイオーーム	58
	マインドフルネス	32
	慢性脱水	37
み	看取り	42・51
め	メンタルヘルス	49
よ	養育態度	32
	予期しない妊娠	35
り	理学療法学	61
	リモート支援	36
	流産・死産・新生児死亡	27
	臨床栄養学	59
	臨床判断	21
	リンパ浮腫	38
る	ループリック	21
ろ	ロボティックチェア	60・61
わ	ワクチン	16



POINT OF FUTURE

石川県立看護大学が見る4つの未来

本学は以下の4点を、これからの看護職、看護研究者を育成するために、特に重要と考え、強化を進めています。本学ならではの取り組みにご期待ください。



防災や災害時の対応に関する教育・研究の充実

災害や非常時における看護職の役割、ニーズはますます高まっています。防災に関する教育、災害現場で役立つ幅広い知識の獲得、被災時の看護モデルの実証的研究などを通して、災害に強い看護人材の育成を進めています。



国際的な視点での看護

ブリガム・ヤング大学(アメリカ)、ムハマディヤ工科保健大学(インドネシア)等で海外看護研修を予定しています。また、海外の看護系教員の招聘や留学生の研修受け入れなど、国際的な視点を育成しています。



DXの推進

これまでの紙の教科書に替えて電子教科書を導入。さらに実習記録の電子化、VR、AR、MRなど最新のシステムやツールを活用したシミュレーション教育の導入を通して、教育のデジタル化を推進しています。



産学連携の推進

企業と連携し、新たな技術開発と臨床現場での活用を目指しています。また、学生が最先端の設備や技術を体験することで次世代を担う学生を育成しています。

石川県立看護大学の6つの魅力

なりたい自分をサポートする環境が整っています。

1 将来の 多様な選択肢

看護師の受験資格に加えて、保健師の受験資格を取得できるカリキュラムを実施。2026年度カリキュラムから変更の予定。

2 学生一人あたりの 教員数

学生一人あたりの教員数は北陸三県の看護系大学では最大級。複数担任制を採用し、教員と学生の距離が近く相談しやすい環境です。

3 手厚い進路支援

4年生には学生10名程度に1名の進路アドバイザーを配置し、進路と国家試験をきめ細かくサポートしています。

4 大学院での キャリアアップ

卒業後は石川県立看護大学大学院へ進む道が開かれています。大学院で探究を深め、修了後は臨床の現場で働くことはもちろん、教育や研究の世界で活躍する未来もあります。

5 石川県内に広がる 多様な実習先

実践の場での教育を重視し、入学早期から体験学習を導入しています。医療機関、保育施設、福祉施設など70以上の実習施設を確保しています。

6 学びに適した 立地と環境

本学のあるかほく市は大手出版社の「住みよさランキング」で上位にランクされ、自然豊かな環境にありながら、車・電車での金沢へのアクセスも便利です。

ACCESS



公共の交通機関でお越しの方

- JR高松駅から市営バスに乗り「看護大学・看護大学前」下車／約5分
- JR金沢駅からIRいしかわ鉄道・JR七尾線で、高松駅下車／約30分
- JR七尾駅から七尾線で高松駅下車／約50分

お車でのお越しの方

- 金沢森本ICからのと里山海道へ、県立看護大IC下車／約25分
- 小松空港から北陸自動車道小松ICへ、金沢森本ICで降り、のと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間
- のと里山空港からのと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間

主な沿革

平成12(2000)年4月	石川県立看護大学開学
平成16(2004)年4月	大学院看護学研究科 修士(現在 博士前期)課程を開設
平成18(2006)年4月	大学院看護学研究科博士後期課程開設

平成23(2011)年4月	公立大学法人化
平成30(2018)年4月	大学院看護学研究科 博士前期課程に助産師養成課程を開設

石川県立看護大学
研究者情報・研究シーズ集

令和7年(2025)7月 発行

監修：真田弘美・垣花渉
編集：曾山小織・中嶋優太
発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
TEL 076-281-8300 FAX 076-281-8319
印刷：HAYASHI株式会社